
IV 第三群調査（高校生意識調査）

IV-1 最終アウトカム関連の集計・分析

1. 結婚意欲と子どもを持つことに対する希望

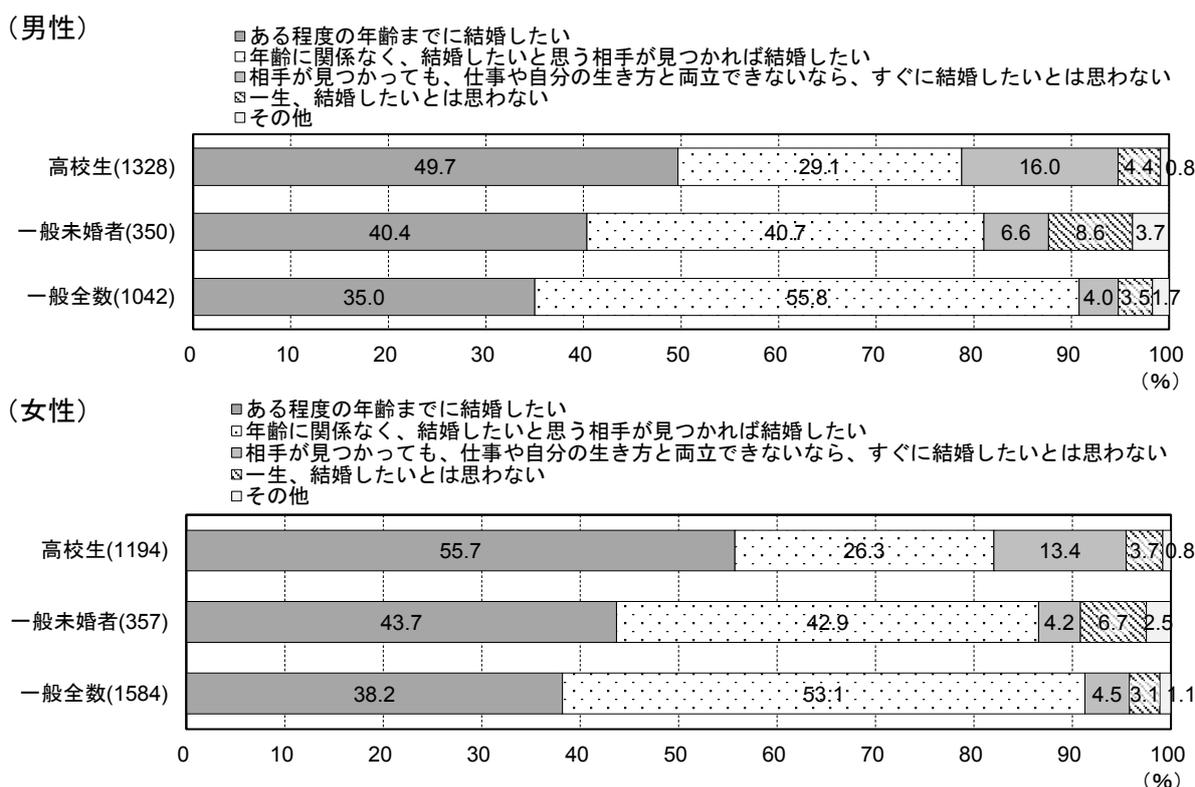
(1) 結婚意欲

(高校生はライフコースと結婚を比較考量する)

高校生の結婚についての考え方は、「ある程度の年齢までに結婚したい」という年齢志向が男子50%、女子56%であり、男女とも一般未婚者と一般調査の全数集計を上回る(図IV-1)。

一般調査とは選択肢の表現がやや異なるものの、「相手が見つかったら、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいと思わない」が男子16%、女子13%であり、一般未婚者と一般全数集計の3倍程度になっている。結婚の考え方に関する高校生の特徴は、20-49歳を対象とした一般調査と比較して、結婚意欲の強い者と、ライフコースの実現志向が強く、結婚とライフコースとを比較考量する者が多くなっている。

図IV-1 結婚についての考え(単数)



(注) 1. それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

2. 「相手が見つかったら、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいと思わない」は、一般調査では「相手が見つかったら、自分結婚するつもりはない(なかった)」と表現されている

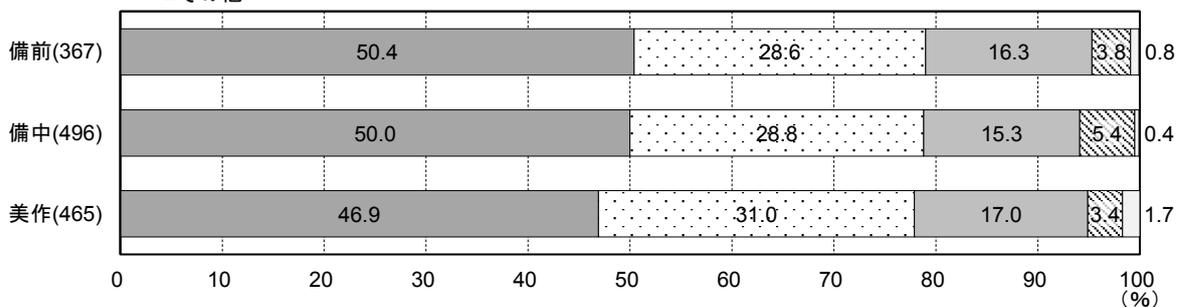
(県民局別の集計)

高校生の結婚の考え方には、県民局別で差異はみられない (図IV-2)。

図IV-2 県民局別にみた結婚についての考え (単数)

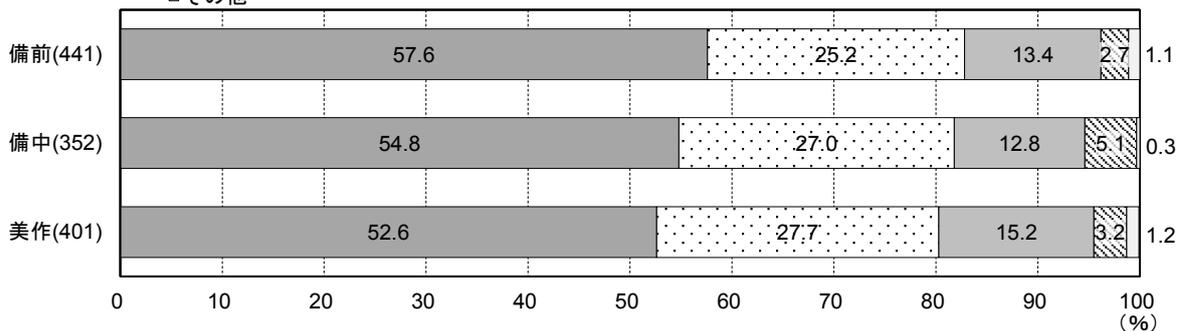
(男子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨ 相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩ 一生、結婚したいとは思わない
- その他



(女子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨ 相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩ 一生、結婚したいとは思わない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0566	0.0577
P値	0.3854	0.4392

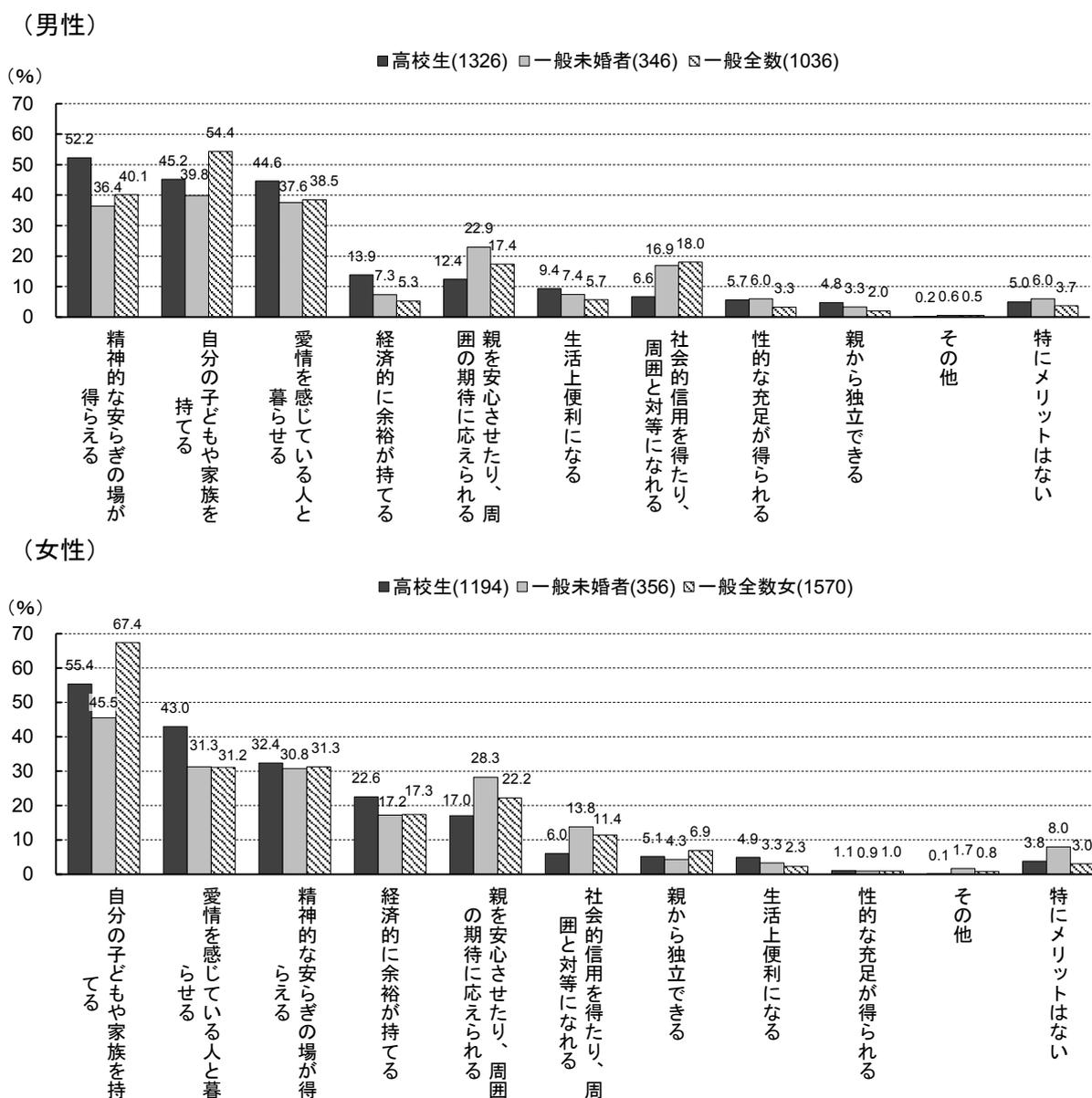
(2) 結婚のメリット・デメリット

①結婚のメリット

結婚がもたらすメリットに対する高校生の回答は、一般未婚者や一般全数とおおよそ同じ傾向であるものの、回答が多いメリットの中では、男子では「精神的な安らぎの場が得られる」(52%)、女子では「愛情を感じている人と暮らせる」(43%)などが一般に比べてもさらに多くなっている(図IV-3)。反対に、「自分の子どもや家族を持てる」は、一般全数に対して回答が少なく、男女に共通した特徴になっている。

また、「親を安心させたり、周囲の期待に応えられる」と「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」は一般に対して回答が少なく、「経済的に余裕がもてる」は一般より多くなっている。

図IV-3 結婚のメリット(複数)

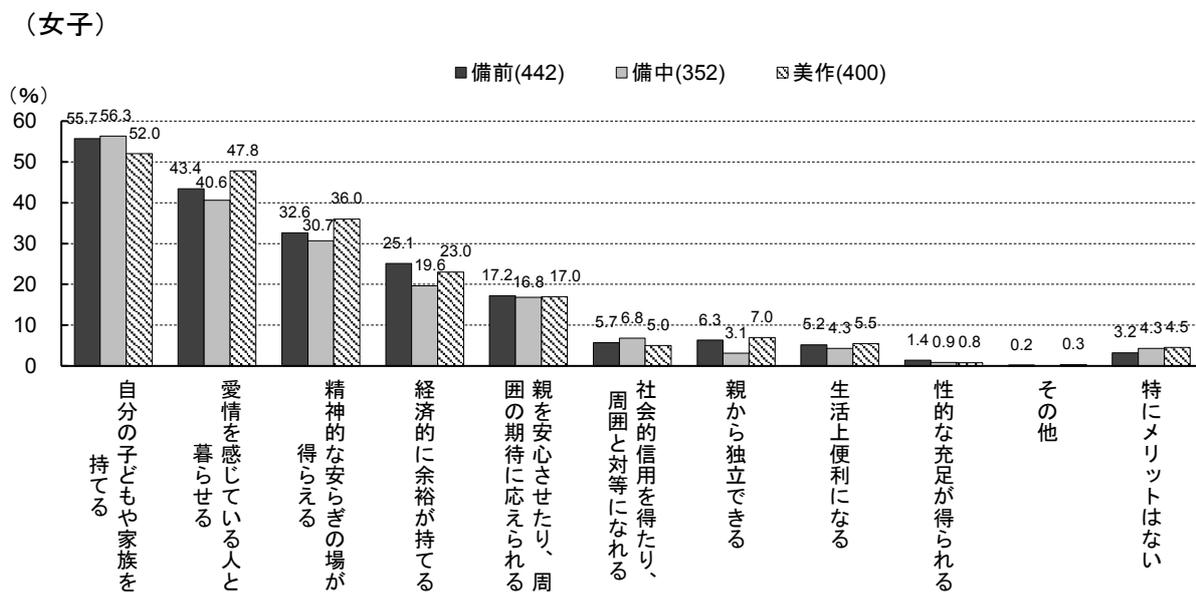
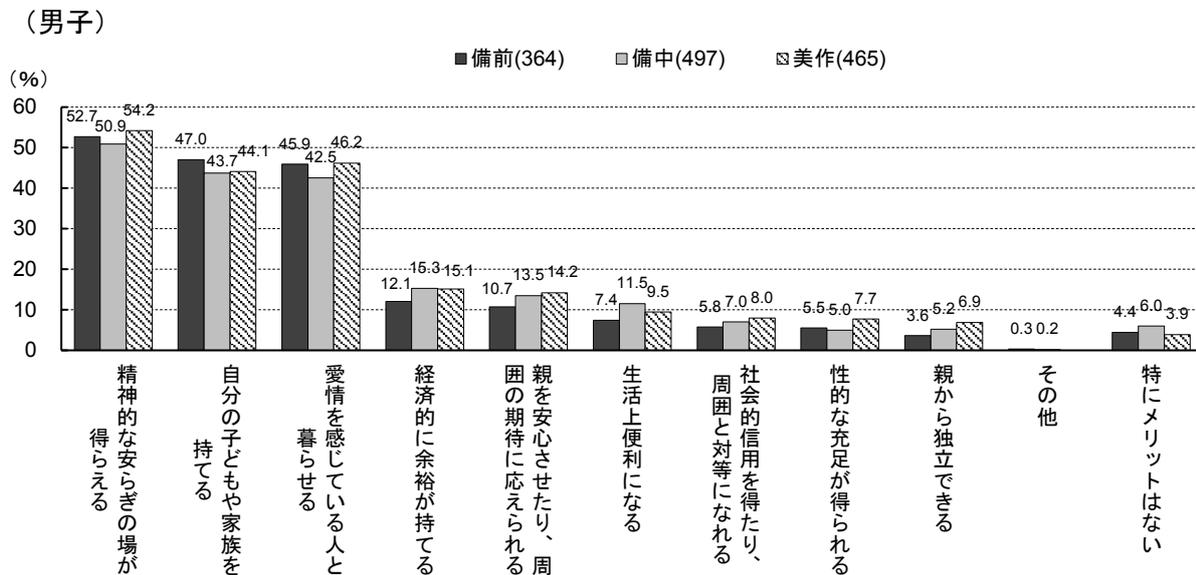


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

県民局別にみた結婚のメリットは、美作の男子で「親を安心させたり、周囲の期待に応えらえる」「親から独立できる」が多いといった特徴がみられるものの、全体として地域の差はみられない(図IV-4)。

図IV-4 県民局別にみた結婚のメリット(複数)

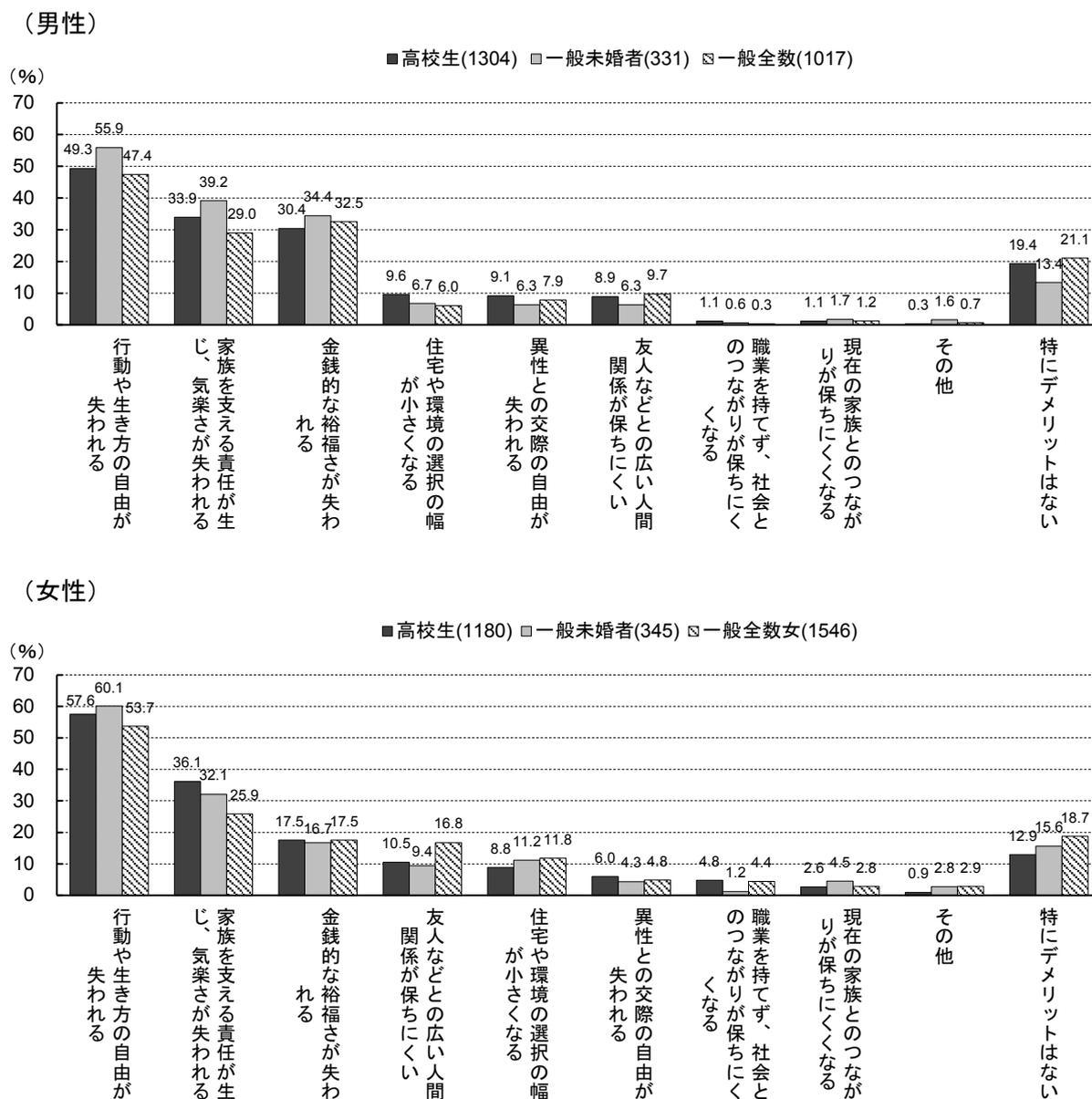


②結婚のデメリット

結婚のデメリットに対する回答の傾向も一般とおおよそ同様であり、男女とも「行動や生き方の自由が失われる」や「家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる」等の回答が多くなっている(図IV-5)。

高校生の特徴をみると、女子の「家族を支える責任が生じ、気楽さが失われる」が、一般全数だけでなく一般未婚者よりも多くなっている。

図IV-5 結婚のデメリット(複数)



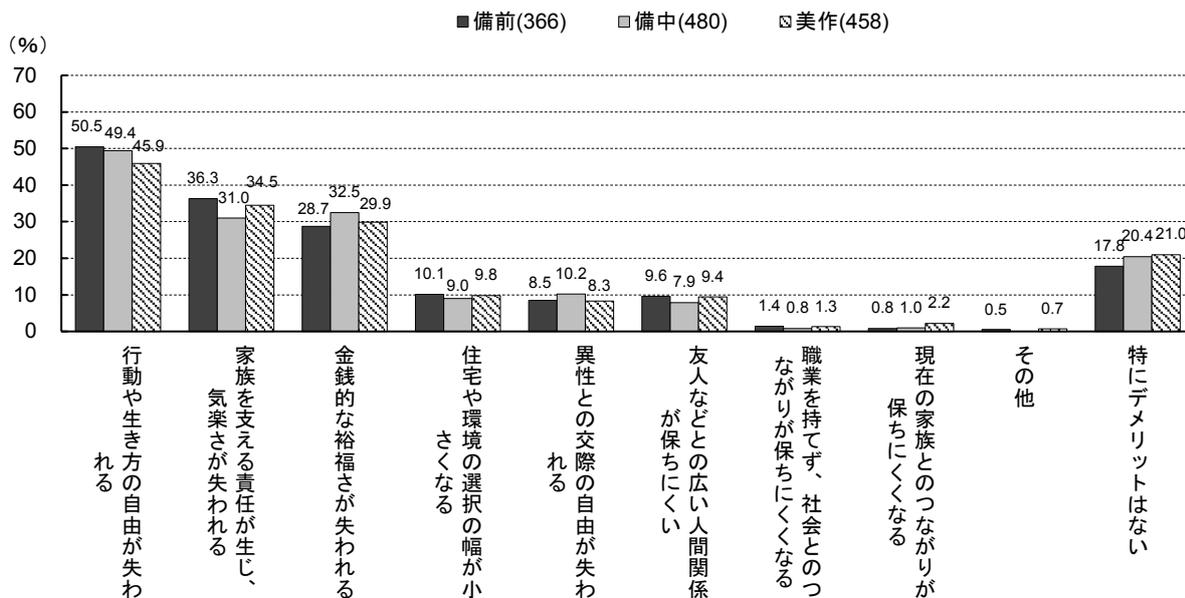
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

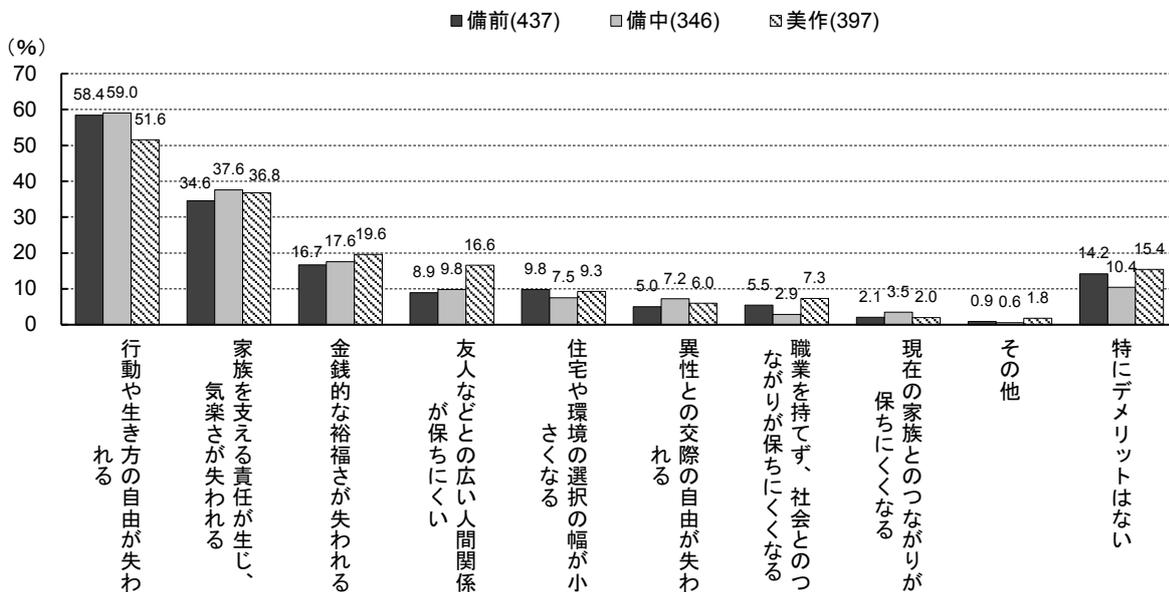
結婚のメリットを県民局別に集計すると、美作の女子で「友人などとの広い人間関係が保ちにくい」が他地域に比べて多く、「行動や生き方の自由が失われる」が少なくなっている。その他では大きな差異はみられない(図IV-6)。

図IV-6 県民局別にみた結婚のデメリット(複数)

(男子)



(女子)



(3) 理想の結婚年齢

①理想の結婚年齢の有無

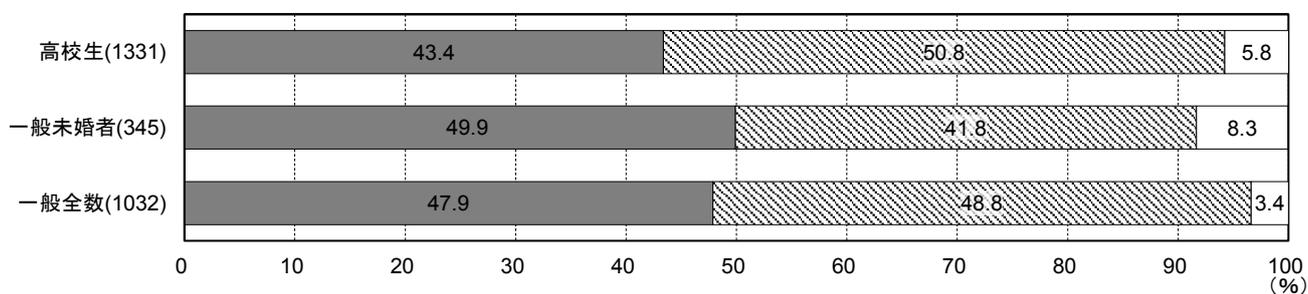
「理想の結婚年齢がある」という高校生は、男子では43%、女子では60%であった(図IV-7)。男女とも一般未婚者や一般全数に比べて理想の結婚年齢を持つ者の割合が少ない傾向がみられる。

一方、男子よりも女子で「理想の結婚年齢がある」が多くなっている点は、一般未婚者や一般全数と同様である。

図IV-7 理想の結婚年齢の有無(単数)

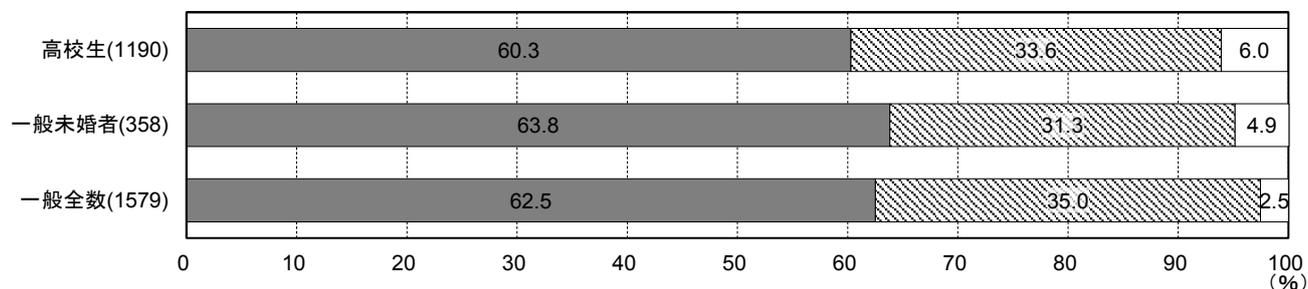
(男性)

■おおよその理想がある(理想があった) ▨特に理想はない(理想はなかった) □結婚するつもりはない(結婚するつもりはなかった)



(女性)

■おおよその理想がある(理想があった) ▨特に理想はない(理想はなかった) □結婚するつもりはない(結婚するつもりはなかった)



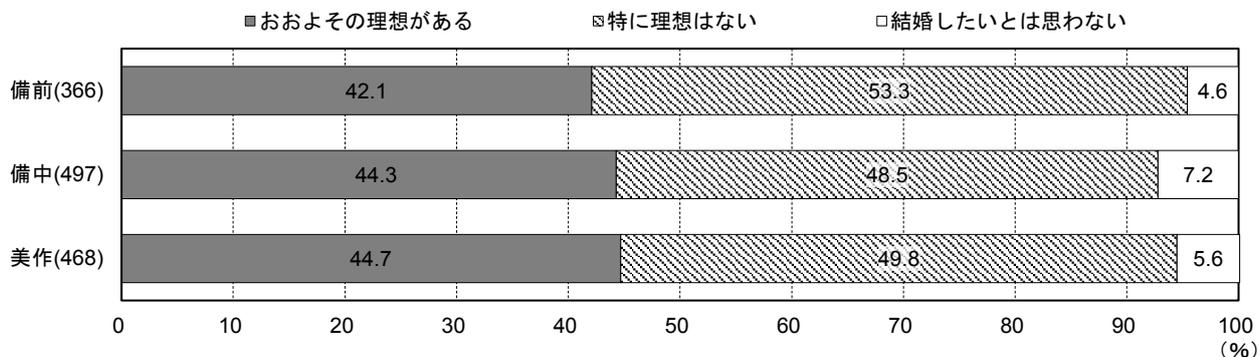
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

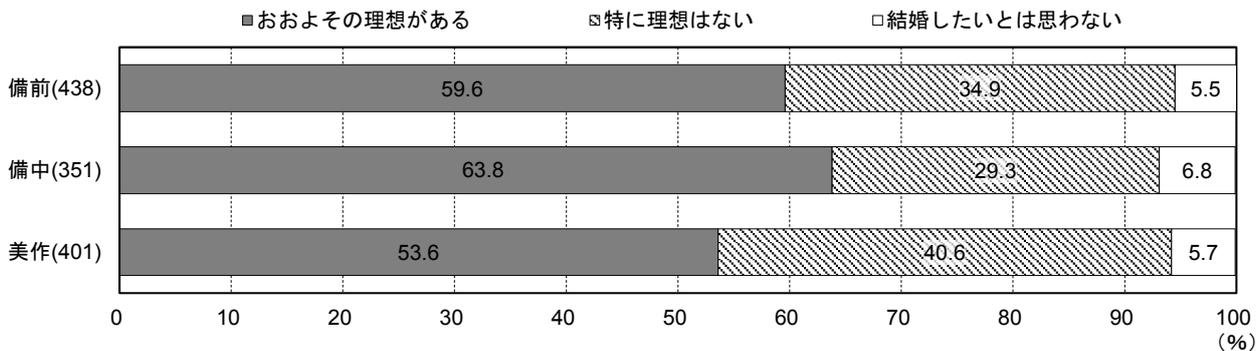
理想の結婚年齢の有無について男子では県民局別の差異はみられないものの、女子では美作の「おおよその理想がある」が他地域に比べて少なくなっている (図IV-8)。

図IV-8 県民局別にみた理想の結婚年齢の有無 (単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0384	0.0675
P値	0.4171	0.0284

②理想の結婚年齢

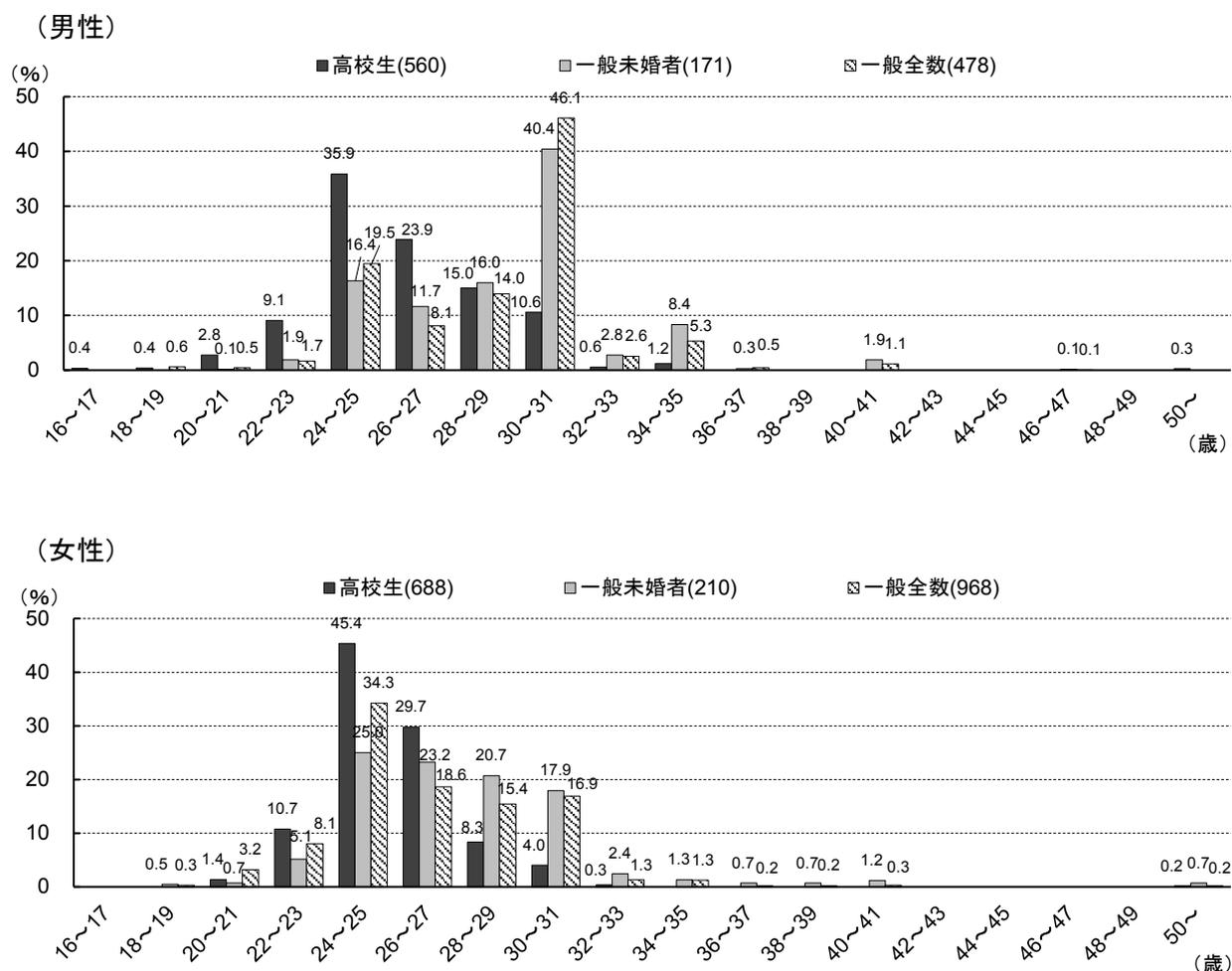
(高校生男子には二つのピークがみられない)

高校生の理想の結婚年齢の分布は一般未婚者や一般全数と明らかに異なる。一般未婚者と一般全数の男性では 24-25 歳と 30-31 歳の二つのピークがみられるのに対して、高校生男子では 24-25 歳が最頻値となって年齢が高くなるにつれて緩やかに回答者が減っていく (図IV-9)。

一方、高校生女子と一般調査と比較すると、24-25 歳が最頻値であることは同じであるものの、高校生は 24-25 歳と 26-27 歳で 75%を占める。

高校生の理想の結婚年齢の平均値を求めると、男子 26.1 歳、女子 25.6 歳と算出された。男子と女子の差が小さいことが高校生の特徴であり、これは主に男子の理想年齢が若いことによる。

図IV-9 理想の結婚年齢 (結婚年齢に理想がある者、数量)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数 (二年生・三年生)、20-49 歳未婚者人口、20-49 歳人口によるウェイトバック集計である

最終アウトカム関連の集計・分析

高校生を対象に理想の結婚年齢の平均値を求めると、男子 26.1 歳、女子 25.6 歳と算出された（表Ⅳ－1）。一般未婚者との差は男子 3.4 歳、女子 2.3 歳、一般全数との比較では男子 2.8 歳、女子 0.9 歳である。

男子と女子の差が小さいことも高校生の特徴であり、一般未婚者が 1.6 歳（男性－女性）、一般全数 2.4 歳であるのに対して高校生は 0.5 歳である。これは主に、男性の理想年齢が若いことによる。

表Ⅳ－1 理想の結婚年齢の平均値・中央値（結婚年齢に理想がある者）

（歳）

項目	高校生			一般未婚者			一般全数			
	標本数	平均値	中央値	標本数	平均値	中央値	標本数	平均値	中央値	
男	560	26.1	-	171	29.5	-	478	28.9	-	
女	688	25.6	-	210	27.9	-	968	26.5	-	
男	備前	143	28.9	30	47	29.1	30	96	28.7	30
	備中	159	28.9	30	55	30.0	30	104	28.7	30
	美作	176	28.3	28	69	29.2	28	107	27.6	28
女	備前	308	26.6	26	80	28.2	28	228	26.3	26
	備中	315	26.4	26	79	27.6	27	236	26.3	25
	美作	345	26.2	26	51	26.9	27	294	26.1	25

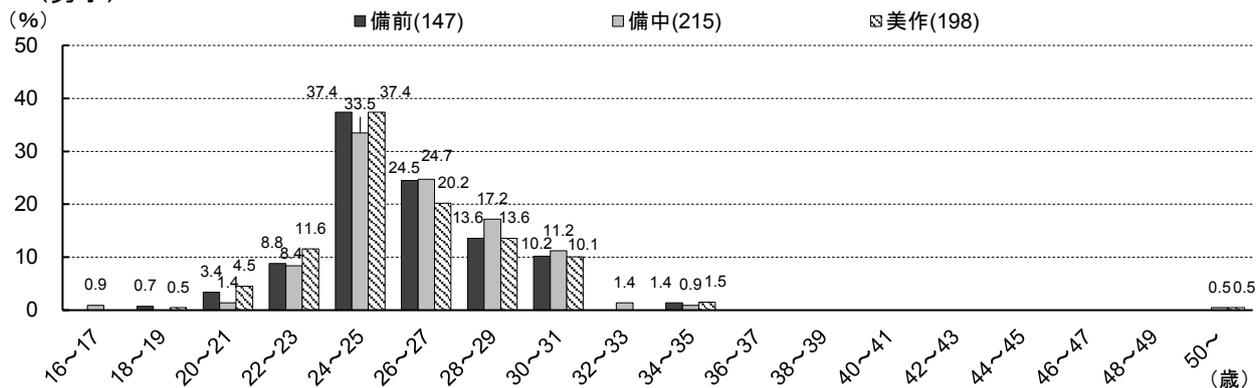
（注）それぞれ、県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49 歳未婚者人口、20-49 歳人口によるウエイトバック集計である

（県民局別の集計）

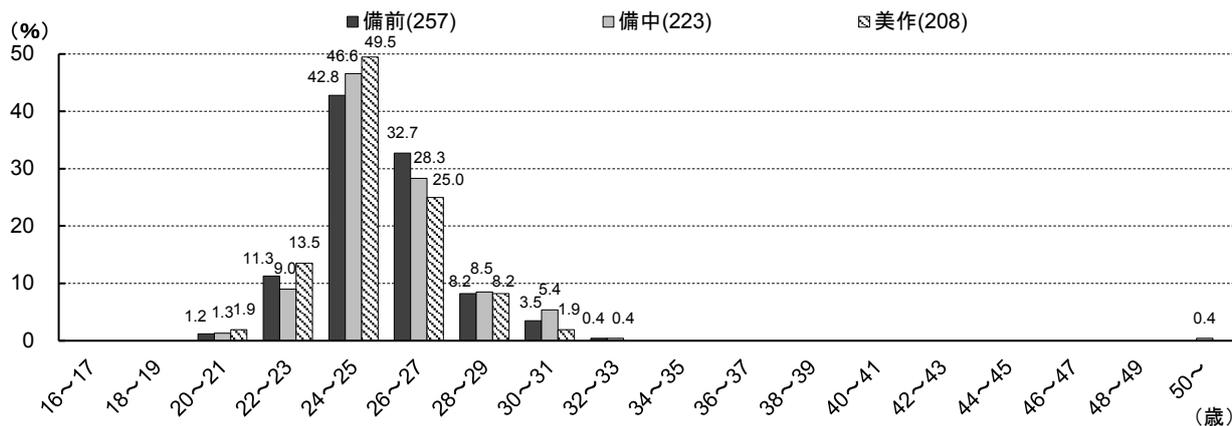
美作の女子で 24-25 歳の割合が他地域に比べてやや多いが、平均値でみると県民局別に差異はない（図Ⅳ－10、表Ⅳ－1）。

図Ⅳ－10 県民局別にみた理想の結婚年齢（結婚年齢に理想がある者）

（男子）



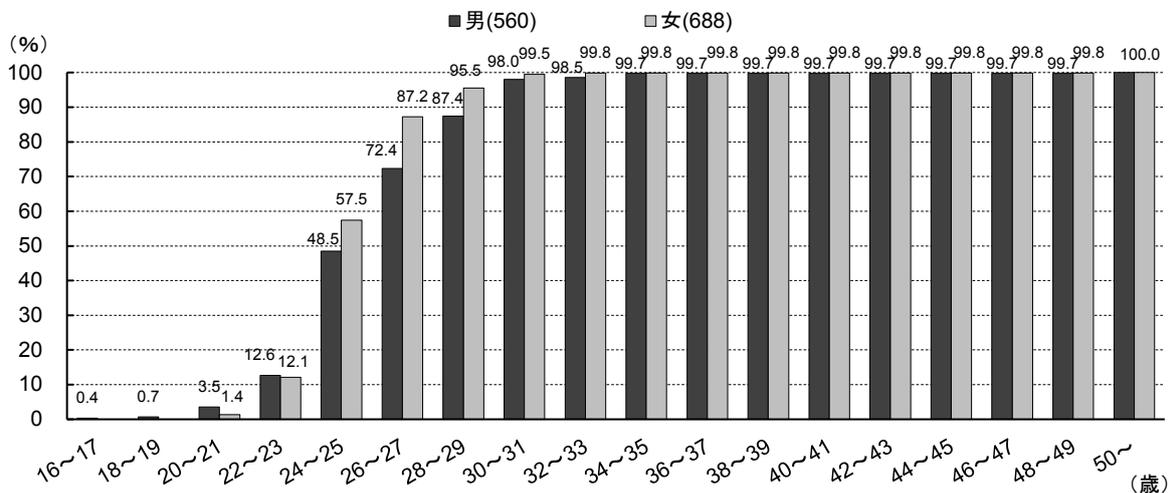
(女子)



③理想の結婚年齢の累積分布

理想の結婚年齢を累積分布で表し、理想の結婚年齢による年齢階層別有配偶率を算出した(図IV-11)。高校生のうち結婚年齢に理想がある者が理想通りに結婚した場合、24-25歳で男女とも有配偶率がおおよそ50%に達し、男子では30-31歳、女子では28-29歳でおおよそ100%になる。

図IV-11 理想の結婚年齢の累積分布(結婚年齢に理想がある者)



(4) 理想の子ども数

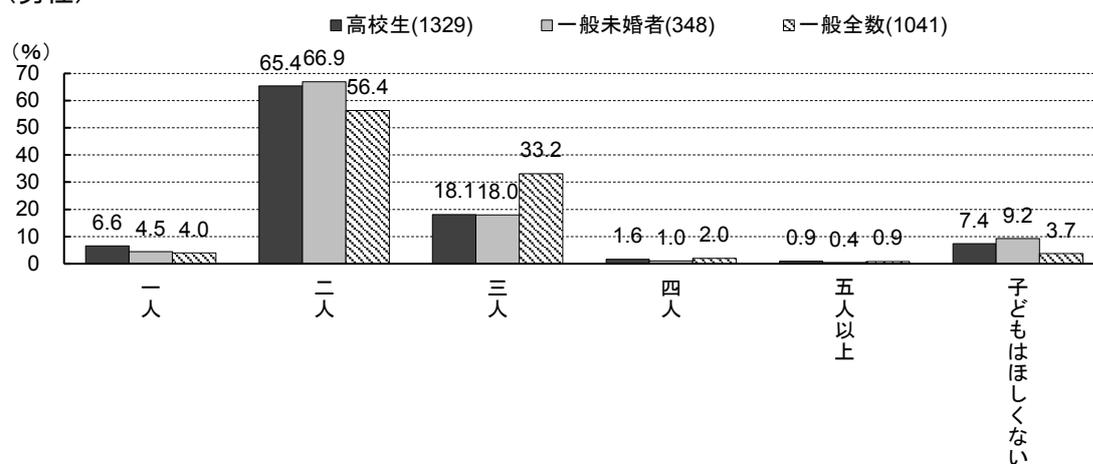
(高校生は一般調査に比べ理想の子ども数が少ない)

高校生の子どもの持つ意欲を把握するため高校生の理想の子ども数を把握すると、男子は「二人」が65%、「三人」が18%である。女子は「二人」が62%、「三人」が23%である(図IV-12)。

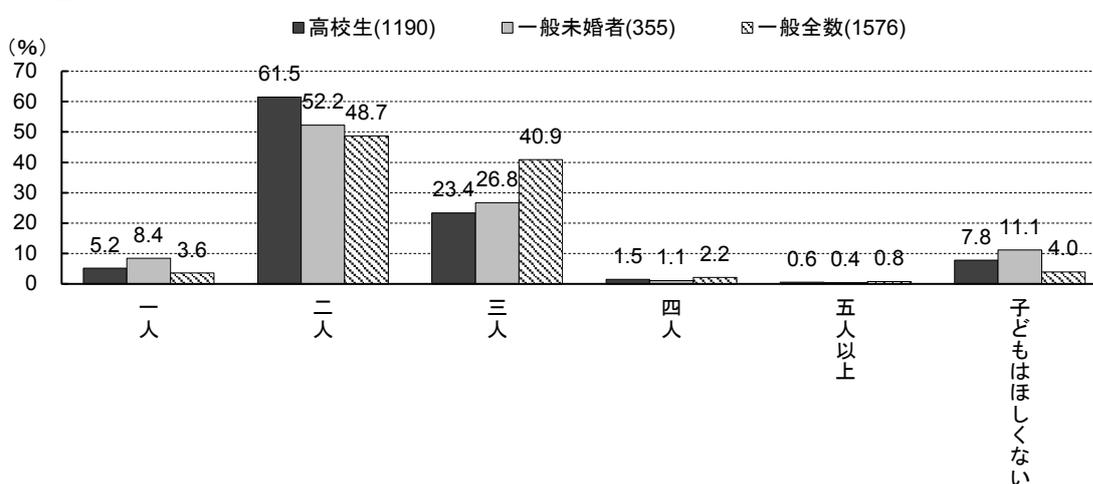
男子の回答は、一般未婚者とほぼ同じであり、一般全数集計に対して「三人」が大きく減少している。女子は、一般未婚者よりもさらに「三人」が少なくなっている。

図IV-12 理想の子ども数(単数)

(男性)



(女性)

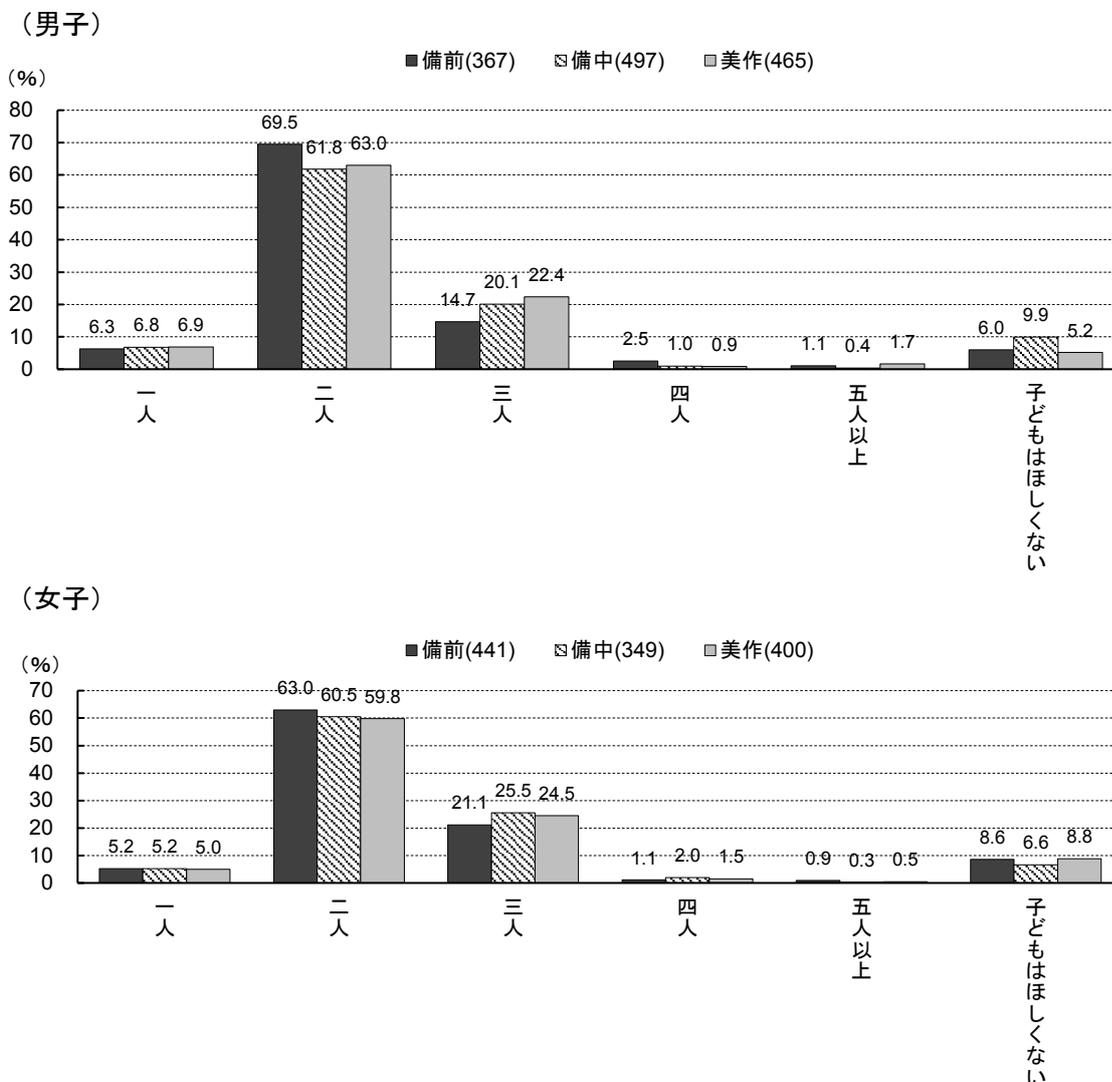


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

高校生の理想の子ども数を集計すると、男子において、美作、備中、備前の順で、「三人」が多くなっている(図IV-13)。女子については県民局で差異はみられない。

図IV-13 県民局別にみた理想の子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0981	0.0501
P値	0.0044	0.8185

(5) 子どもがほしい・ほしくない理由

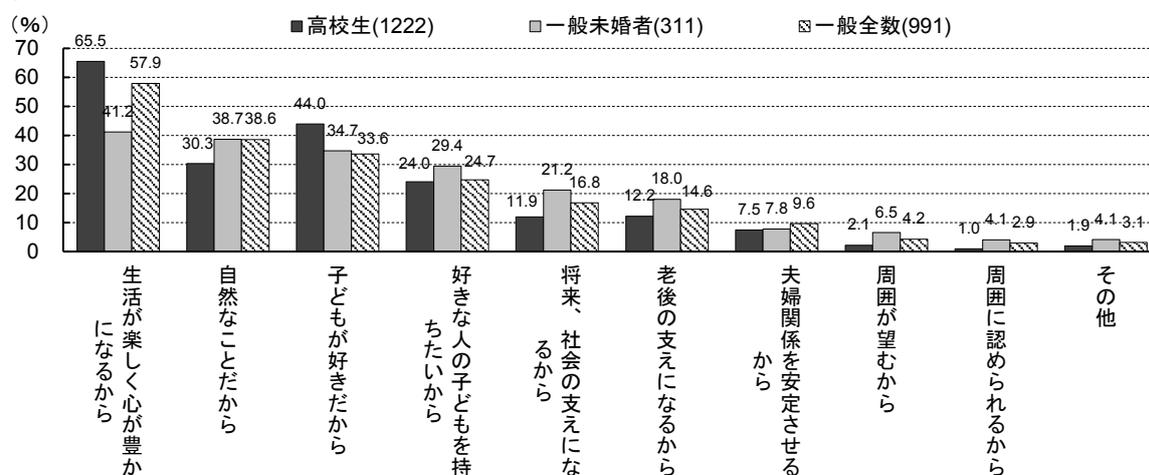
①子どもがほしいと思う理由

高校生に子どもがほしいと思う理由を尋ねると、「生活が楽しく心が豊かになる」と「子どもが好きだから」が多く、これらの回答は一般未婚者や一般全数を上回っている（図Ⅳ－14）。

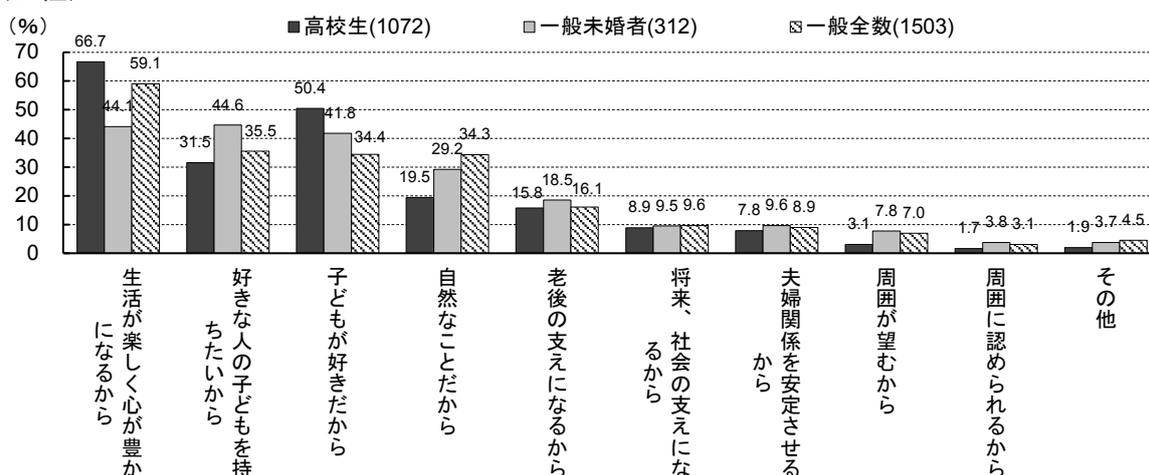
反対に、その他の回答は概ね高校生の方が少なく、特に女子の「自然なことだから」は一般未婚者や一般全数との差が大きい。

図Ⅳ－14 子どもがほしいと思う理由（理想の子ども数が一人以上、複数）

(男性)



(女性)

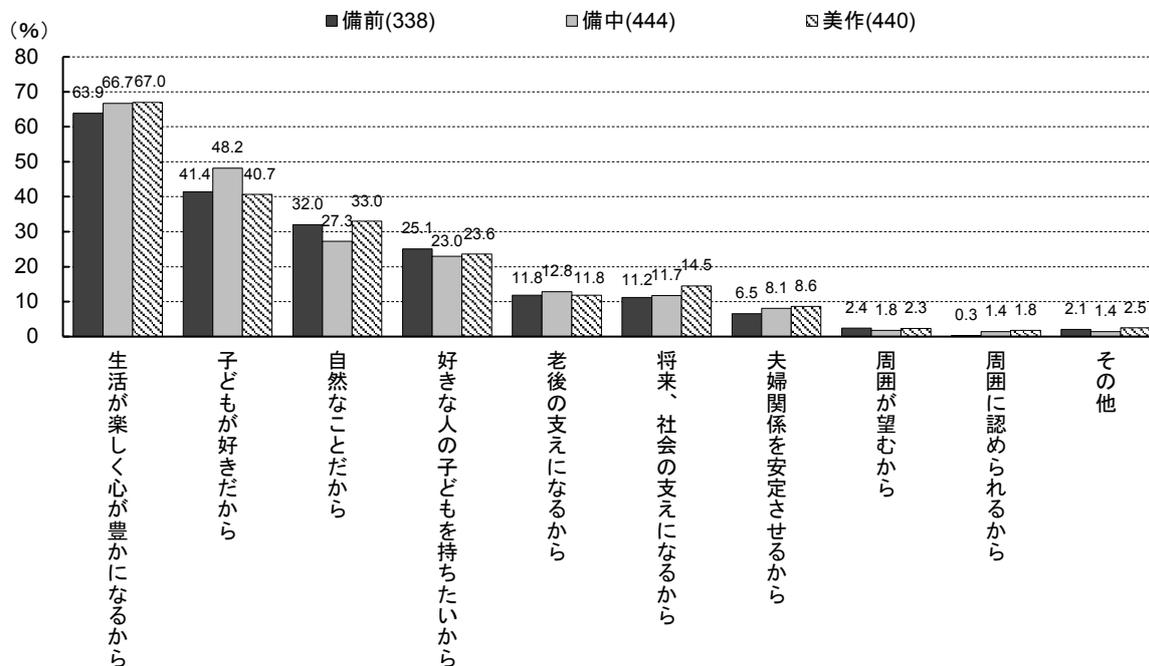


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

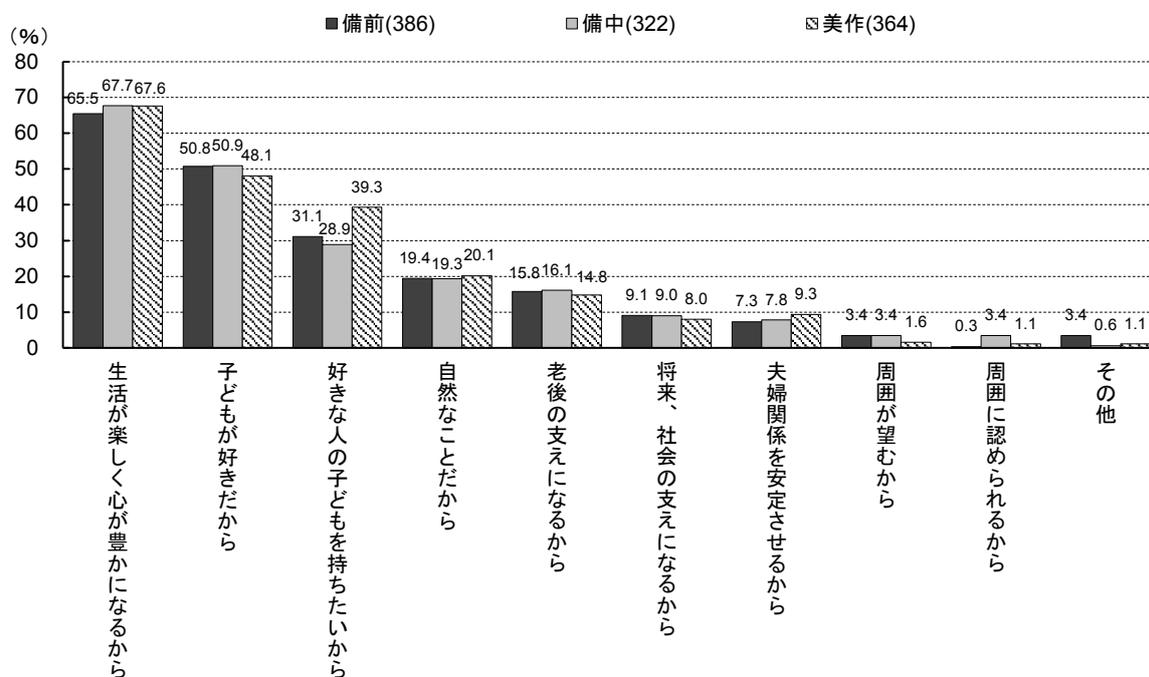
(県民局別の集計)

子どもがほしいと思う理由について県民局で差異はみられない (図IV-15)。

図IV-15 県民局別にみた子どもがほしいと思う理由 (理想の子ども数が一人以上、複数)
(男子)



(女子)

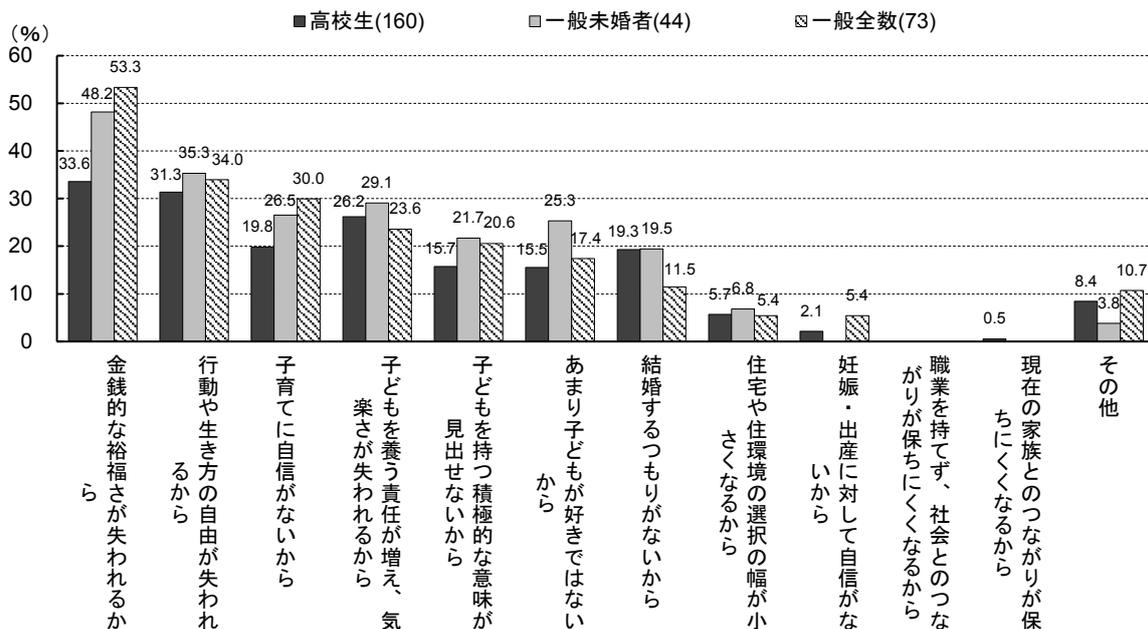


②子どもがほしくない、ほしい子ども数が一人である理由

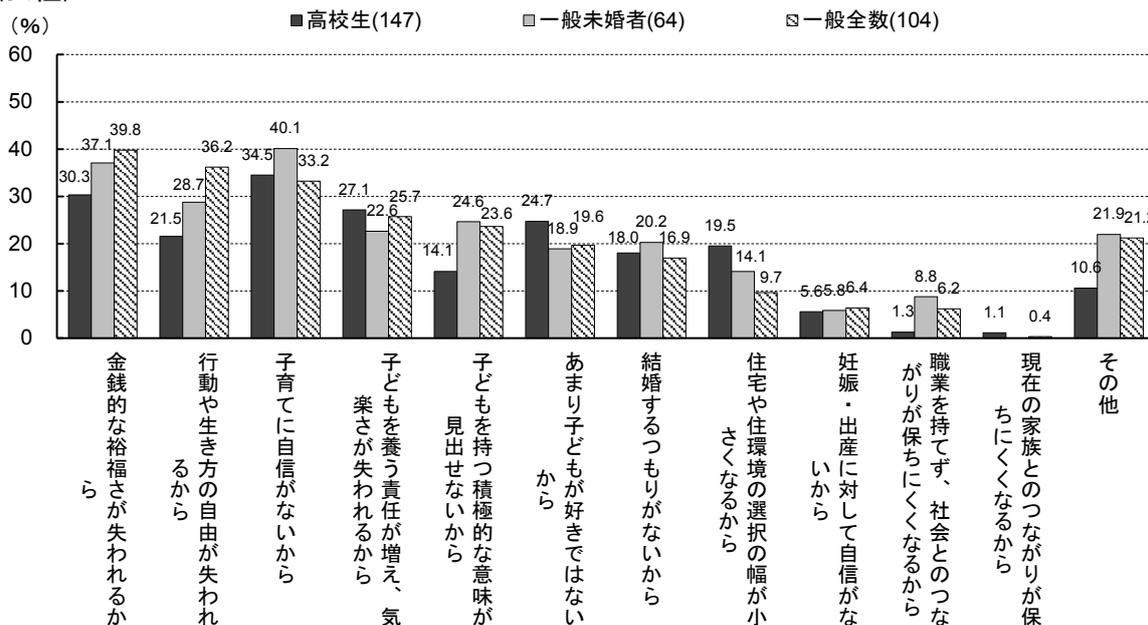
子どもがほしくない、ほしい子ども数が一人である理由は、一般未婚者や一般全数では「金銭的な裕福さが失われるから」に半数の回答が集まっているが、高校生では同回答は男子34%、女子30%にとどまる（図Ⅳ-16）。全体的にみて高校生では回答が分散しており、多様な考えを持っていることがわかる。

図Ⅳ-16 子どもがほしくない、ほしい子ども数が一人である理由
（理想の子ども数が「一人」および「子どもはほしくない」、複数）

（男性）



（女性）



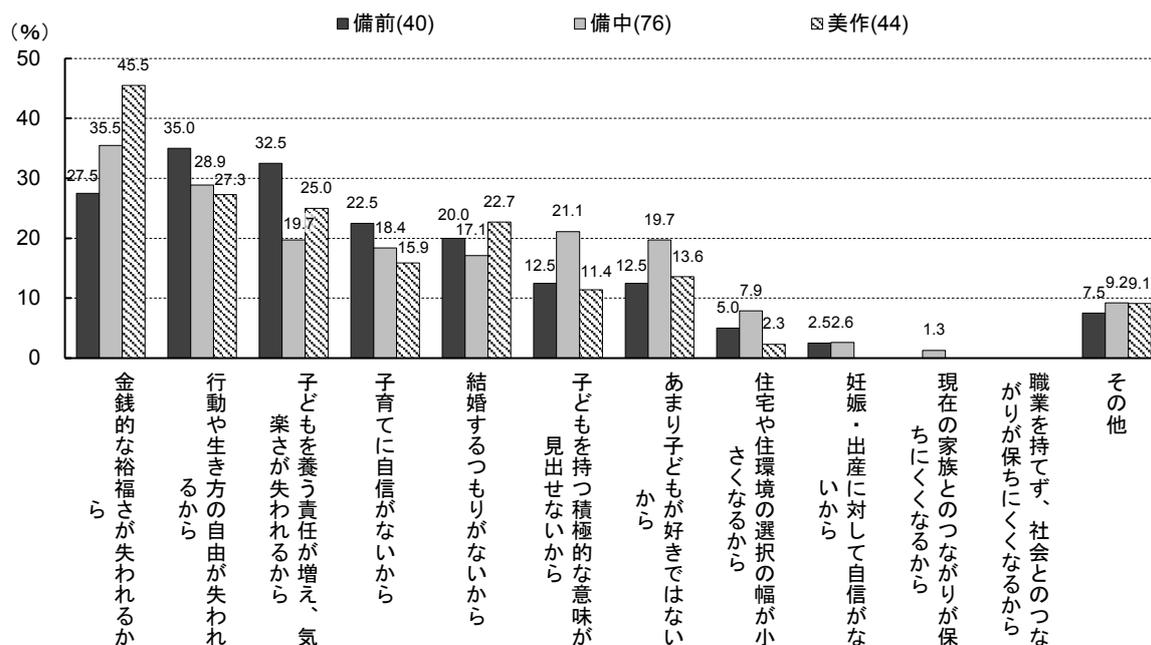
(注) それぞれ、県市局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

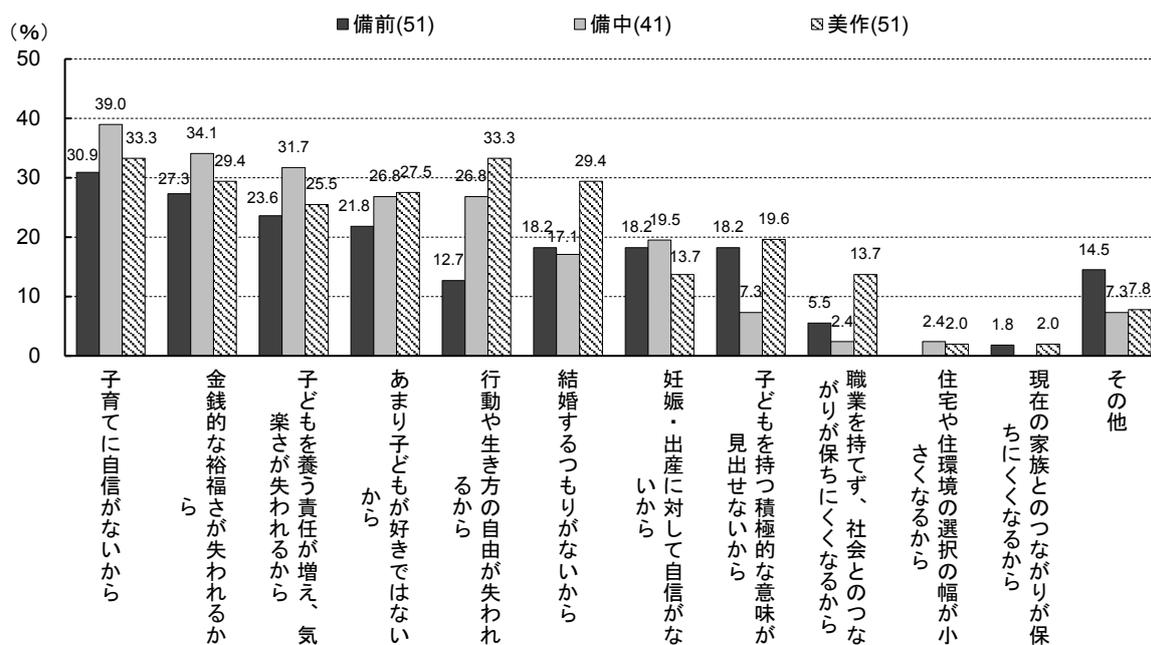
備前の男子で「子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから」、備中の女子で「子育てに自信がないから」、美作の男子で「金銭的な裕福さが失われるから」が多いといった特徴がみられるものの、サンプル数が少ないことに注意が必要である(図IV-17)。

図IV-17 県民局別にみた子どもがほしくない、ほしい子ども数が一人である理由(理想の子ども数が「一人」および「子どもはほしくない」、複数)

(男子)



(女子)

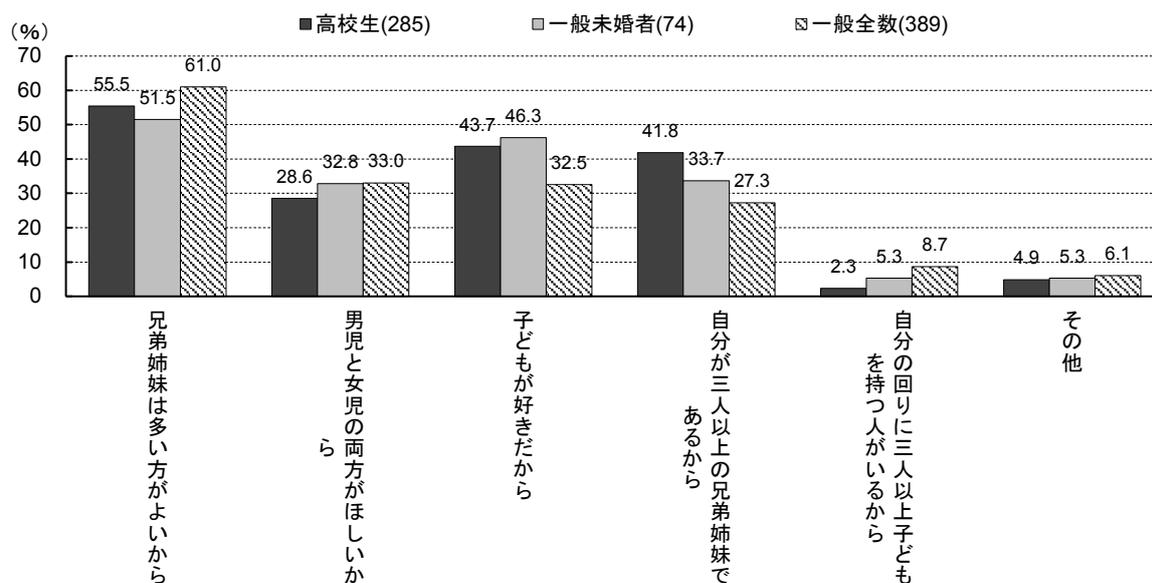


③三人以上の子どもがほしいと思う理由

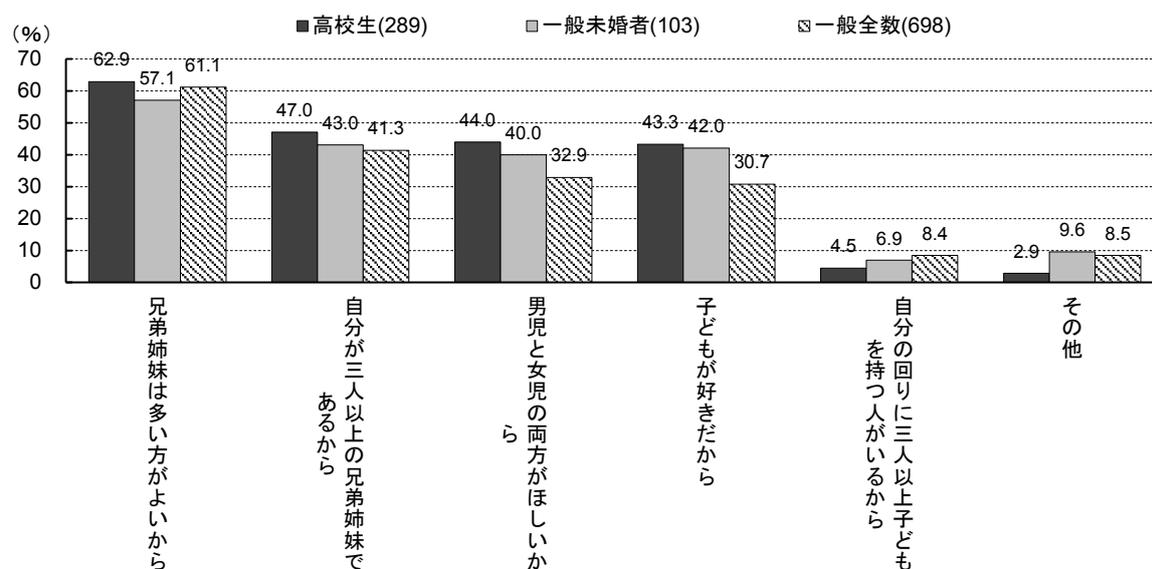
三人以上の子どもがほしいと思う理由について、「兄弟が多い方がよいから」「子どもが好きだから」とする者は、一般未婚者や一般全数と同様に回答が多い（図Ⅳ－18）。その中で、「自分が三人以上の兄弟姉妹であるから」が特に男子で多くなっていることが高校生の特徴になっている。

図Ⅳ－18 三人以上の子どもがほしいと思う理由（理想の子ども数が三人以上、複数）

(男性)



(女性)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

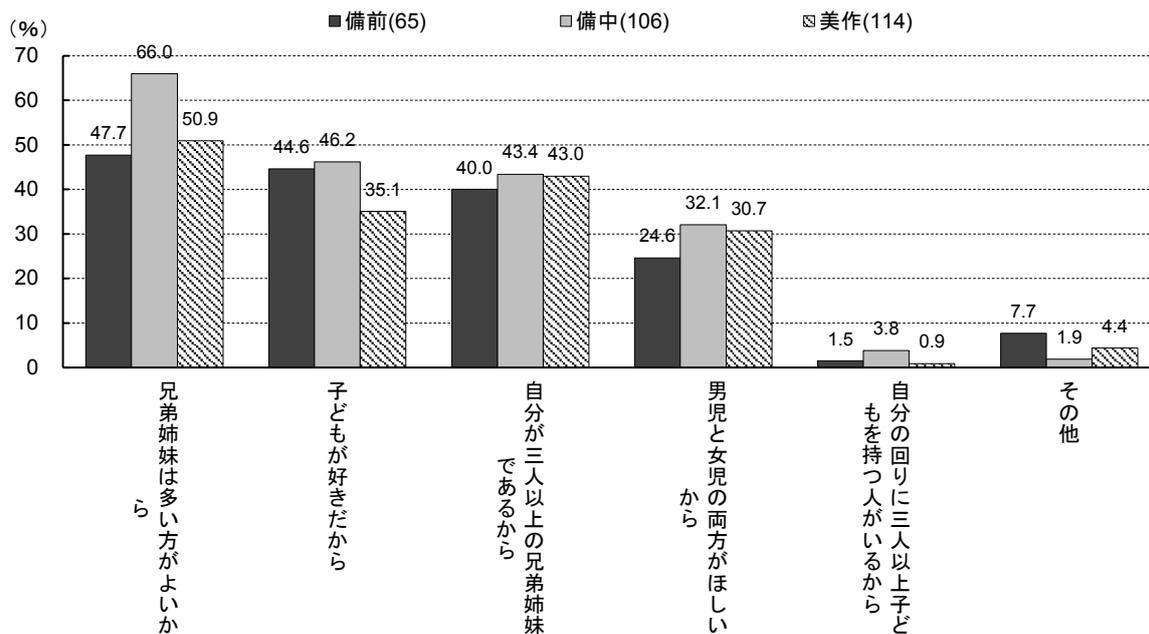
(県民局別の集計)

備中の男子で「兄弟姉妹は多い方がよいから」が多く、美作で「子どもが好きだから」が少ないといった特徴がみられる(図IV-19)。ただし、サンプル数がやや少ないことに注意が必要である。

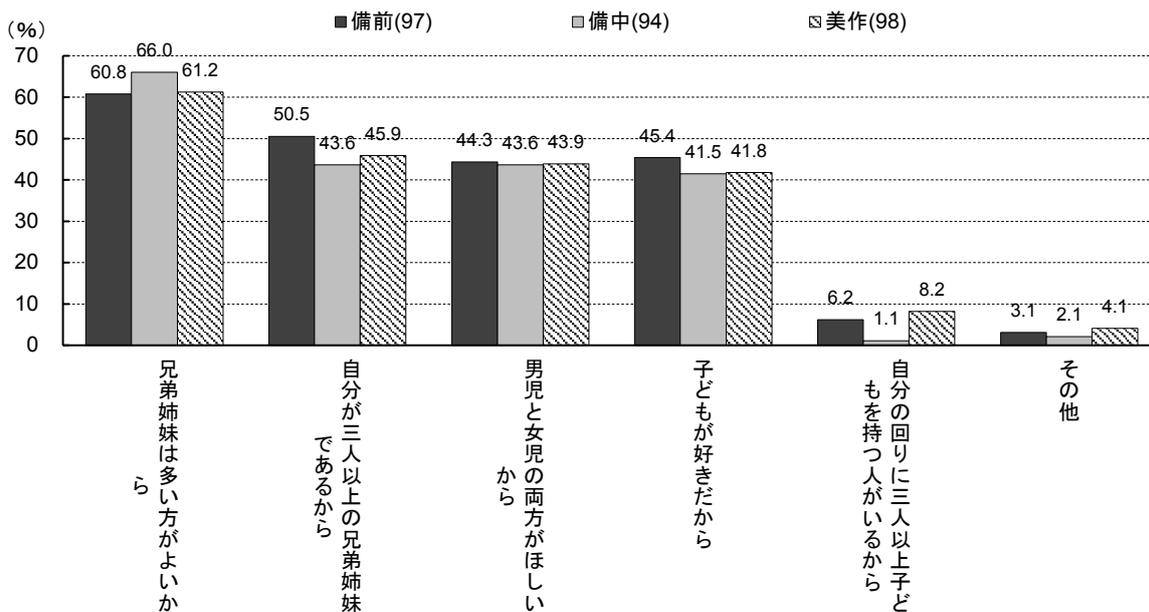
女子では県民局で差異はみられない。

図IV-19 県民局別にみた三人以上の子どものほしいと思う理由
(理想の子ども数が三人以上、複数)

(男子)



(女子)



(6) 高校生の希望出生率の算出

(高校生の希望出生率は人口置換水準を下回る)

高校生の結婚希望と理想の子ども数を元に希望出生率を算出すると、男子 2.02、女子 2.04 となった(表Ⅳ-2)。「原初状態」と捉えられる県内高校生がすべて県内に定住し、その結婚希望と理想の子ども数を実現しても、人口置換水準(2.07)には達しない。

表Ⅳ-2 結婚希望と理想の子ども数を元に算出した希望出生率

(男子) N=1331

理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の 子ども数	ある程度の年齢までに結婚したい	0.05	0.68	0.24	0.02	0.00	0.02	1.00
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.07	0.67	0.19	0.01	0.02	0.03	1.00
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.11	0.63	0.12	0.01	0.00	0.13	1.00
	一生、結婚したいとは思わない	0.05	0.16	0.04	0.02	0.02	0.71	1.00
	その他	0.08	0.42	0.08	0.00	0.25	0.17	1.00
② 理想の子 ども数×①	ある程度の年齢までに結婚したい	0.05	1.36	0.71	0.07	0.02	0.00	2.20
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.07	1.35	0.57	0.04	0.10	0.00	2.13
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.11	1.27	0.36	0.02	0.00	0.00	1.76
	一生、結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
	その他	0.08	0.83	0.25	0.00	1.25	0.00	2.42
③ 構成比	ある程度の年齢までに結婚したい	0.49	④=②×③					1.08
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.29						0.63
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.16						0.28
	一生、結婚したいとは思わない	0.04						0.00
	その他	0.01						0.02
理想ベースの希望出生率(④の合計)								2.02

(女子) N=1193

理想の子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 理想の 子ども数	ある程度の年齢までに結婚したい	0.04	0.65	0.27	0.02	0.00	0.02	1.00
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.07	0.62	0.24	0.02	0.01	0.05	1.00
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.09	0.55	0.15	0.00	0.00	0.22	1.00
	一生、結婚したいとは思わない	0.05	0.19	0.02	0.00	0.05	0.70	1.00
	その他	0.00	0.60	0.10	0.00	0.00	0.30	1.00
② 理想の子 ども数×①	ある程度の年齢までに結婚したい	0.04	1.31	0.82	0.07	0.02	0.00	2.25
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.07	1.23	0.71	0.08	0.05	0.00	2.13
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.09	1.09	0.46	0.00	0.00	0.00	1.63
	一生、結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
	その他	0.00	1.20	0.30	0.00	0.00	0.00	1.50
③ 構成比	ある程度の年齢までに結婚したい	0.55	④=②×③					1.24
	結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい	0.27						0.57
	仕事や生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない	0.14						0.23
	一生、結婚したいとは思わない	0.04						0.00
	その他	0.01						0.01
理想ベースの希望出生率(④の合計)								2.04

(注) 生涯非婚は、理想の子ども数の回答があっても希望出生率への寄与はゼロとした

算出された希望出生率は、一般未婚者とほとんど同じである。一般未婚者に比較して、生涯非婚の割合が少ないことが出生率を押し上げる要因となり、理想の子ども数が少ないことが出生率を引き下げる要因になっている。これらのプラス・マイナスの要因が組み合わさって一般未婚者とほぼ同値になっている。

2. 結婚の見通しと現実に持てる子ども数

(1) 結婚の見通し

(高校生は「結婚できない」「結婚が遅くなる」と思っている者が少ない)

一般調査では「理想」と比較して実際の結婚見通しについて把握した。高校生調査では、日本人の平均初婚年齢(2017年は夫31.1歳、妻29.4歳)との比較により結婚の見通しについて尋ねた。高校生では、「理想」と「現実」の間にギャップを生じさせる要因(社会での交際経験の有無、所得・労働状態等)がまだ発生してなく、「理想」と「現実」の比較では回答が困難と考えた。

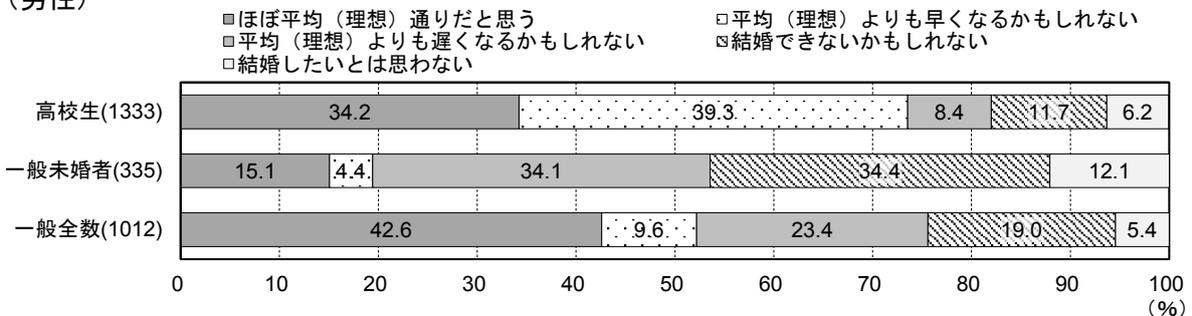
高校生では、一般調査と違って「結婚できないかもしれない」が少ない(男子12%、女子15%)(図IV-20)。また、「平均」と「理想」の違いのため単純な比較はできないものの、「遅くなる」も一般調査に比べて大幅に小さい(男子8%、女子9%)。

高校生の結婚意欲は「年齢志向」が多く、一般調査よりも結婚意欲が強く表れた。これは、一般調査では、現実の結婚見通しが結婚意欲に影響を及ぼしており、高校生の結婚意欲が高い理由の一つは、高校の時点では「結婚できない」「結婚が遅くなる」と思っている者が少ないためと考えられる。

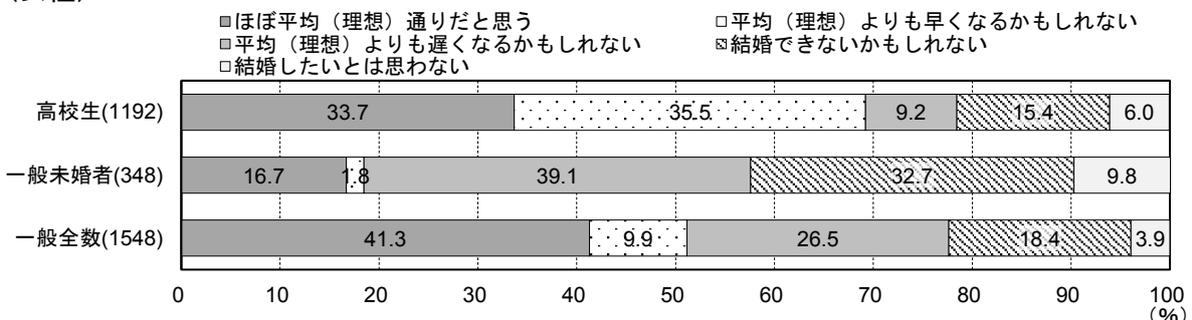
このため、高校卒業後の交際経験や就職後の所得・労働状況等により、結婚見通しに変化が生じ、これが影響を与えて結婚意欲が低下すると考えることができる。

図IV-20 結婚の見通し(単数)

(男性)



(女性)



(注) 1. それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

2. 「平均」は高校生調査、「理想」は一般調査の選択肢の表現である

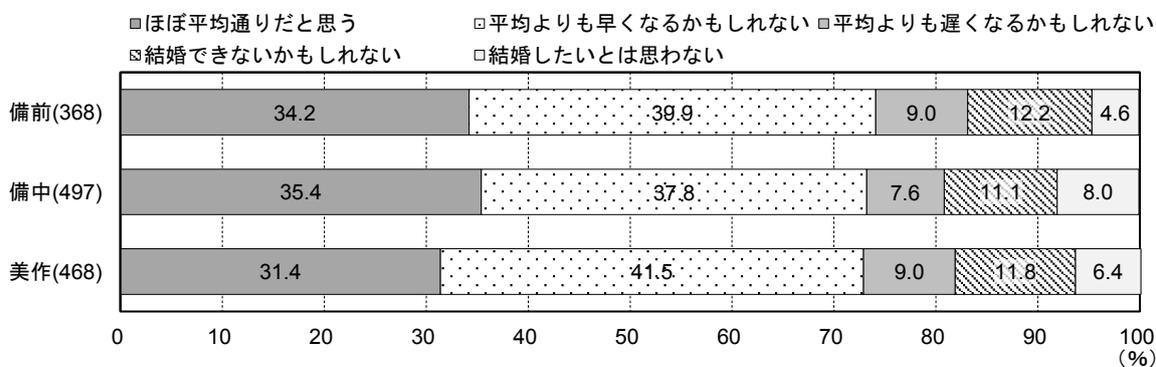
3. 一般調査の既婚者の選択肢は「ほぼ理想通りだった」など過去形である

(県民局別の集計)

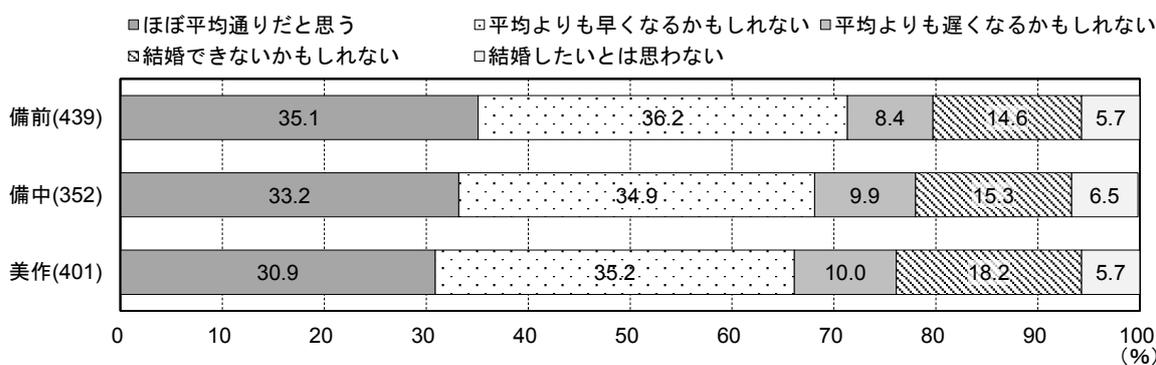
結婚見通しには、県民局別で差異はみられない (図IV-21)。

図IV-21 県民局別にみた結婚見通し (単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0502	0.0412
P値	0.5666	0.8535

(2) 結婚希望が実現しない理由

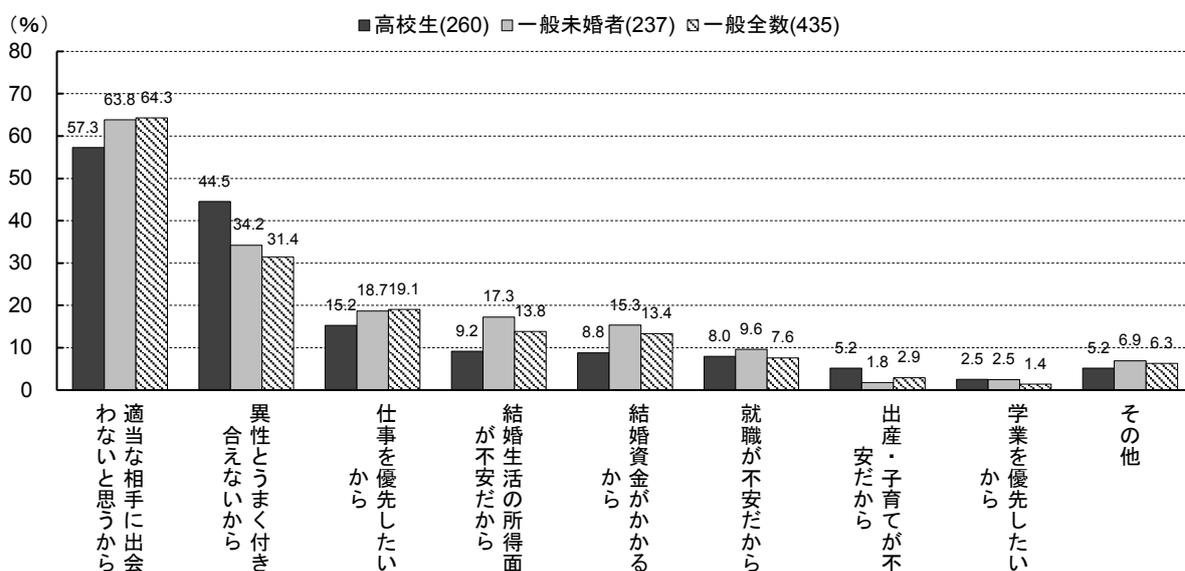
(「異性とうまく付き合えない」が高校生の特徴)

高校生が考える結婚希望が実現しない理由は、一般調査と同様に、「適当な相手に出会わない」と「異性とうまく付き合えないから」の二つが多い(図IV-22)。

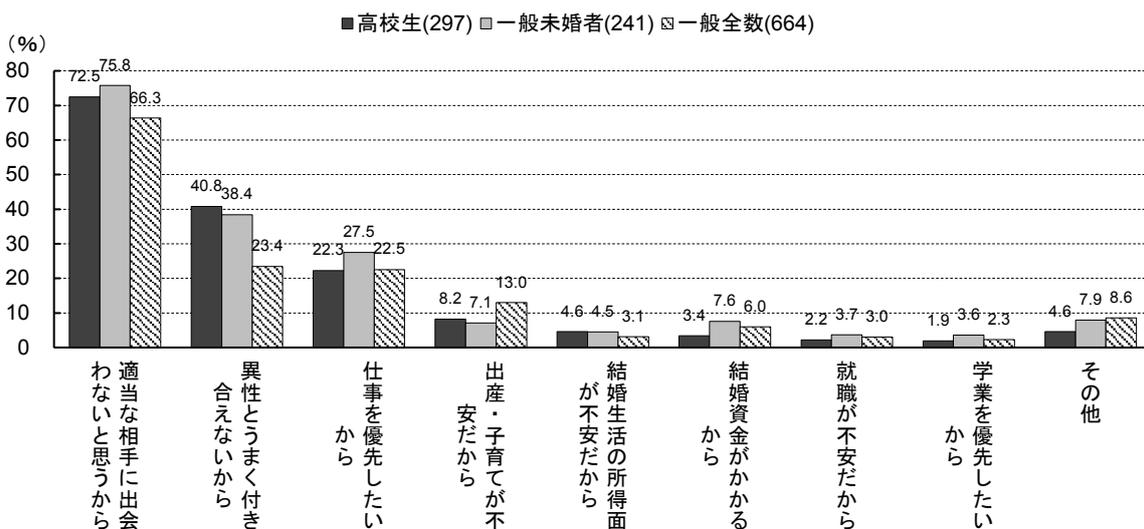
ただし、「適当な相手に出会わないから」は一般よりやや少なく、反対に「異性とうまく付き合えない」が特に男子で一般よりも多くなっている。

図IV-22 結婚希望が実現しない理由(複数)
(結婚が「平均よりも遅くなるかもしれない」及び「結婚できないかもしれない」)

(男性)



(女性)



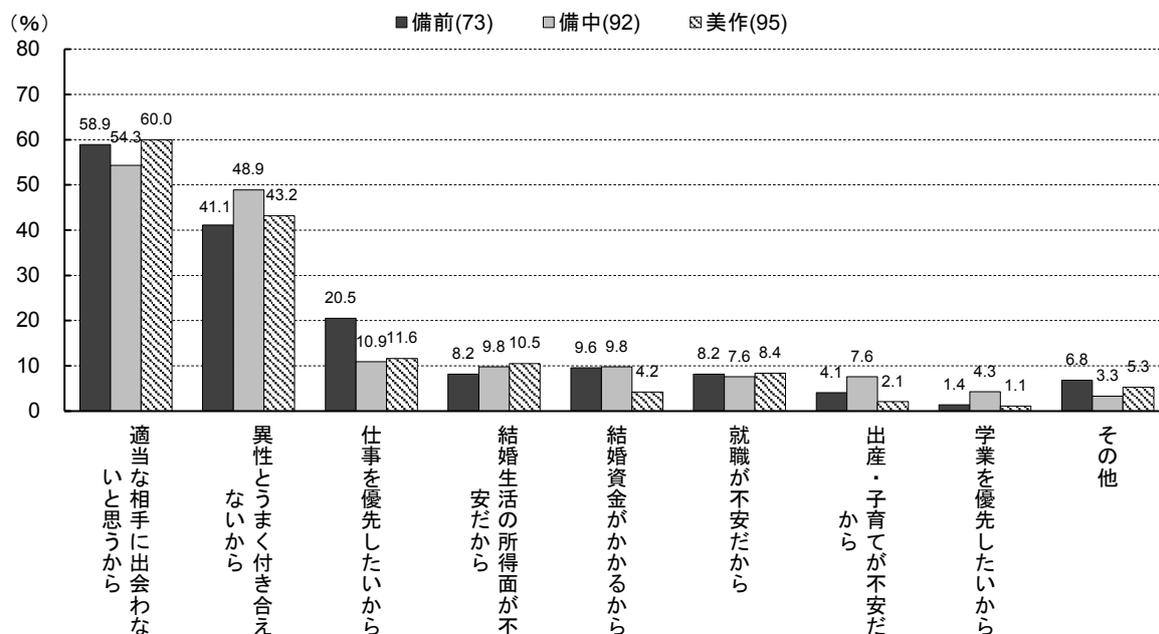
(注) 1. それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である
2. 図の選択肢は高校生調査のものであり、一般意識調査の選択肢には表現がやや異なるものがある

(県民局別の集計)

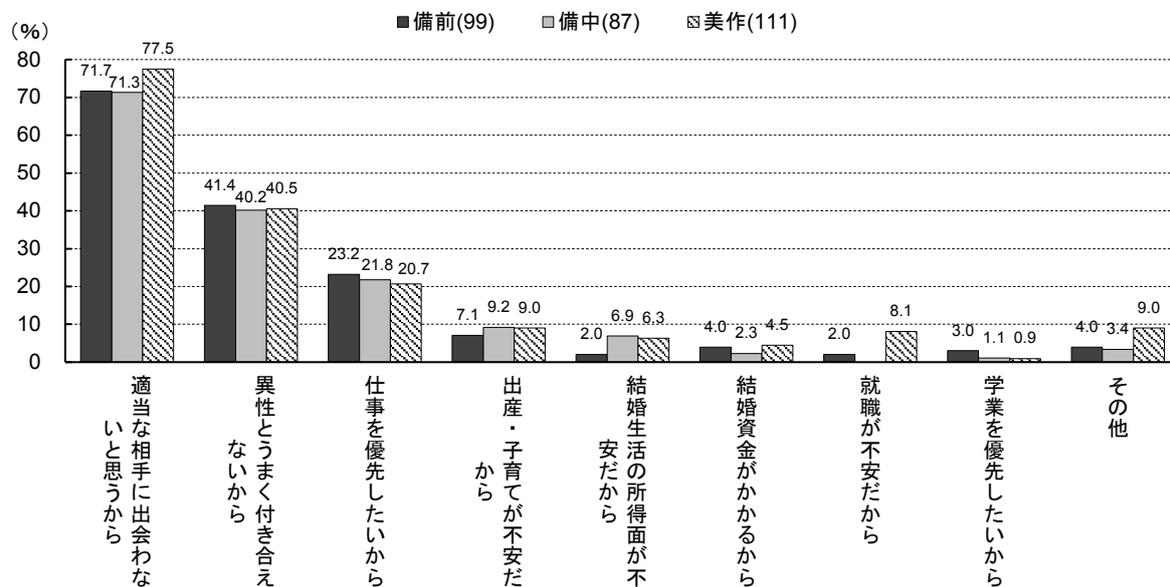
結婚希望が実現しない理由として美作の女子に「適当な相手に出会わないから」を挙げる者がやや多いが、全体的にみて県民局別で差異はみられない(図IV-23)。

図IV-23 県民局別にみた結婚希望が実現しない理由(単数)

(男子)



(女子)



(3) 現実に持てる子ども数

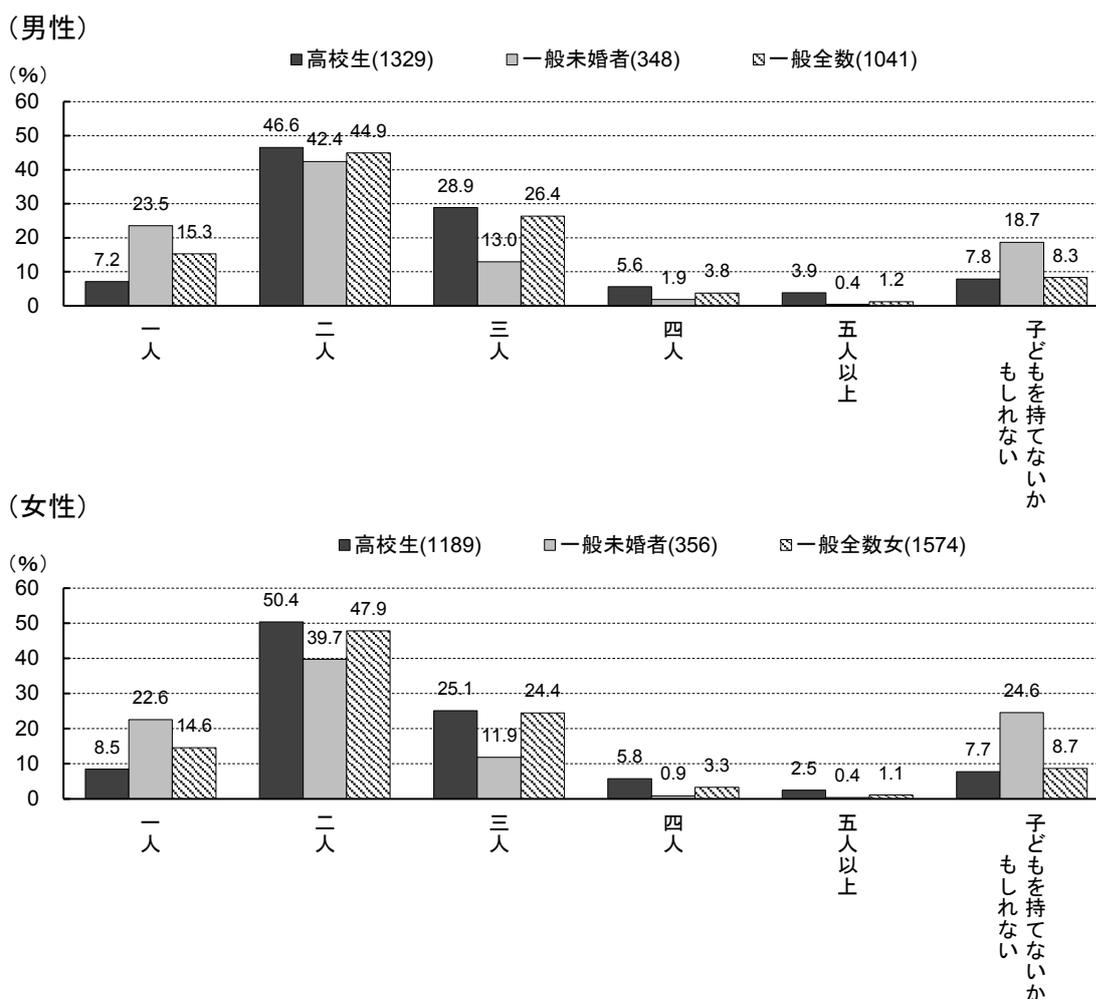
(高校生は理想数より現実数が増加している者が多い)

高校生が現実に持てると思う子ども数は、男子では「二人」が47%、「三人」が29%であり、女子は「二人」が50%、「三人」が25%である(図IV-24)。理想の子ども数は一般調査に比べて少ない傾向があるにも関わらず、現実に持てると思う子ども数は一般全数とほぼ同じである。

理想の子ども数と現実数との差を算出すると、高校生では「一人増」が男子20%、女子18%、「二人以上増」が男子12%、女子10%に達している(図IV-25)。子ども数の理想と現実の差は「減少」より「増加」の方が多く、高校生の大きな特徴になっている。一般調査では、理想と現実の差は「増加」より「減少」の方が多い。

理想より現実が「増加」と予想している者は、「ほしいと思う以上に子どもを持つことになる」と考えていると解釈することができ、高校生の子どもの持つ意欲の低さや周囲の期待に応えようとするプレッシャーを示している可能性がある。

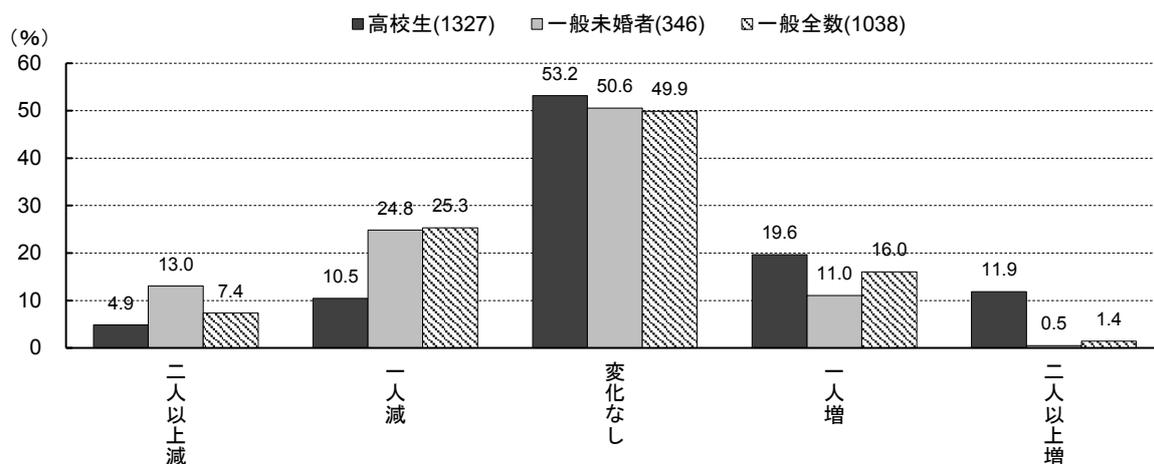
図IV-24 現実に持てる子ども数(単数)



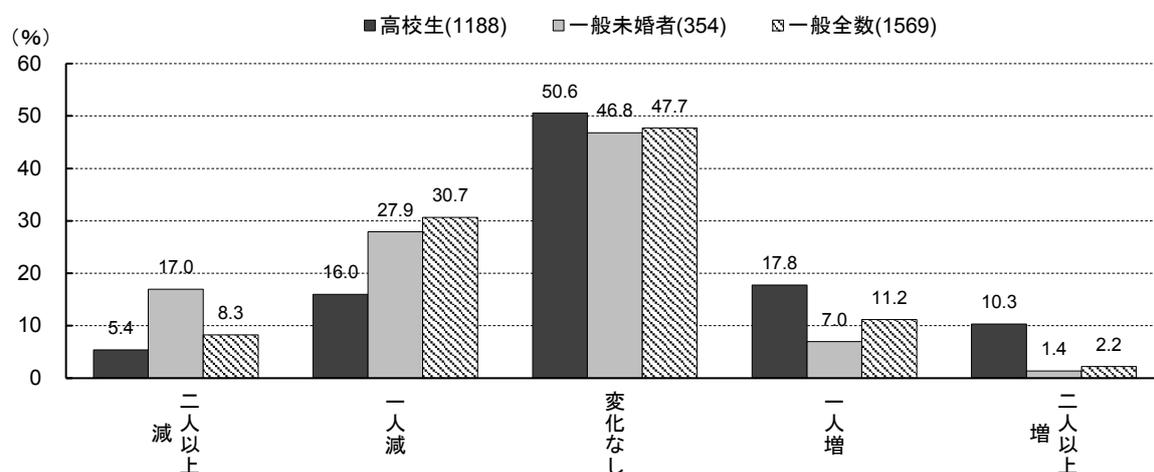
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

図IV-25 理想の子ども数と現実に持てる子ども数との差

(男性)



(女性)

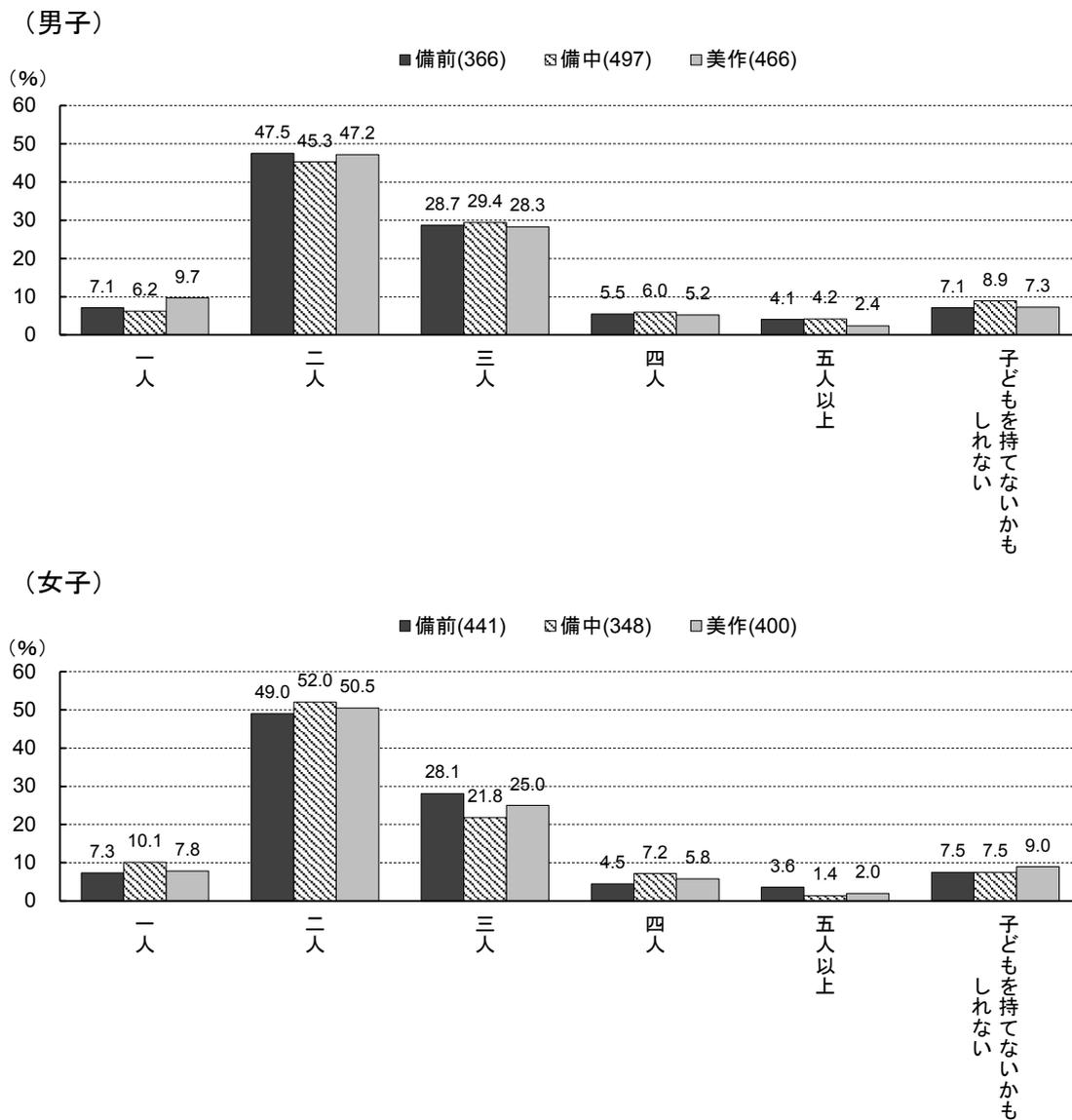


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

高校生の理想の子ども数は県民局で差異はみられない (図IV-26)。

図IV-26 県民局別にみた現実に持てる子ども数 (単数)



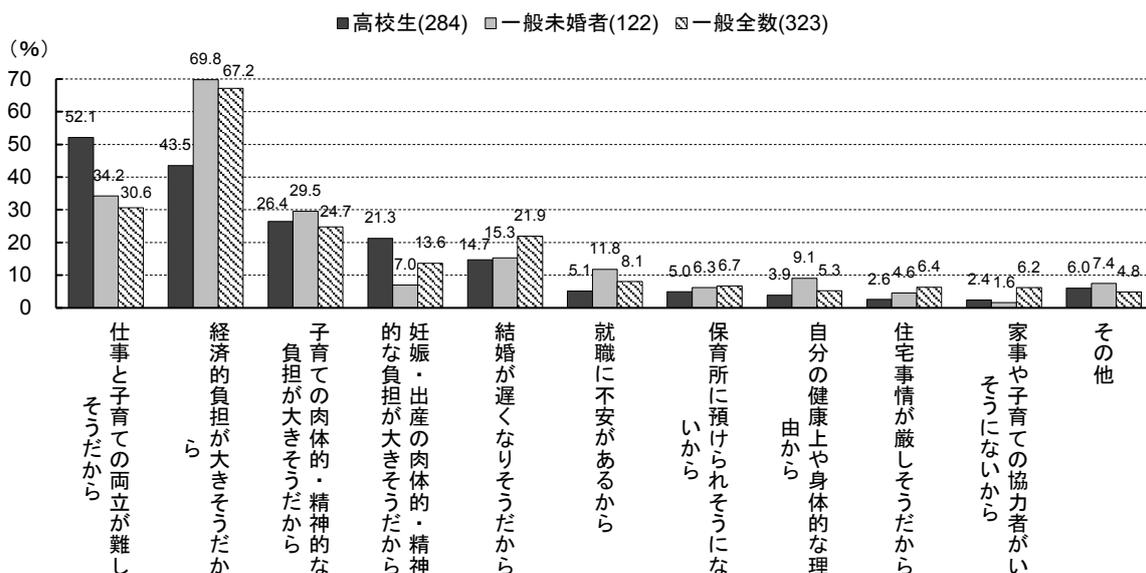
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0566	0.0737
P値	0.5788	0.2293

(4) 現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由

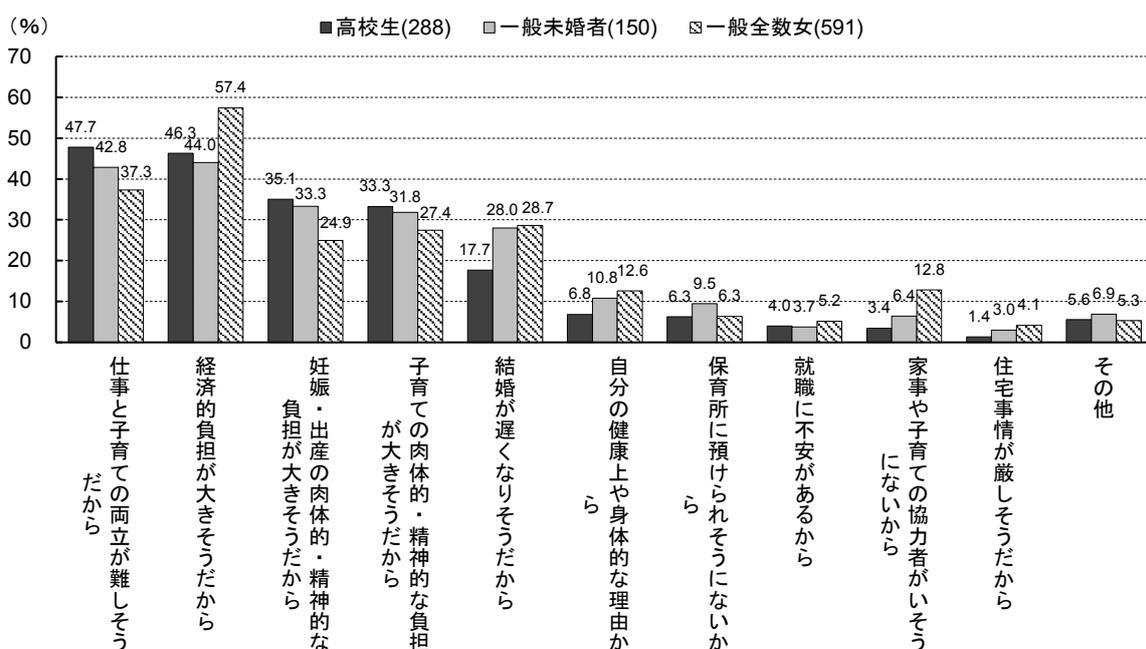
現実に持てる子ども数が理想するより少ない高校生に、その理由を尋ねると、「仕事と子育ての両立が難しそうだから」が男女とも約半数を占める(図IV-27)。男子の一般未婚者や一般全数の回答が30%程度であるのに対して差が大きい。男子ほどでないものの、女子でも同回答は一般未婚者や一般全数を上回る。

図IV-27 現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由
(現実に持てる子ども数が理想数より少ない者、複数)

(男子)



(女子)



(注) 1. それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である
2. 図の選択肢は高校生調査のものであり、一般意識調査の選択肢には表現が異なるものがある

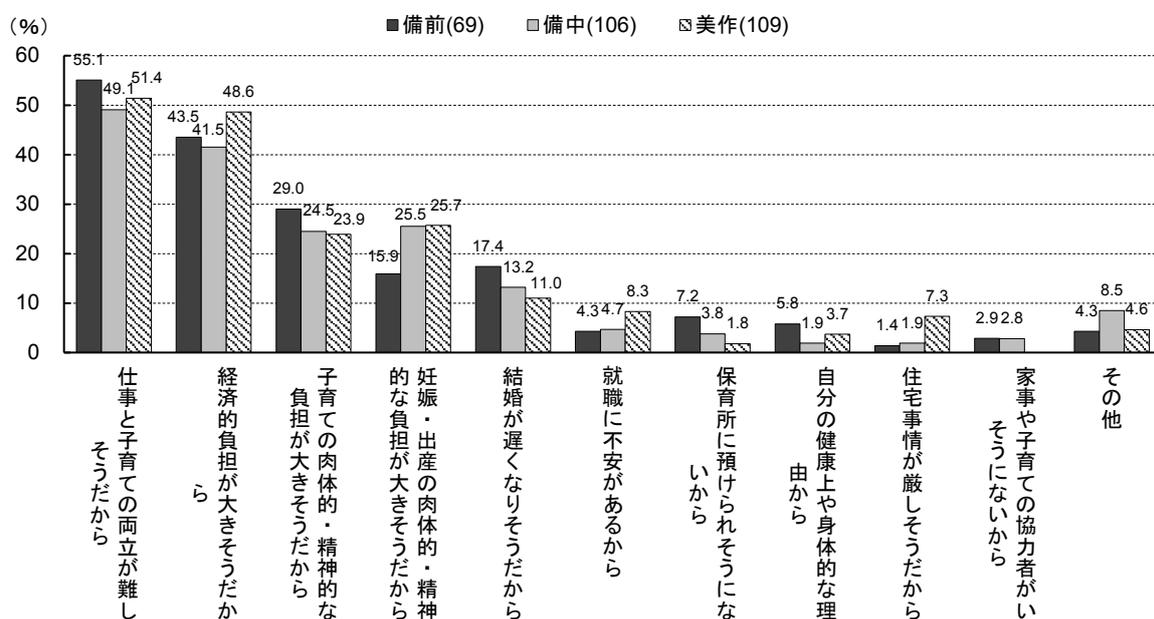
これに対して、「経済的な負担が大きそうだから」が男女とも40%台であり、特に男性の一般未婚者や一般全数が70%近いことと大きさ差が生じている。

(県民局別の集計)

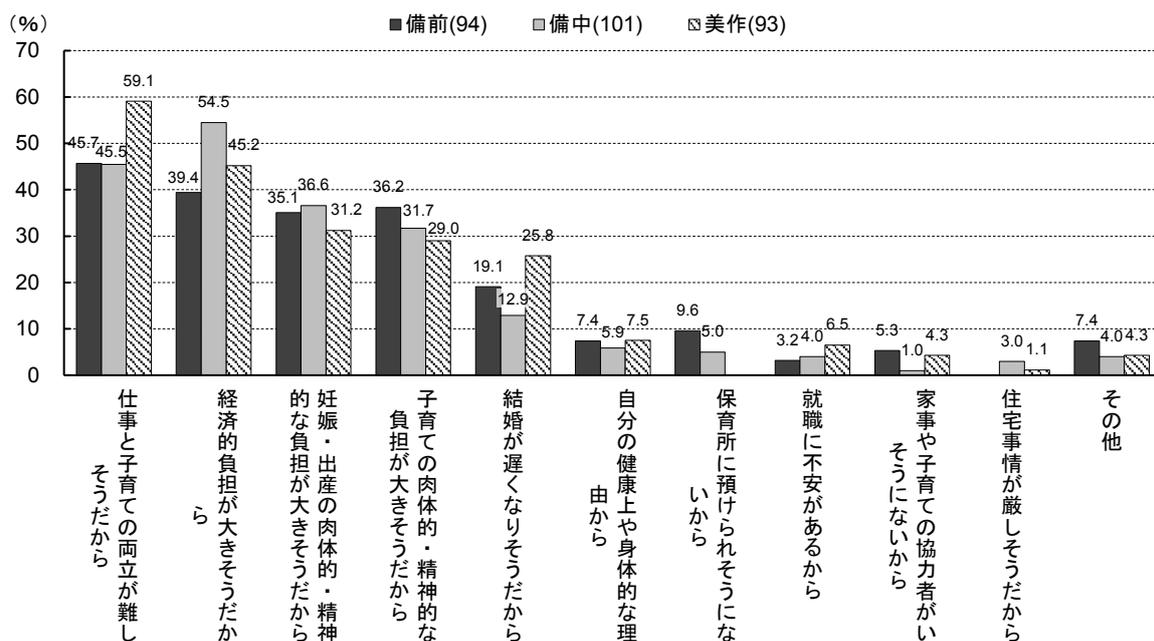
県民局別でみると、美作の女子で「仕事と子育ての両立が難しそうだから」、同じく備中の女子で「経済的な負担が大きそうだから」が多いなどの特徴がみられるが、全体的に大きな差異はみられない(図IV-28)。また、サンプル数もやや少ないことにも注意が必要である。

図IV-28 県民局別にみた現実に持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由
(現実に持てる子ども数が理想数より少ない者、複数)

(男子)



(女子)



(5) 結婚見通しと現実に持てる子ども数を元にした予想出生率

(高校生の予想出生率は2を下回る)

高校生の結婚見通しと現実に持てる子ども数を元に予想出生率を算出すると、男子1.99、女子1.84となった(表IV-3)。希望出生率と比較して、男子は0.03ポイントとわずかな低下であるが、女子は0.20ポイント低下する。

岡山県民の「原初状態」と捉えられる県内高校生の予想レベルで、出生率は男女とも2を割り込む。

表IV-3 結婚見通しと現実に持てる子ども数を元に算出した出生率

(男子) N=1336

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.09	0.50	0.30	0.05	0.03	0.03	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.06	0.48	0.34	0.07	0.05	0.01	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.11	0.43	0.23	0.08	0.06	0.09	1.00
	結婚できないかもしれない	0.11	0.42	0.17	0.03	0.01	0.25	1.00
	結婚したいとは思わない	0.06	0.31	0.20	0.01	0.01	0.41	1.00
② 現実子ども 数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.09	1.00	0.91	0.20	0.16	0.00	2.35
	平均より早くなるかもしれない	0.06	0.96	1.01	0.28	0.23	0.00	2.53
	平均より遅くなるかもしれない	0.11	0.86	0.68	0.32	0.31	0.00	2.28
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.34	④=②×③					0.79
	平均より早くなるかもしれない	0.40						1.01
	平均より遅くなるかもしれない	0.09						0.19
	結婚できないかもしれない	0.12						0.00
	結婚したいとは思わない	0.06						0.00
予想出生率(④の合計)								1.99

(女子) N=1190

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.09	0.53	0.27	0.05	0.02	0.03	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.04	0.50	0.33	0.08	0.03	0.02	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.13	0.53	0.18	0.06	0.02	0.08	1.00
	結婚できないかもしれない	0.14	0.48	0.14	0.03	0.02	0.21	1.00
	結婚したいとは思わない	0.07	0.38	0.11	0.01	0.06	0.37	1.00
② 現実子ども 数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.09	1.06	0.82	0.21	0.12	0.00	2.30
	平均より早くなるかもしれない	0.04	1.00	0.98	0.32	0.13	0.00	2.48
	平均より遅くなるかもしれない	0.13	1.06	0.53	0.25	0.09	0.00	2.06
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.33	④=②×③					0.76
	平均より早くなるかもしれない	0.35						0.88
	平均より遅くなるかもしれない	0.09						0.20
	結婚できないかもしれない	0.16						0.00
	結婚したいとは思わない	0.06						0.00
予想出生率(④の合計)								1.84

(注) 生涯非婚は、現実子ども数の回答があっても出生率への寄与はゼロとした

IV-2 中間アウトカム関連の集計・分析

1. 高校生が希望するライフコースの影響

(1) ライフコースの志向性と定住意識

高校生の結婚意欲にみられる特徴の一つは「相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない」(結婚とライフコースを比較考量する志向性)が一般調査に比べて多いことである。これには、高校生が進学・就職の前であって、ライフコースの志向性とそれを実現するための地域間移動が影響していると考えられる。

① 高校生の定住意識

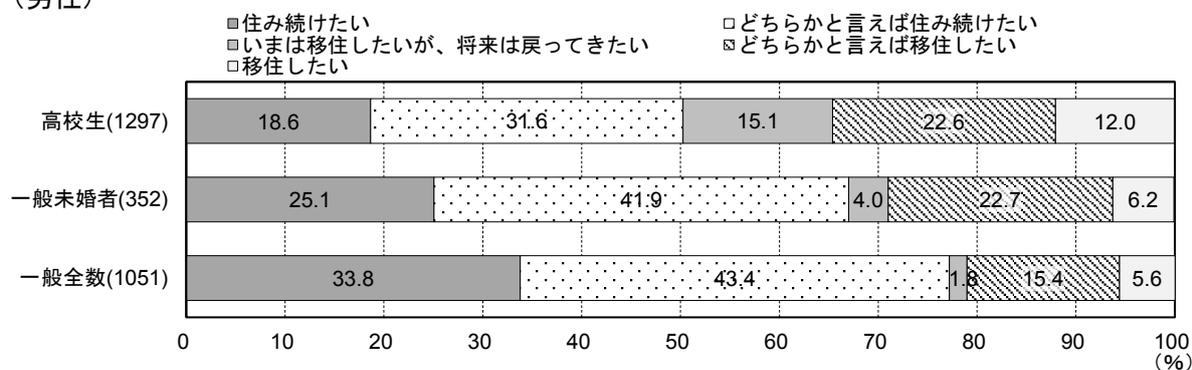
(移住希望者は女子に多い)

いま暮らしている地域でこれからも「住み続けたい」、「どちらかとも住み続けたい」とする定住希望者は男子 50%、女子 43%である(図IV-29)。「いまは移住したいが、将来は戻ってきたい」というUターン希望者を定住希望者に加えると、男子 65%、女子 59%となる。

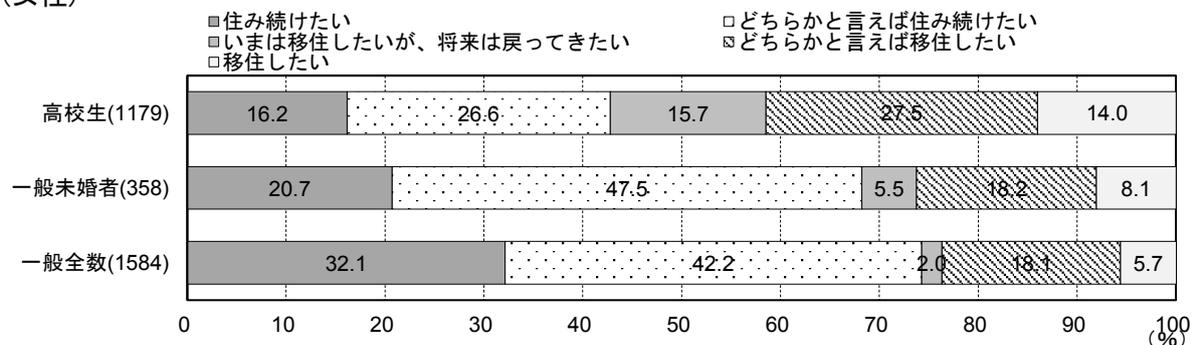
反対に、いま暮らしている地域からの移住希望者(どちらかと言えば移住したい+移住したい)は、男子 35%、女子 42%であり、一般調査を大きく上回っていることが高校生の特徴になっている。移住希望者が一般調査に比べて多い傾向は、女子に顕著に表れている。

図IV-29 暮らしている地域に対する定住意識(単数)

(男性)



(女性)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

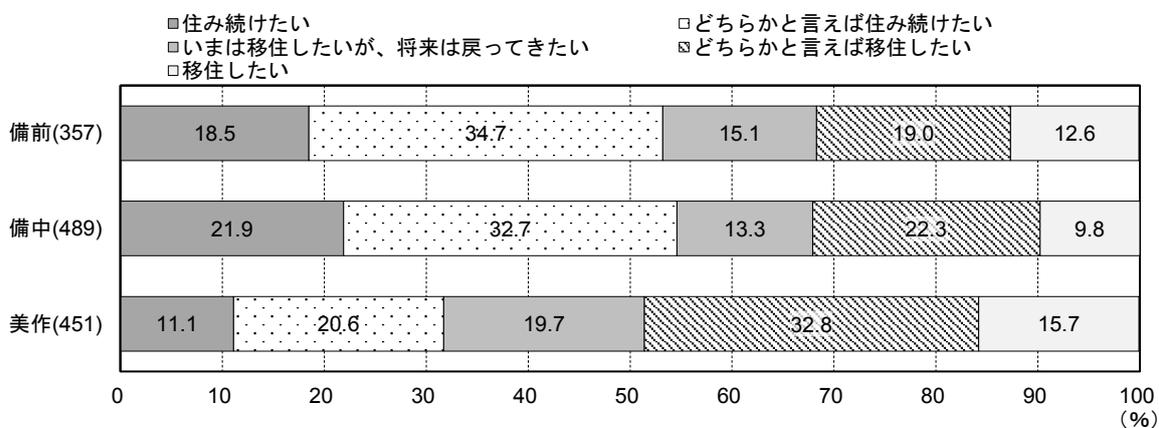
高校生の定住意識は県民局で大きな差異がみられる。男子では、備前、備中に比較して、美作で「どちらかと言えば移住したい」「移住したいが」という「移住志向者」が多く、両者で49%に上る(図IV-30)。備前に比べると1.6倍の割合を占める。

女子では、美作の「移住志向者」は52%と男子よりも多いものの、備前、備中との差は小さい。つまり、「移住志向者」は備前、備中でも男子より女子で多く、およそ40%占めている。

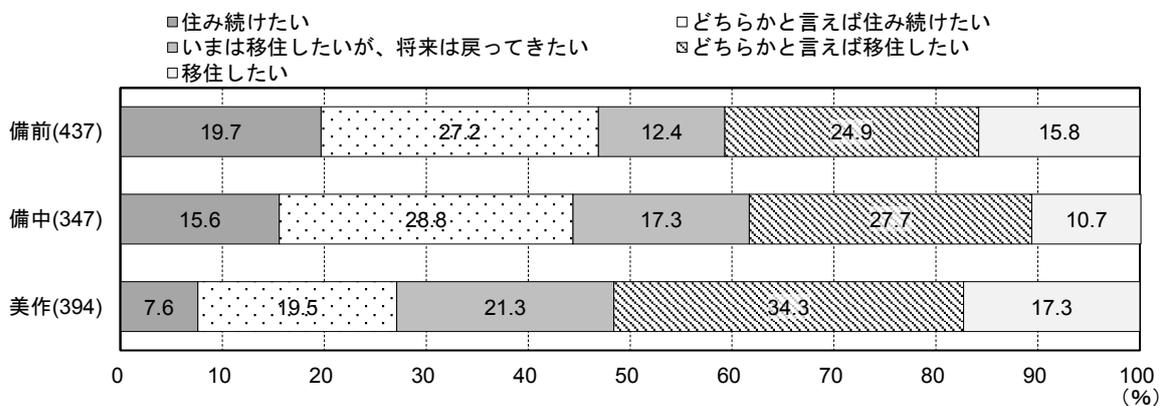
また、「いまは移住したいが、将来は戻ってきたい」という「Uターン志向者」が、美作では男女とも約20%を占めていることが、特徴になっている。

図IV-30 県民局別にみた暮らしている地域に対する定住意識(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1570	0.1475
P値	0.0000	0.0000

②ライフコースの志向性

(ライフコースの志向性の把握)

高校生調査でも、一般調査と同じライフコースの志向性を把握する以下の質問を行った。

■第一因子

- ・仕事での新しい挑戦、先端分野での活躍
- ・経営者・起業家あるいは組織の中核での成功
- ・専門的知識や高度な技能を生かせる仕事
- ・大学や大学院に進学し、高度な教育を受けること

■第二因子

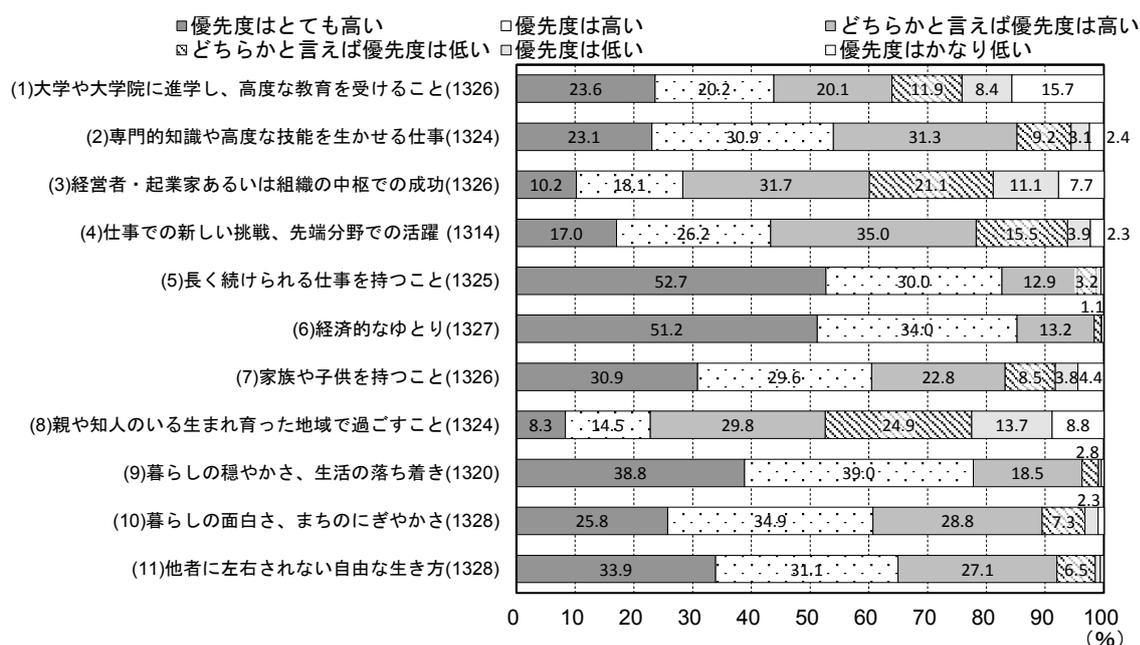
- ・経済的なゆとり
- ・長く続けられる仕事を持つこと
- ・暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き

因子分析の結果を利用して、上記の七つの回答結果に対して主成分分析を行うと、一般調査と同様に、第二主成分は、第一因子の質問がプラスに寄与し、第一因子の質問がマイナスに寄与することがわかった。そこで、第二主成分をチャレンジ志向と安定志向の対立を表わす成分と解釈して、その主成分得点を4段階（強い安定志向、弱い安定志向、弱いチャレンジ志向、強いチャレンジ志向）に区分した。

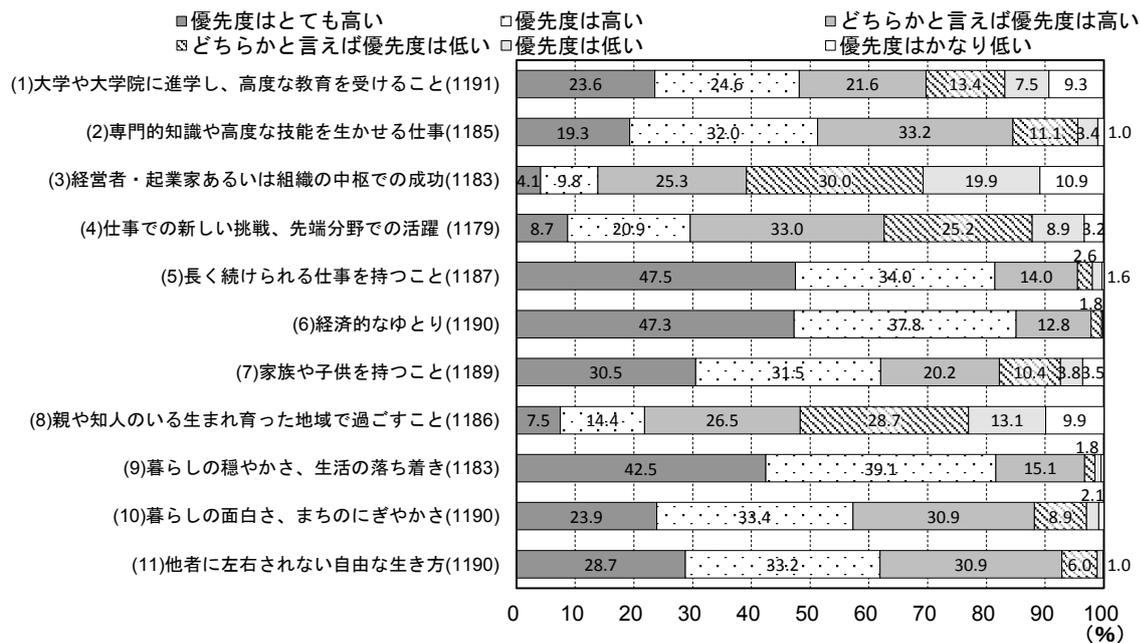
図IV-3 2は、ライフコースの集計結果であり、男子の方がチャレンジ志向が強いことがわかる。

図IV-3 1 希望するライフコースで重視すること（単数）

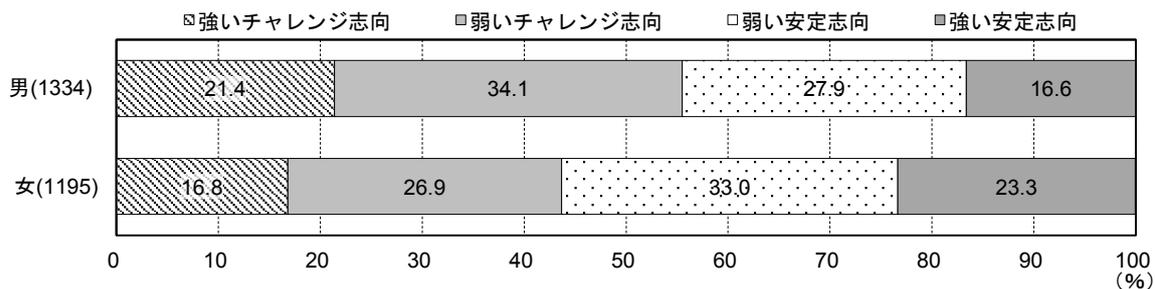
(男子)



(女子)



図Ⅳ-32 ライフコースの志向性



(注) 県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）によるウェイトバック集計である

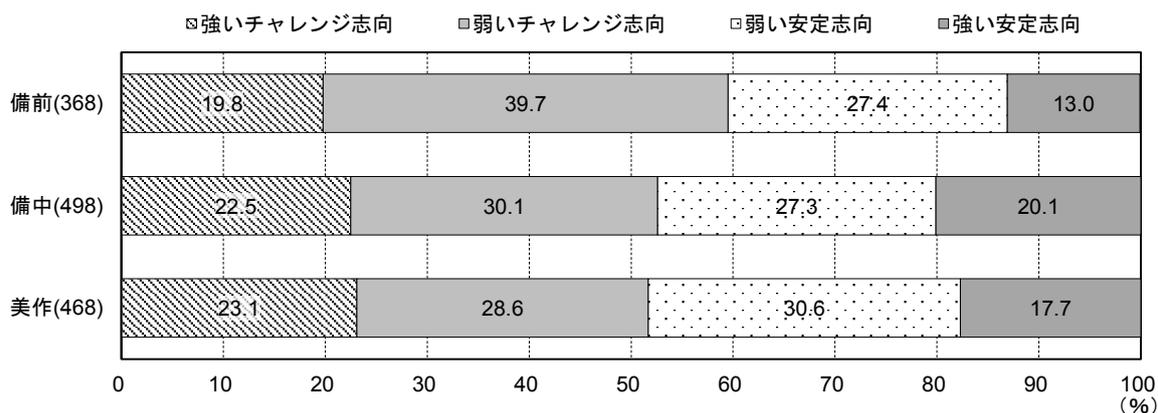
(県民局別の集計)

県民局別にみると、男子では、「強いチャレンジ志向」と「弱いチャレンジ志向」を合わせると、両者の割合は、備前が他地域に比べてやや多くなっている(図IV-33)。しかし、大きな差ではない。

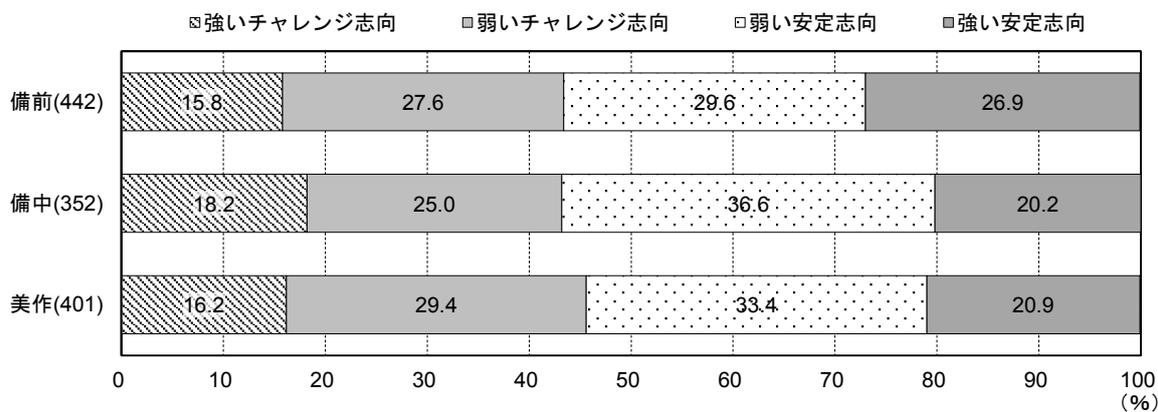
女子では、県民局別の差異は見られない。

図IV-33 県民局別にみたライフコースの志向性

(男子)



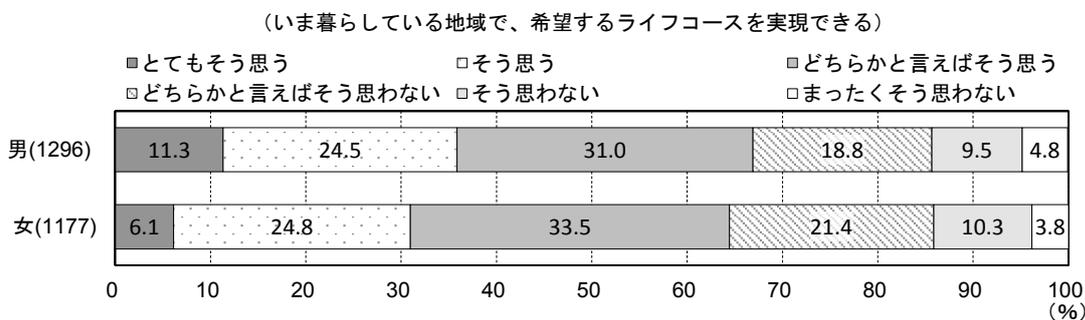
(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0803	0.0645
P値	0.0086	0.1268

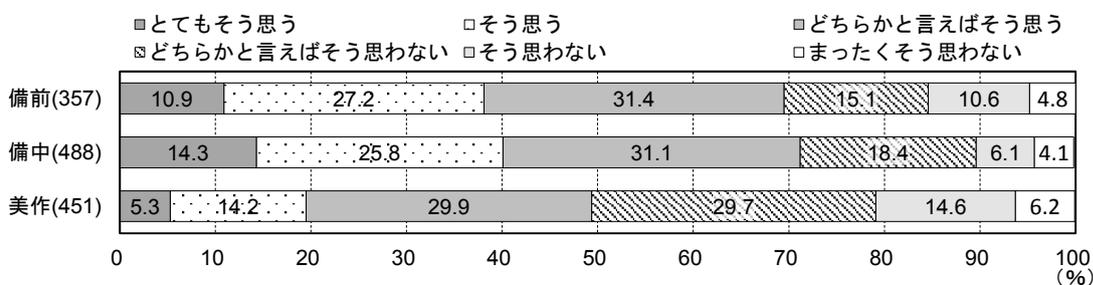
③希望するライフコースの実現可能性

図IV-34 暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性（単数）

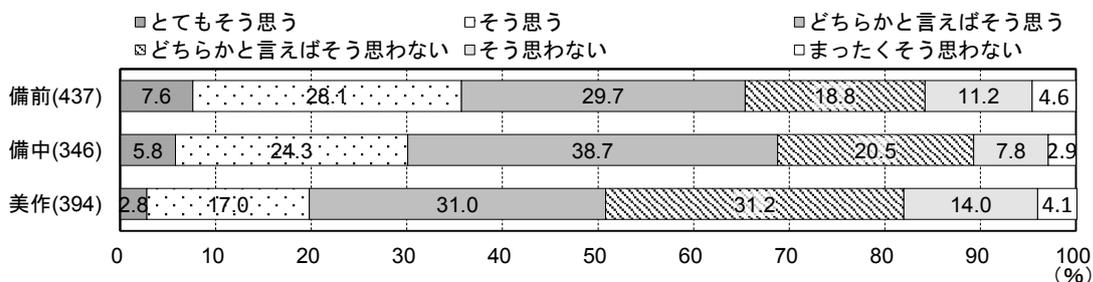


図IV-35 県民局別に見た、暮らしている地域での希望するライフコースの実現可能性（単数）

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1762	0.1436
P値	0.0000	0.0000

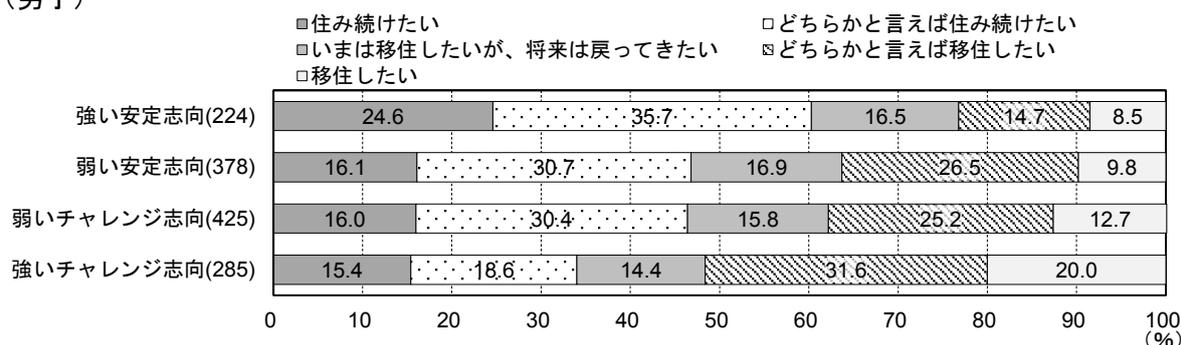
④ライフコースの志向性が定住意識に対して及ぼす影響

(チャレンジ志向が強いと移住希望者が多くなる)

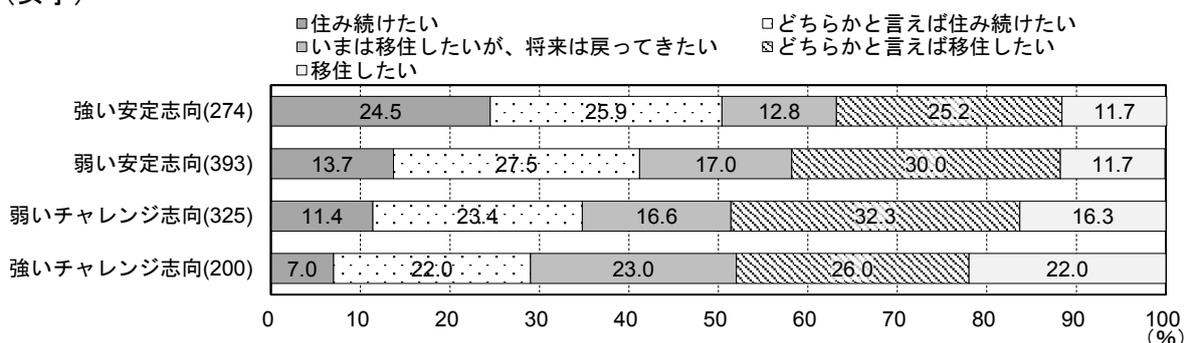
男女とも安定志向であると10%程度である「移住したい」が、「強いチャレンジ志向」では20%を上回るようになるなど、安定志向からチャレンジ志向に変わると、いま暮らしている地域からの移住希望者が多くなることが明らかである(図IV-36)。女子は、チャレンジ志向が強いと、Uターン希望者(将来は戻ってきたいが、いまは移住したい)も多くなる傾向がみられる。

図IV-36 ライフコースの志向別にみた定住意識(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1191	0.1224
P値	0.0000	0.0000

ライフコースは「安定志向」と「チャレンジ志向」の二区分とし、移住の希望は、「どちらかと言えば移住したい」と「移住したい」を「移住」、「住み続けたい」から「いまは移住したいが、将来は戻ってきたい」までを「定住」に区分し直した。「チャレンジ志向」であると「安定志向」に対して、「移住」の出現率は男子で1.7倍、女子で1.4倍となる(表IV-4)。

表IV-4 ライフコースの志向性の移住意識に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	ライフコースの志向性：チャレンジ志向				ライフコースの志向性：安定志向				オッズ比
	N	移住	定住	オッズ	N	移住	定住	オッズ	
男子	710	43.4	56.6	0.77	602	31.4	68.6	0.46	1.67
女子	525	48.4	51.6	0.94	667	39.7	60.3	0.66	1.42

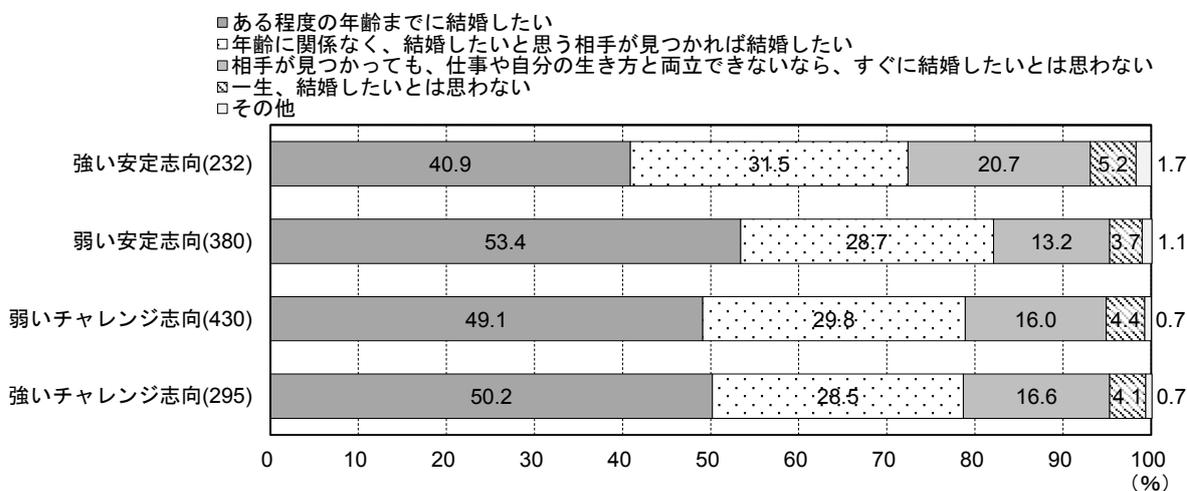
(2) ライフコースの志向性と結婚希望

高校生においては、ライフコースの志向性により定住・移住の意識に大きな差異があることがわかったが、次に、ライフコースの志向性や定住・移住の意識と結婚希望との関係をみた。

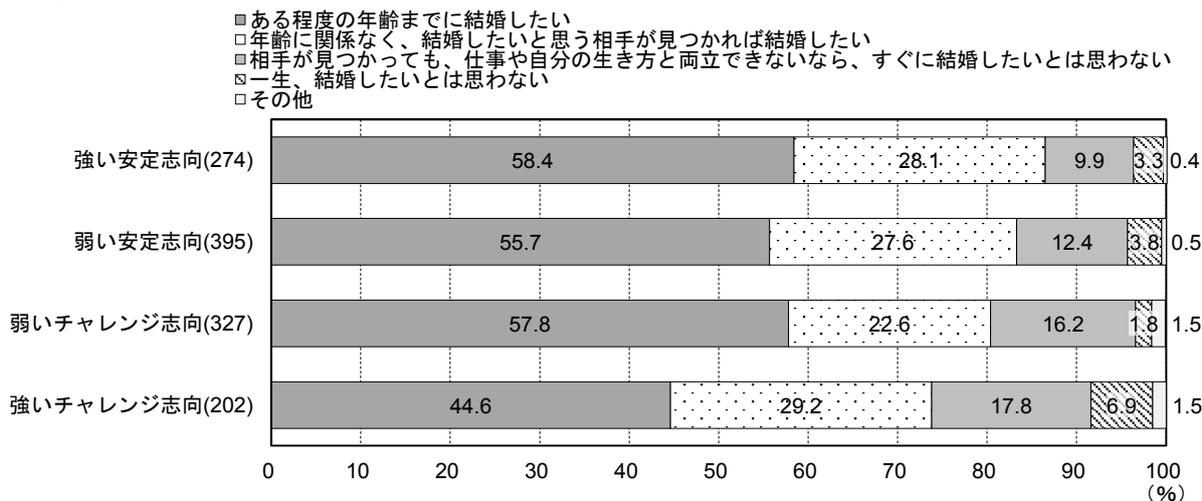
男子では、ライフコースの志向性による結婚希望の差異はほとんどみられない(図IV-37)。一方、女子においては、「相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐには結婚したいとは思わない」は、「強い安定志向」は10%であるが、「強いチャレンジ志向」では18%に上る。女子では安定志向からチャレンジ志向が強くなるにつれて、ライフコースと結婚を比較衡量する者の割合が徐々に増えていく傾向が明らかである。

図IV-37 ライフコースの志向性別にみた結婚についての考え(単数)

(男子)



(女子)



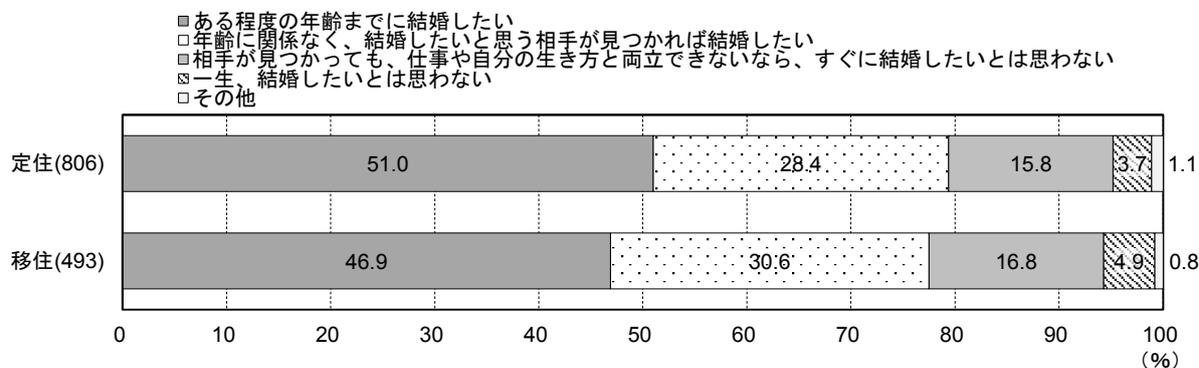
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0057	0.0822
P値	0.3668	0.0056

(定住意識と結婚希望)

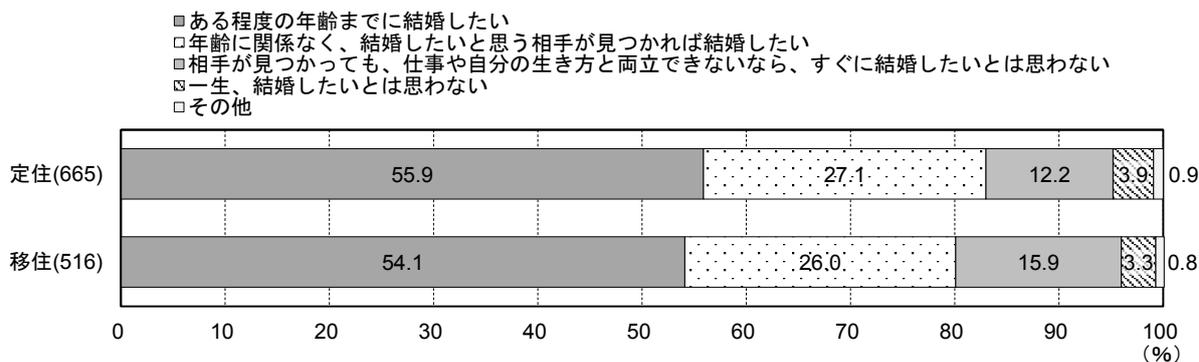
Uターン希望者を定住希望者に含め定住希望者と移住希望者の二つに区分して、結婚希望の回答をみると、男女とも、定住と移住でほとんど差はみられない(図IV-38)。

図IV-38 定住意識別にみた結婚についての考え(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0484	0.0550
P値	0.5504	0.4669

(3) 定住意識が及ぼす結婚意欲への影響

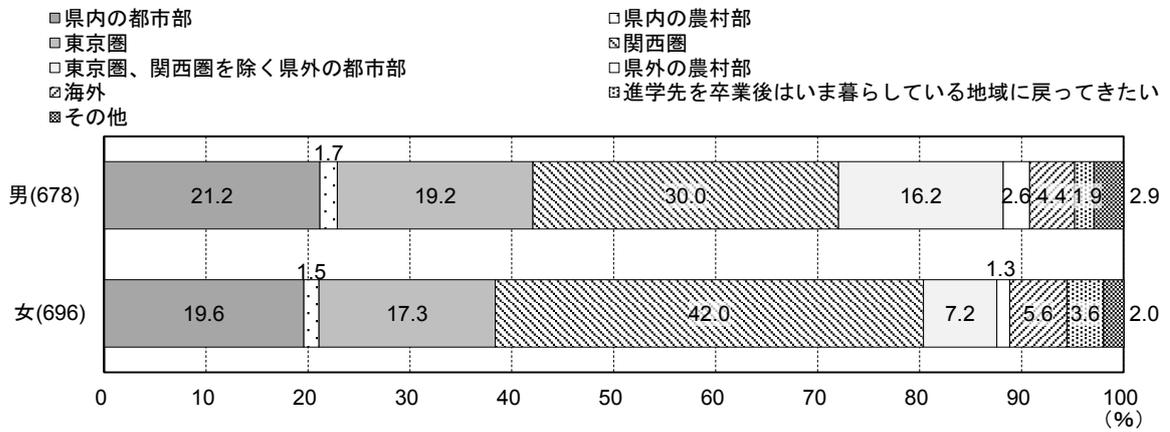
①ライフコースの志向性別にみた移住希望地域

(高校卒業後・進学先卒業後に移住を希望する地域)

図IV-29で把握した移住希望者とUターン希望者に対して、高校卒業後・進学先卒業後の移住希望地域を尋ねた。

結果、男子では「関西圏」が30%、「県内の都市部」が21%、「東京圏」が19%であった(図IV-39)。女子は、「関西圏」42%、「県内の都市部」20%、東京圏17%であり、男子より「関西圏」が多く、その分「東京圏、関西圏を除く県外の都市部」が少ない。

図IV-39 高校卒業後・進学先卒業後に移住を希望する地域
(移住希望者・Uターン希望者、単数)



(注) 県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)によるウェイトバック集計である

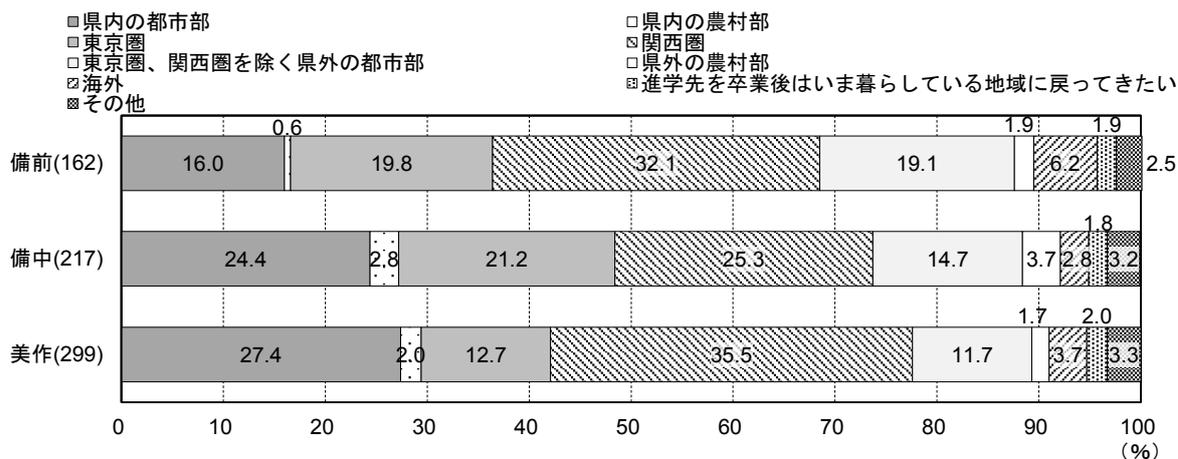
(県民局別の集計)

高校卒業後・進学先卒業後の希望の移動先は県民局別で差異がみられる。男子は、備中、美作は備前に比較して「県内の都市部」が少なく、備前は「東京圏」「東京圏、関西圏を除く県外の都市部」が他地域に比べ多くなっている(図IV-40)。

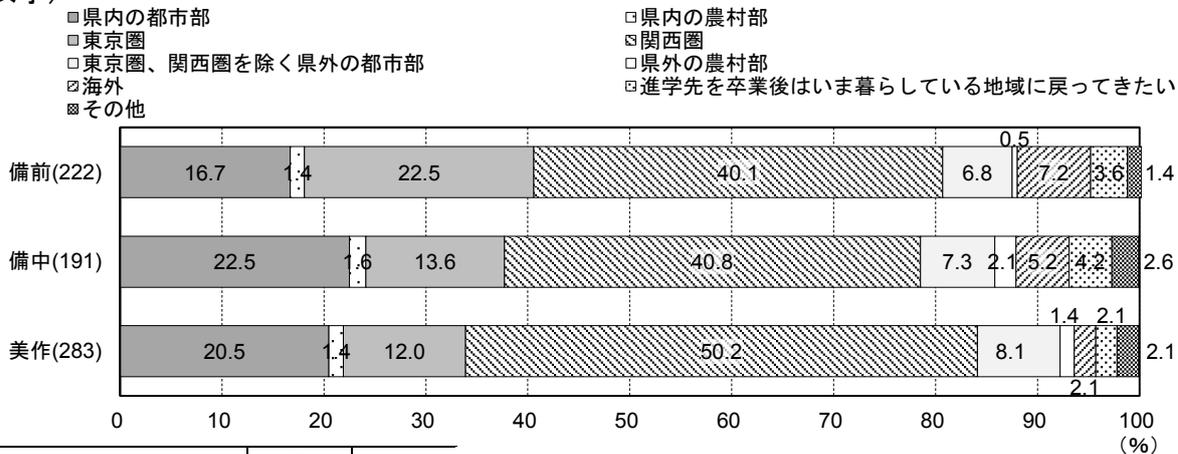
女子も男子と同様の傾向があるが、美作で「関西圏」が50%に達しているなどの特徴がみられる。

図IV-40 県民局別にみた高校卒業後・進学先卒業後に移住を希望する地域
(移住希望者・Uターン希望者、単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1434	0.1402
P値	0.0327	0.0377

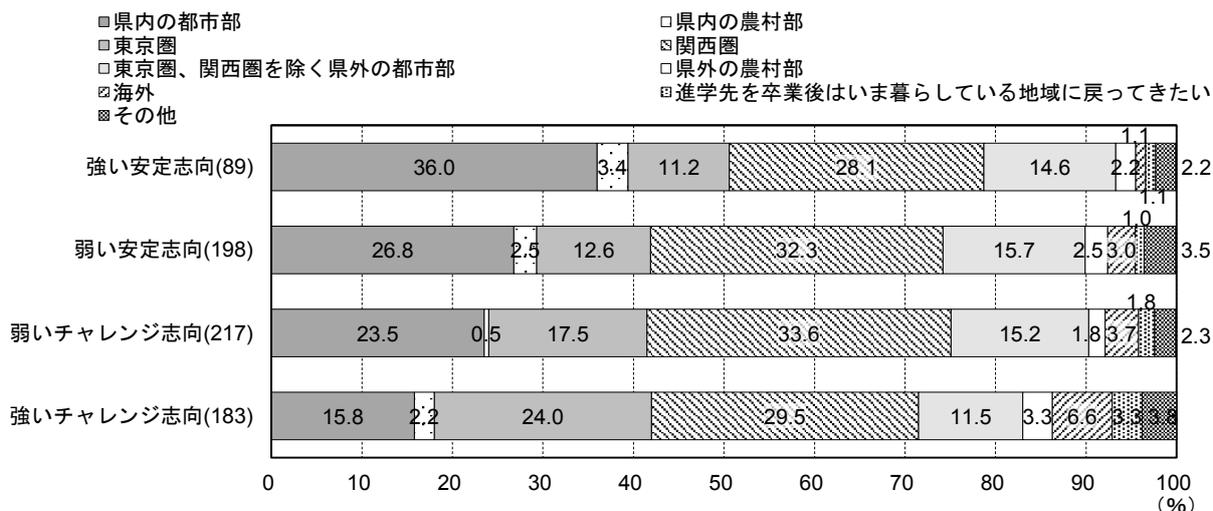
(チャレンジ志向であると移住希望地域は東京・海外が多い)

図IV-29で把握した移住希望者とUターン希望者に対して、高校卒業後・進学先卒業後の移住希望地域を尋ね、ライフコースの志向別で集計を行った(図IV-41)。

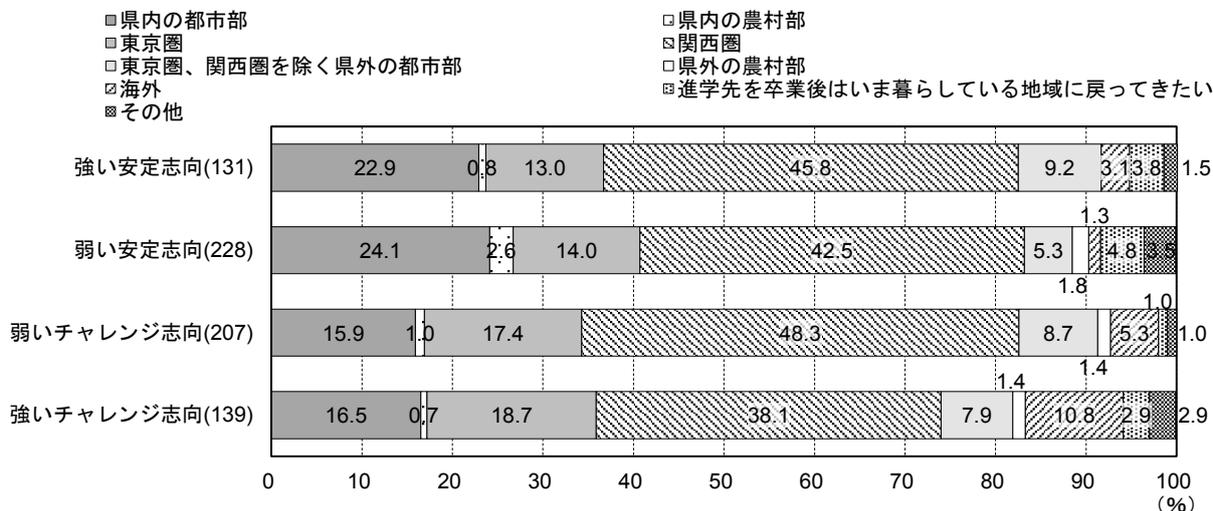
結果、同じ移住希望者・Uターン希望者でも、「強い安定志向」は「県内の都市部」が多く、チャレンジ志向が強くなるにつれて「東京圏」「海外」が多くなる傾向が明らかである。特に、男子で、その傾向が顕著に表れている。

図IV-41 ライフコースの志向性別にみた高校卒業後の移住希望地域
(移住希望者・Uターン希望者、単数)

(男子)



(女子)



②移住希望地域と結婚意欲との関係

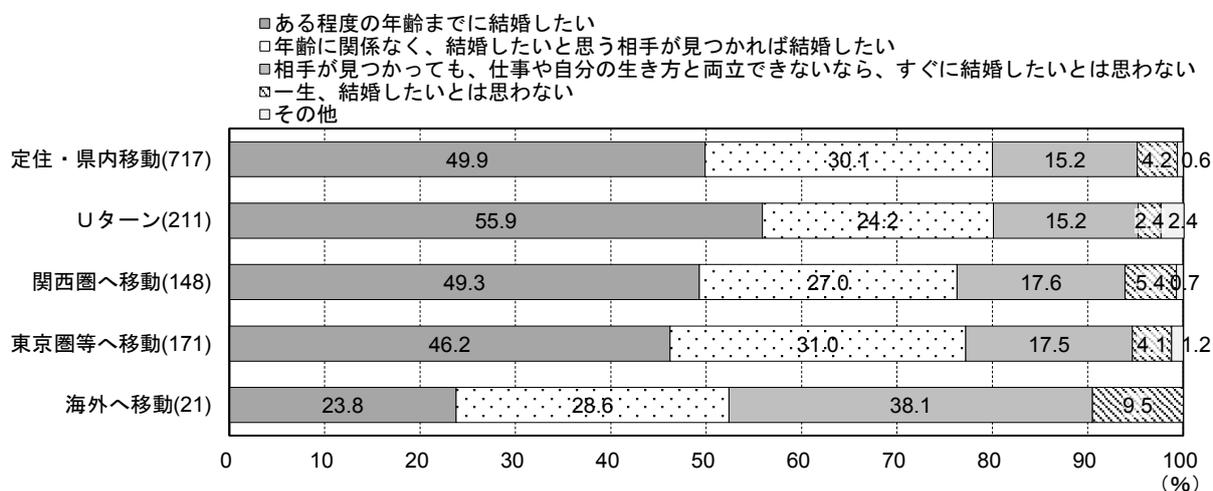
(移住希望地域が東京であるとライフコースと結婚を比較考量する者が多い)

移住希望地を分析軸にして結婚意欲を集計し、女子の結果をみると、「定住・県内移動」では「相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいと思わない」が10%であるのに対して、「関西圏へ移動」では15%、「東京圏等への移動」では24%に増加する(図IV-42)。男子では、同回答の「定住・県内移動」と、関西圏や東京圏への移動希望者との差は約2ポイントにとどまる。

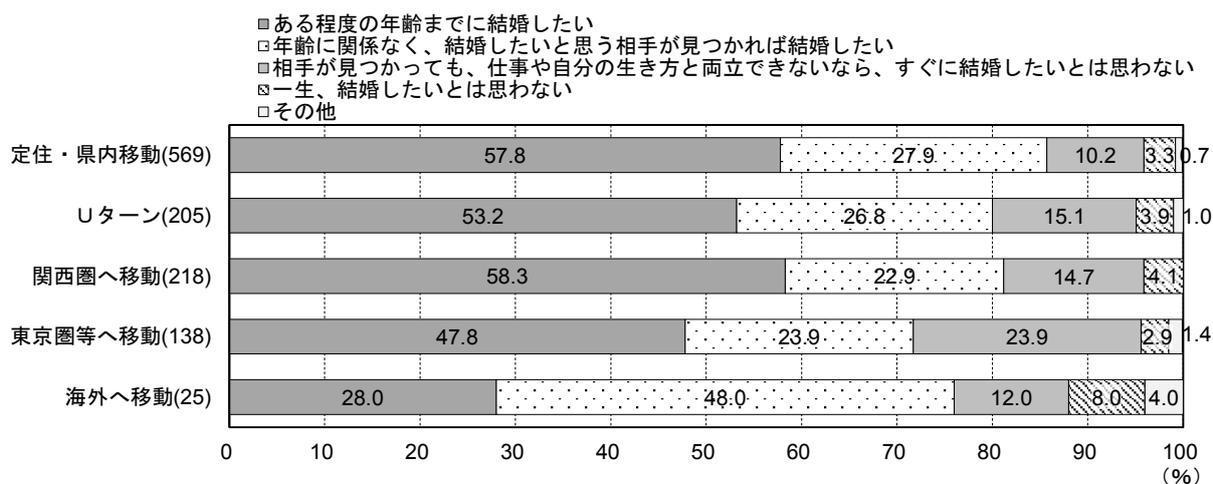
ライフコースのチャレンジ志向が強まると県外への移住志向が高まり、東京圏等を移住先に希望する女子ではライフコースと結婚を比較考量する意識が強く表れる。

図IV-42 移住希望地域別にみた結婚意欲(単数)

(男子)



(女子)



③定住意識と予想出生率

(女子では移住志向であると予想出生率が約0.2ポイント低い)

表IV-3で算出した結婚見通しと現実に持てる子ども数を元にした予想出生率は、男子1.99、女子1.84であった。

ここまでの分析を踏まえ、高校生の予想出生率を、定住志向、移住志向に分けて算出すると、男子では定住志向が2.01、移住志向が1.99となり、ほとんど差が表れなかった(表IV-5)。一方、女子では、定住志向1.92、移住志向1.74であり、約0.2ポイントの差が生じる(表IV-6)。このため、移住志向の女子高校生が多い地域では、それらの者が進学・就職を機に地域から転出することにより、見かけの上、出生率が上昇すると考えられる。

表IV-5 結婚見通しと現実に持てる子ども数を元に算出した出生率
(定住・移住志向別、男子)

(定住志向) N=808

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.09	0.50	0.32	0.05	0.03	0.01	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.07	0.48	0.34	0.06	0.04	0.01	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.14	0.51	0.18	0.06	0.07	0.06	1.00
	結婚できないかもしれない	0.12	0.40	0.18	0.03	0.01	0.26	1.00
	結婚したいとは思わない	0.06	0.34	0.17	0.00	0.00	0.43	1.00
② 現実子ども数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.09	1.00	0.95	0.20	0.16	0.00	2.40
	平均より早くなるかもしれない	0.07	0.97	1.02	0.24	0.19	0.00	2.49
	平均より遅くなるかもしれない	0.14	1.01	0.53	0.22	0.34	0.00	2.25
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.35	④=②×③					0.85
	平均より早くなるかもしれない	0.39						0.96
	平均より遅くなるかもしれない	0.09						0.20
	結婚できないかもしれない	0.11						0.00
	結婚したいとは思わない	0.06						0.00
現実予想ベースの出生率 (④の合計)								2.01

(移住志向) N=491

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.08	0.49	0.29	0.06	0.03	0.06	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.03	0.49	0.32	0.09	0.05	0.02	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.08	0.28	0.33	0.13	0.05	0.15	1.00
	結婚できないかもしれない	0.10	0.44	0.17	0.03	0.02	0.24	1.00
	結婚したいとは思わない	0.03	0.32	0.27	0.03	0.03	0.32	1.00
② 現実子ども数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.08	0.97	0.86	0.23	0.16	0.00	2.30
	平均より早くなるかもしれない	0.03	0.97	0.97	0.35	0.27	0.00	2.60
	平均より遅くなるかもしれない	0.08	0.55	0.98	0.50	0.25	0.00	2.35
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.31	④=②×③					0.72
	平均より早くなるかもしれない	0.42						1.08
	平均より遅くなるかもしれない	0.08						0.19
	結婚できないかもしれない	0.12						0.00
	結婚したいとは思わない	0.07						0.00
現実予想ベースの出生率 (④の合計)								1.99

(注) 生涯非婚は、現実子ども数の回答があっても出生率への寄与はゼロとした

表IV-6 結婚見通しと現実に持てる子ども数を元に算出した出生率
(定住・移住志向別、女子)

(定住志向) N=662

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.09	0.55	0.25	0.06	0.03	0.02	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.03	0.53	0.31	0.08	0.04	0.01	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.12	0.59	0.19	0.03	0.02	0.05	1.00
	結婚できないかもしれない	0.15	0.48	0.11	0.02	0.02	0.22	1.00
	結婚したいとは思わない	0.11	0.39	0.08	0.03	0.00	0.39	1.00
② 現実子ども 数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.09	1.11	0.76	0.23	0.13	0.00	2.32
	平均より早くなるかもしれない	0.03	1.06	0.93	0.33	0.19	0.00	2.53
	平均より遅くなるかもしれない	0.12	1.19	0.56	0.14	0.09	0.00	2.08
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.34	④=②×③					0.80
	平均より早くなるかもしれない	0.37						0.94
	平均より遅くなるかもしれない	0.09						0.19
	結婚できないかもしれない	0.14						0.00
	結婚したいとは思わない	0.05						0.00
現実予想ベースの出生率 (④の合計)								1.92

(移住志向) N=514

現実子ども数		1	2	3	4	5	0	合計
① 現実 子ども数	ほぼ平均通りだと思う	0.08	0.49	0.29	0.06	0.03	0.06	1.00
	平均より早くなるかもしれない	0.03	0.49	0.32	0.09	0.05	0.02	1.00
	平均より遅くなるかもしれない	0.08	0.28	0.33	0.13	0.05	0.15	1.00
	結婚できないかもしれない	0.10	0.44	0.17	0.03	0.02	0.24	1.00
	結婚したいとは思わない	0.03	0.32	0.27	0.03	0.03	0.32	1.00
② 現実子ども 数×①	ほぼ平均通りだと思う	0.08	0.97	0.86	0.23	0.16	0.00	2.30
	平均より早くなるかもしれない	0.03	0.97	0.97	0.35	0.27	0.00	2.60
	平均より遅くなるかもしれない	0.08	0.55	0.98	0.50	0.25	0.00	2.35
	結婚できないかもしれない	0	0	0	0	0	0	0.00
	結婚したいとは思わない	0	0	0	0	0	0	0.00
③ 構成比	ほぼ平均通りだと思う	0.32	④=②×③					0.73
	平均より早くなるかもしれない	0.33						0.80
	平均より遅くなるかもしれない	0.10						0.20
	結婚できないかもしれない	0.18						0.00
	結婚したいとは思わない	0.07						0.00
現実予想ベースの出生率 (④の合計)								1.74

(注) 生涯非婚は、現実子ども数の回答があっても出生率への寄与はゼロとした

④定住・移住に当たって重視すること

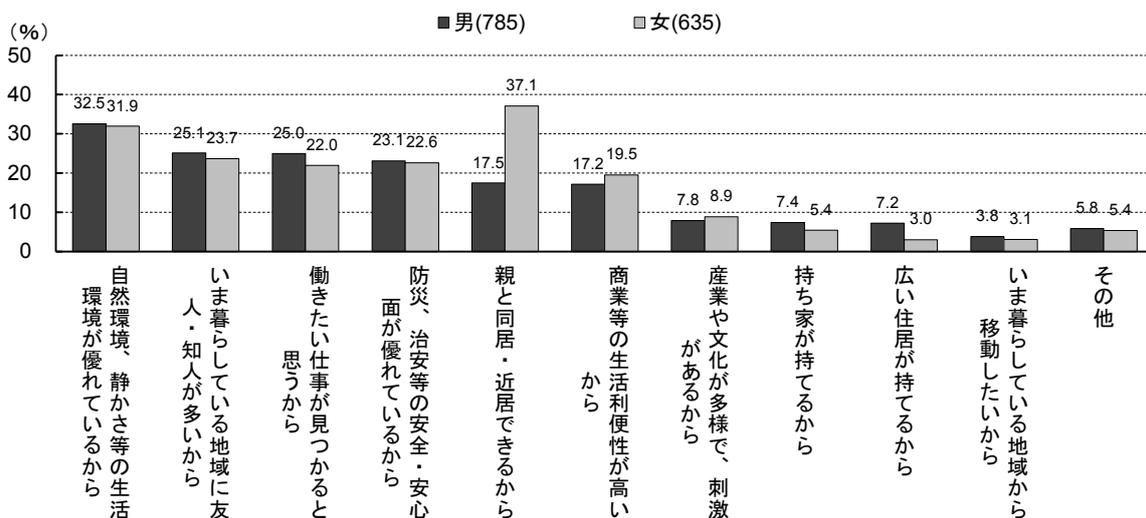
(定住希望の女子では「親と同居・近居できるから」が最も多い)

定住希望者(Uターン希望者を含む)が定住に当たって重視することは、男女とも、「自然環境、静けさ等の生活環境が優れているから」「いま暮らしている地域には友人・知人が多いから」「働きたい仕事が見つかるから」等が多いが、女子では「親と同居・近居できるから」が37%と最多である(図IV-43)。この結果から、女子は高校卒業後の移動により、家族とのきずなを重視し、社会関係性が強い者が地域に残ることが考えられる。

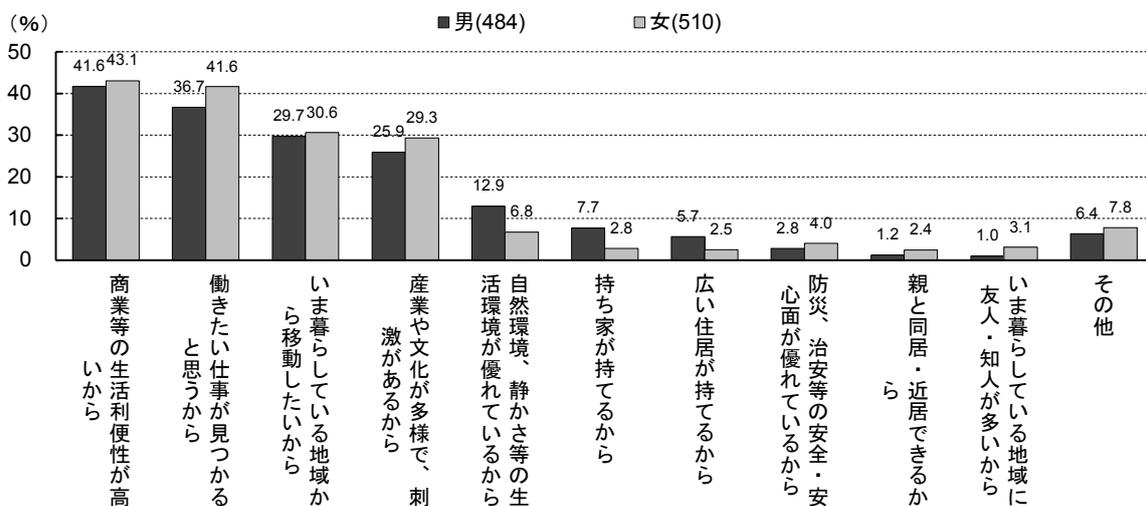
移住希望者の移住に当たって重視することは、「商業等の生活利便性が高いから」「働きたい仕事が見つかるから」「いま暮らしている地域から移動したいから」等が多い。これらの項目は全般に男子より女子で回答が多くなっている。また、「働きたい仕事が見つかるから」は定住希望者でも上位であるものの、移住希望者の方の割合が高い。

図IV-43 定住・移住に当たって重視すること(複数)

(定住希望者)



(移住希望者)



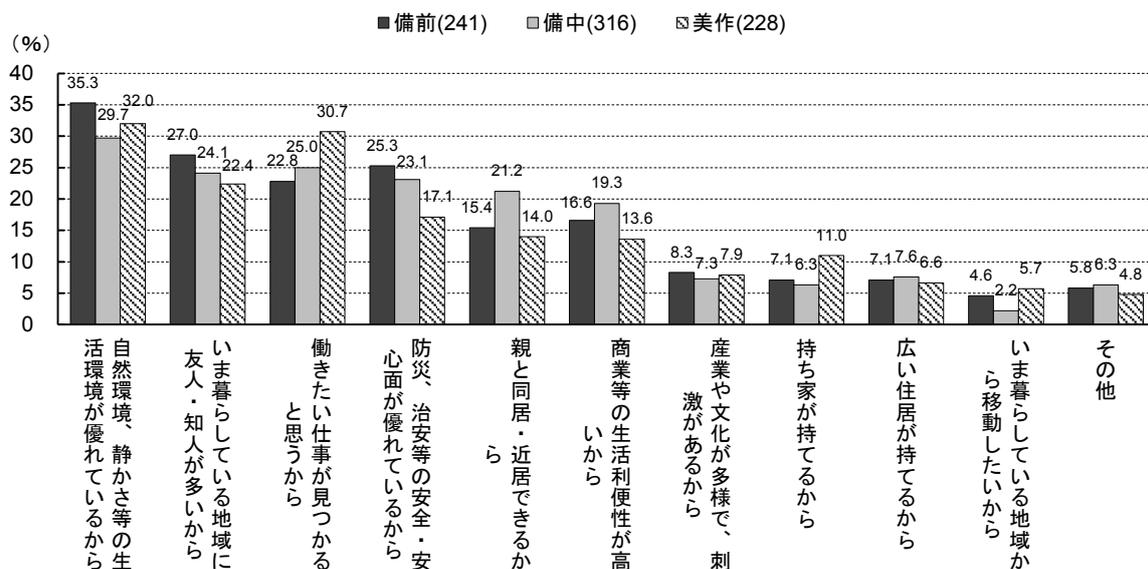
(注) 県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)によるウエイトバック集計である

(県民局別の集計)

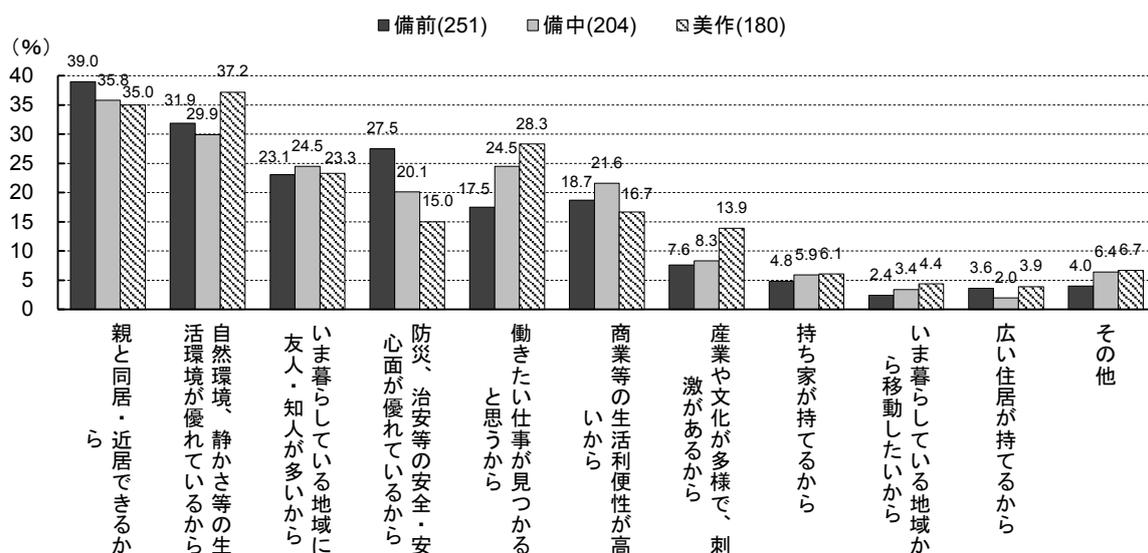
定住希望者の重視点について県民局別にみると、「働きたい仕事が見つかると思うから」が、男女とも美作、備中、備前の順で回答が多い(図IV-44)。「防災、治安等の安全・安心面が優れているから」は、反対に、備前、備中、美作の順である。

移住希望者では、男女とも「働きたい仕事が見つかると思うから」が美作で多くなっている(図IV-45)。美作では、いま暮らしている地域で定住するにしろ、移住するにしろ、働きたい仕事が見つかるかどうか希望を決める上で重視されている。

図IV-44 県民局別にみた定住・移住に当たって重視すること(定住希望者、複数)
(男子)

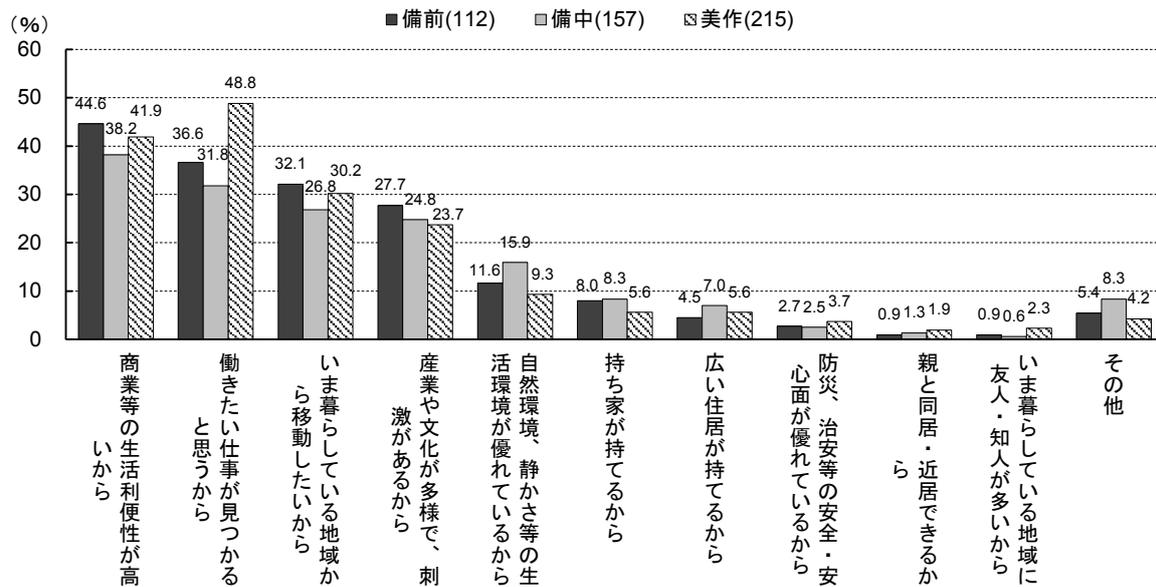


(女子)

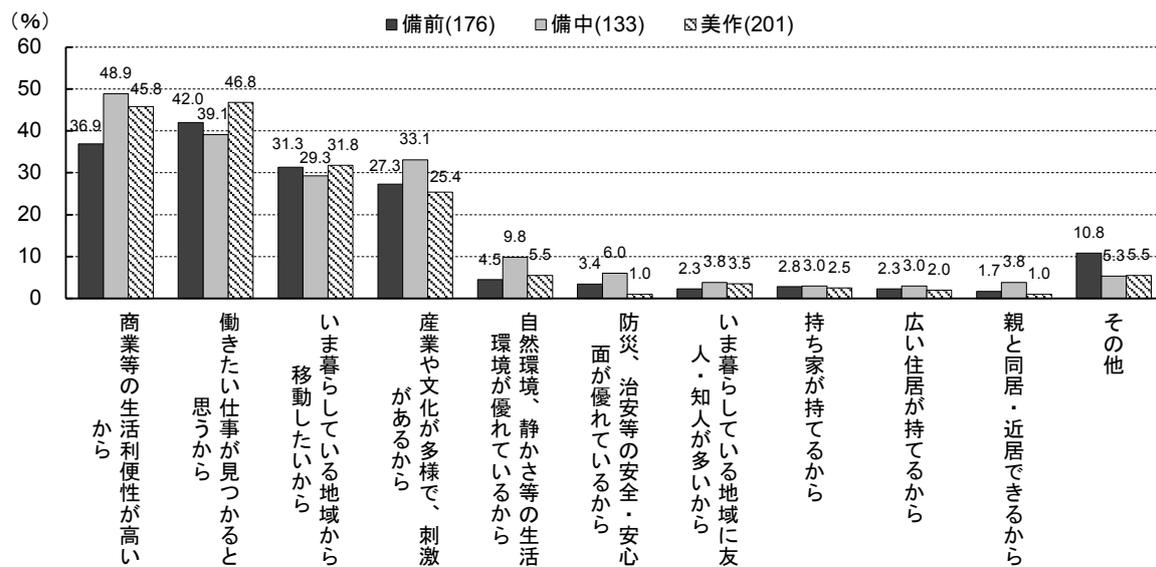


図Ⅳ－４５ 県民局別にみた定住・移住に当たって重視すること（移住希望者、複数）

(男子)



(女子)

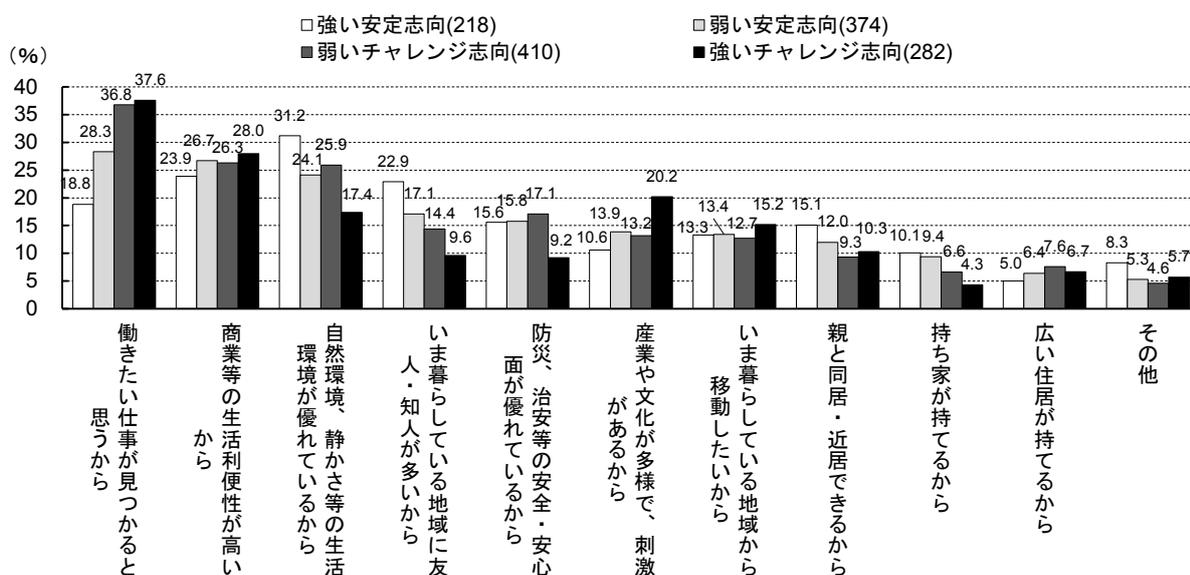


(ライフコースの志向別にみた定住・移住に当たって重視すること)

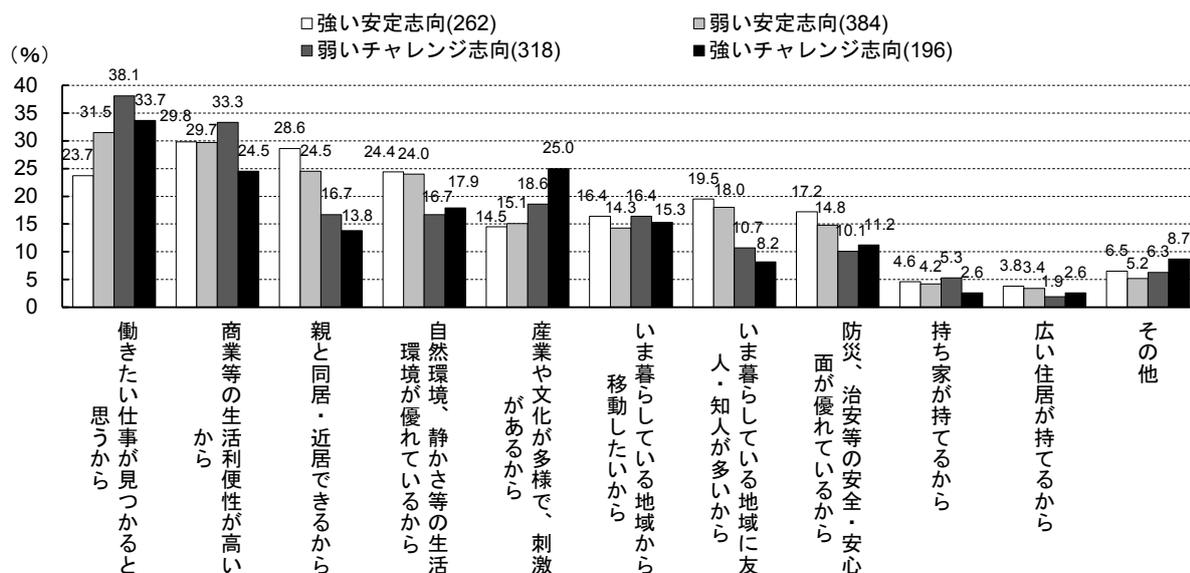
安定志向かチャレンジ志向かにより傾向が表れる重視点は、男子では、「働きたい仕事が見つかると思うから」や「いま暮らしている地域に友人・知人が多いから」などであり、前者はチャレンジ志向、後者は安定志向で回答が多い(図IV-46)。

女子でも上記の特徴がみられることに加えて、「親と同居・近居できるから」「産業や文化が多様で刺激があるから」でも明確な傾向が表れている。前者は安定志向、後者はチャレンジ志向で回答が多くなっている。

図IV-46 ライフコースの志向性別にみた定住・移住に当たって重視すること(複数)
(男子)



(女子)



2. 社会関係性の影響

(1) 高校生が持つ社会関係性の強さの把握

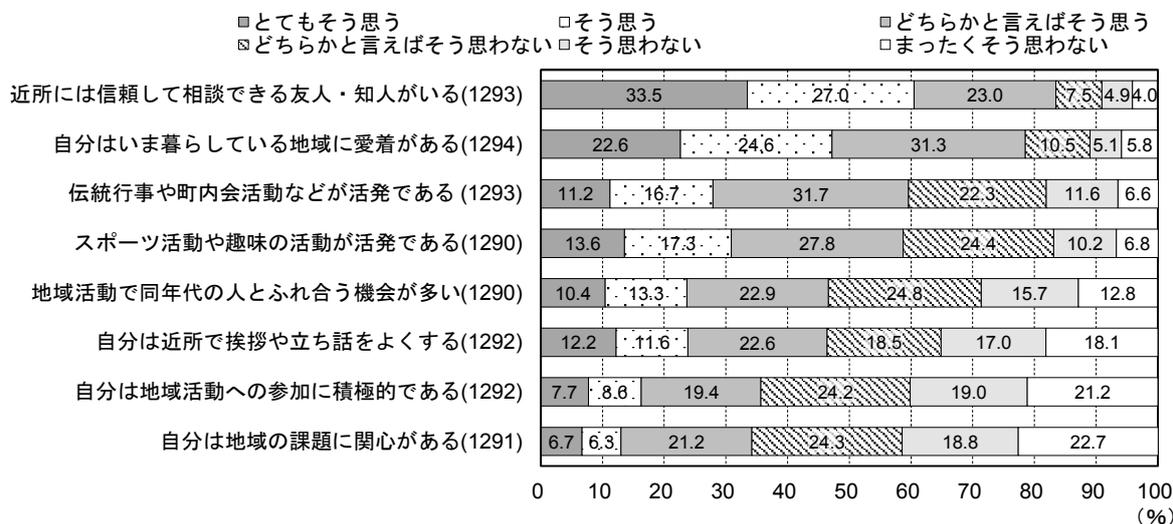
(高校生を取り巻く地域コミュニティの活発度や地域社会と関わり方の把握)

高校生は、学校やコミュニティ活動等を通じて地域との関わりを得るチャンネルが多いと考えられるため、ライフコースとともに、「社会関係性」が結婚や子どもを持つ意欲等に強い影響を及ぼしていることが考えられる。

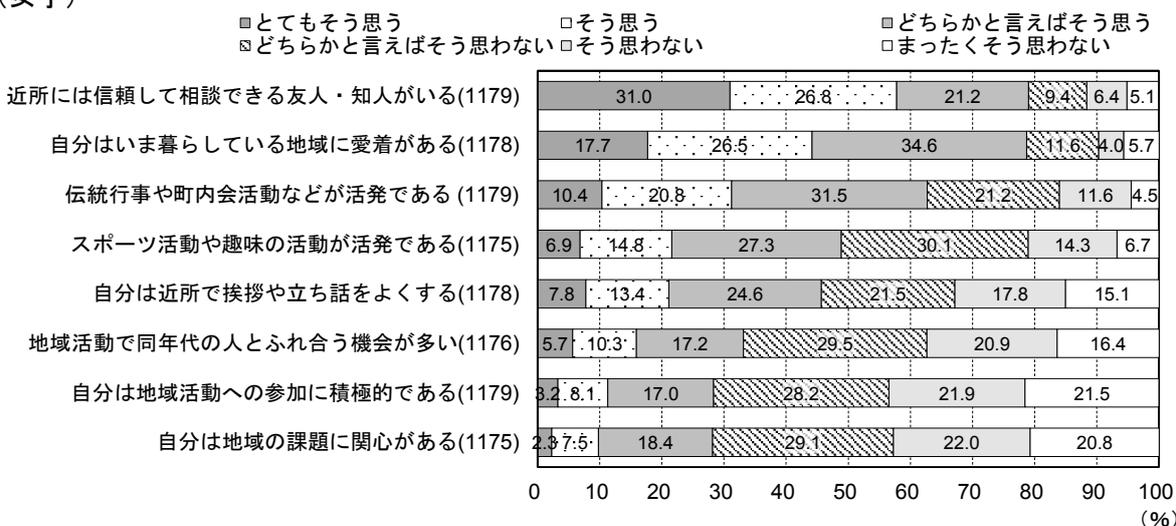
一般調査と同様、高校生を取り巻く地域コミュニティの活発度や自分自身の地域社会との関わり方について質問し、一人ひとりの高校生が保有する社会関係性の強さを把握した(図IV-47)。

図IV-47 高校生を取り巻く地域コミュニティの活発度及び高校生の地域社会との関わり方(単数)

(男子)



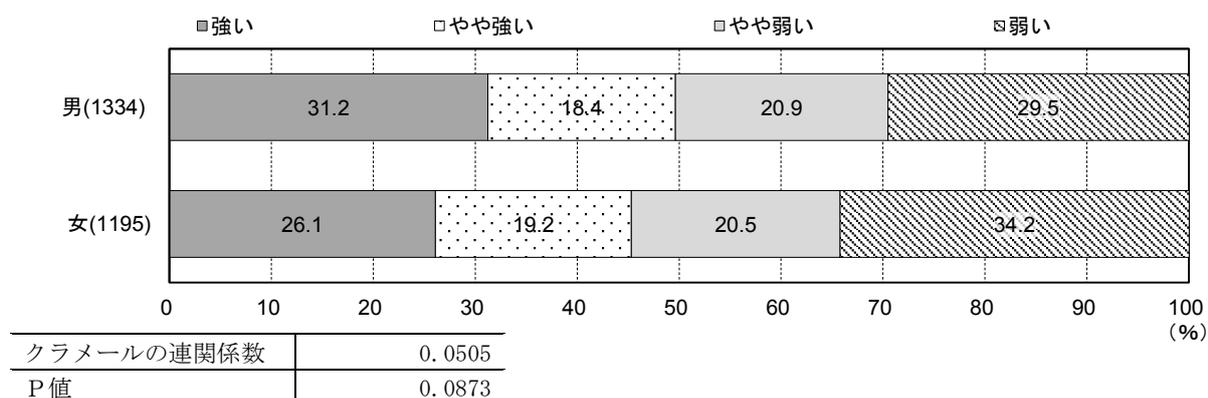
(女子)



一般調査と同じように、八つの質問の回答結果を点数化した上で、主成分分析により各質問より得られた点数を合成し、第一主成分を高校生の「社会関係性」の保有量を示す指標とした。作成された指標は標準化（平均値0、標準偏差1）されており、-1、0、1を区切りにして、高校生の社会関係性の保有量を四つに区分した（図IV-48）。

男女で比較すると、女子によりも男子の方がいくらか社会関係性が強いとみられるが、その差は大きくない。

図IV-48 社会関係性の強さ



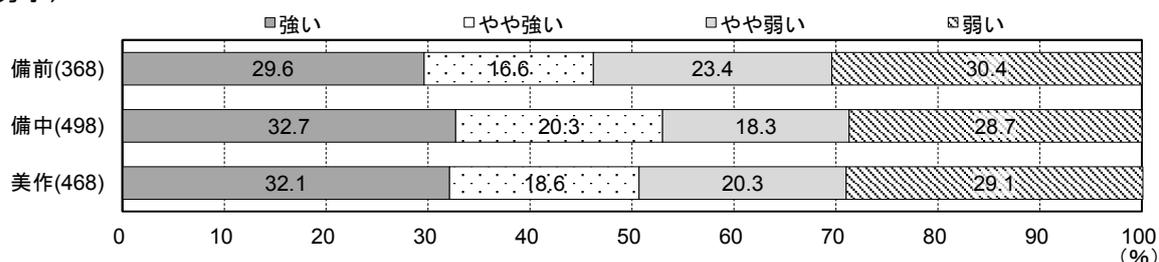
(注) 1. 県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）によるウェイトバック集計である。
 2. 一般調査と高校生調査では、別々に主成分分析を実施したため、一般未婚者や一般全数との比較は示していない。

(県民局別の集計)

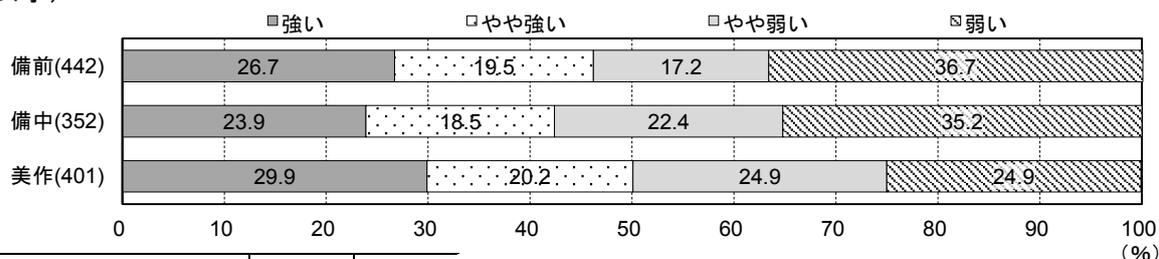
県民局別に高校生が保有する社会関係性の強さをみると、男子では差異はみられないものの、美作局の女子の社会関係性が他局に比べていくらか強く表れた（図IV-49）。

図IV-49 県民局別にみた社会関係性の強さ

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0044	0.0899
P値	0.5218	0.0037

(2) 結婚意欲に対する影響

(社会関係性は男子の結婚意欲に強く影響)

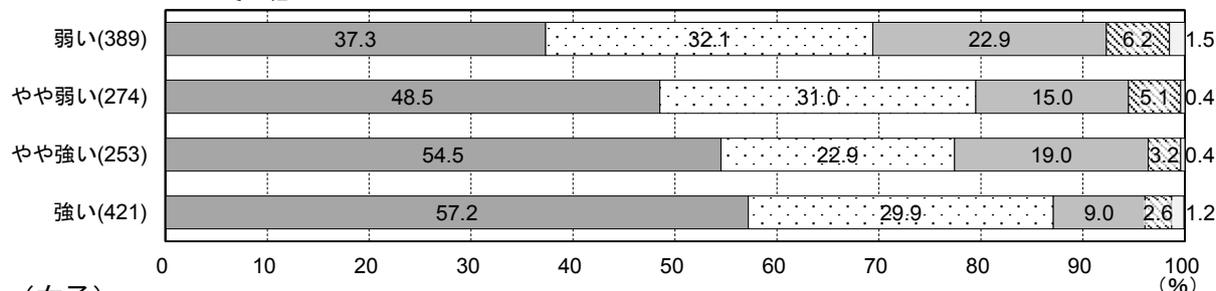
高校生では、社会関係性の保有量が多くなると結婚意欲が強くなる傾向がみられる(図IV-50)。特に、男子では、社会関係性が「弱い」と年齢志向は37%にとどまるものの「強い」では57%に達する。

他方、一般未婚者と一般既婚者について社会関係性と結婚意欲との関係を調べたが、男女とも両者に明確な関係はみられなかった。

図IV-50 社会関係性の強さ別にみた結婚についての考え(単数)

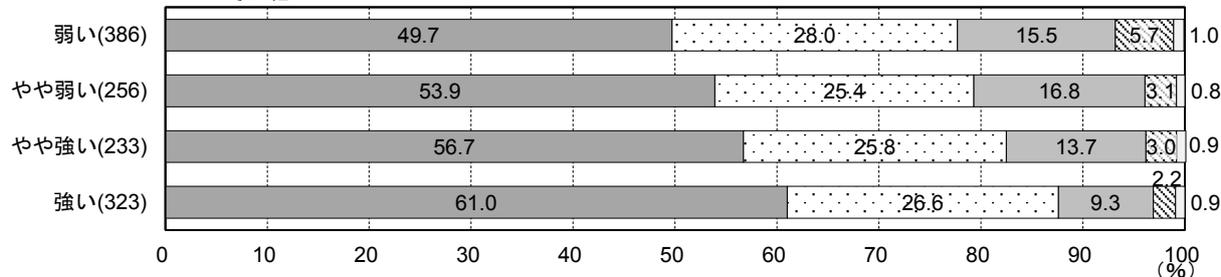
(男子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨ 相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩ 一生、結婚したいとは思わない
- その他



(女子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨ 相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩ 一生、結婚したいとは思わない
- その他



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1217	0.0726
P値	0.0000	0.0905

社会関係性が結婚意欲に与える影響の強さを把握すると、社会関係性が「強」であると、「弱」に比較して「意欲強(年齢志向)」の出現率が男子では1.8倍、女子では1.4倍になる(表IV-7)。特に男子で、社会関係性は結婚意欲に対し強い影響を及ぼしている。

表IV-7 社会関係性の強さの結婚意欲に対する影響の強さ

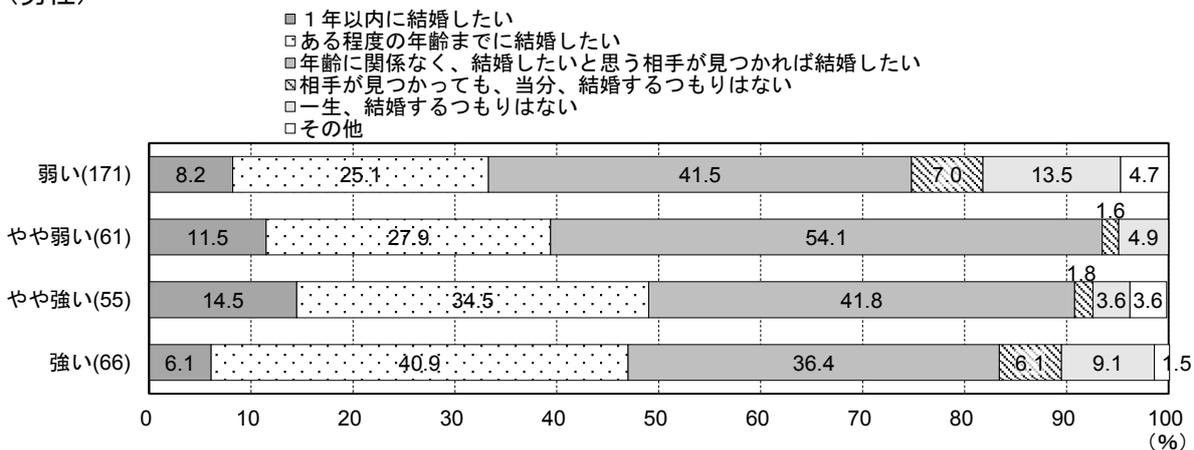
(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男子	674	56.2	43.8	1.28	663	41.9	58.1	0.72	1.78
女子	556	59.2	40.8	1.45	642	51.4	48.6	1.06	1.37

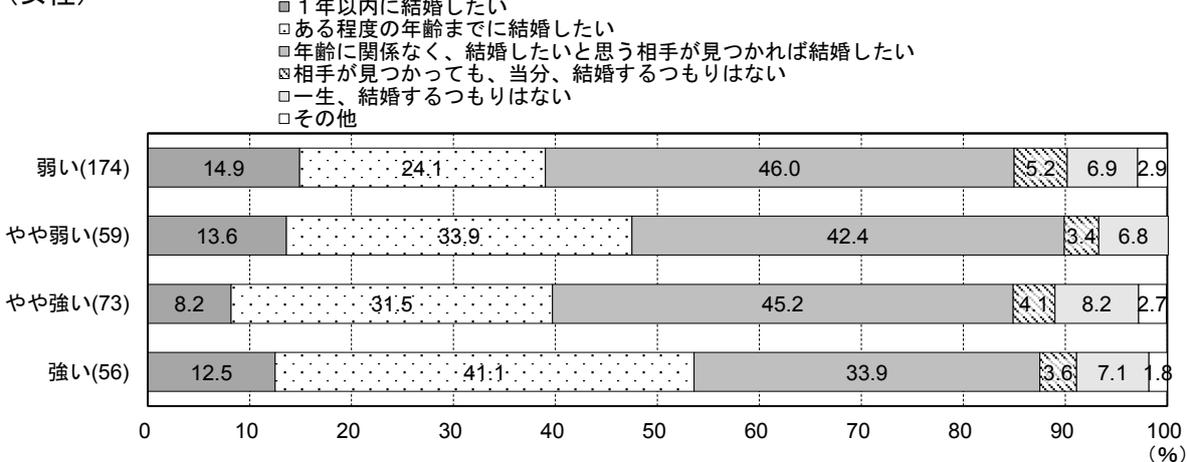
参考として、一般未婚者と一般既婚者について、社会関係性と結婚意欲との関係を見ると、男女とも両者に明示的な関係はみられなかった(図IV-51、図IV-52)。他の要因(所得や交際経験による結婚見通し等)の影響が小さいことなどから、社会関係性と結婚意欲のクロス集計で明確な相関が表れることは高校生の特徴であると考えられる。

図IV-51 社会関係性の強さ別にみた結婚についての考え(一般未婚者、単数)

(男性)



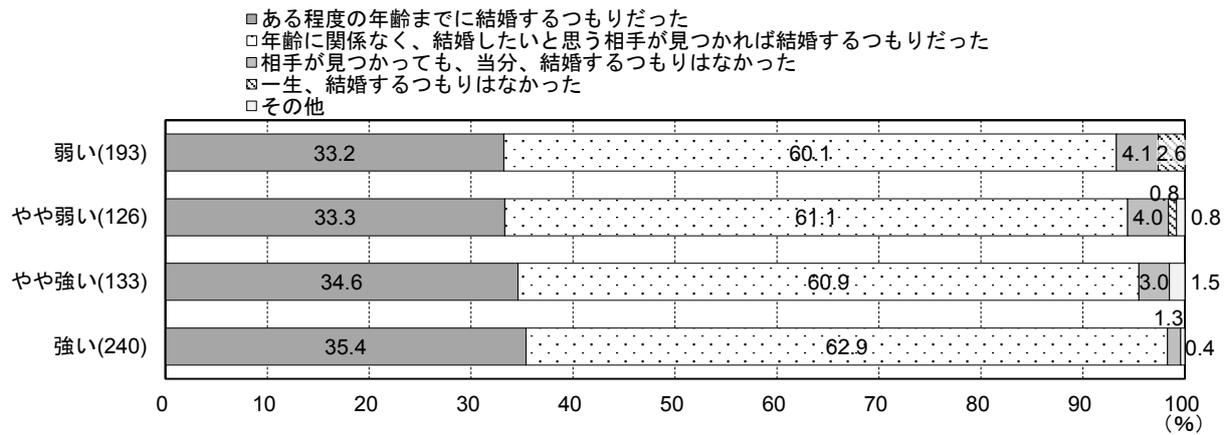
(女性)



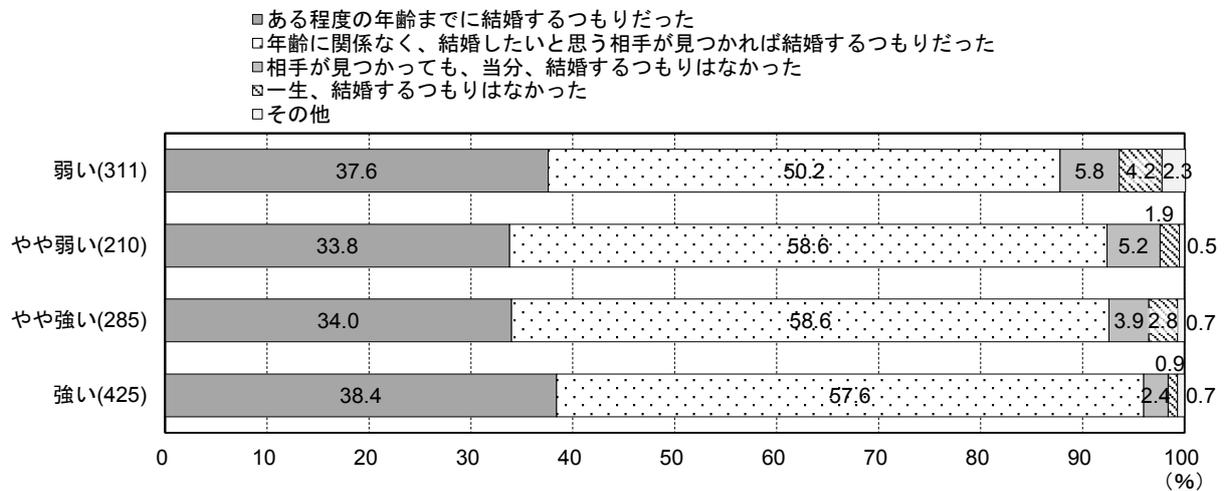
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1496	0.0977
P値	0.0703	0.7958

図IV-52 社会関係性の強さ別にみた結婚についての考え（一般既婚者、単数）

（男性）



（女性）



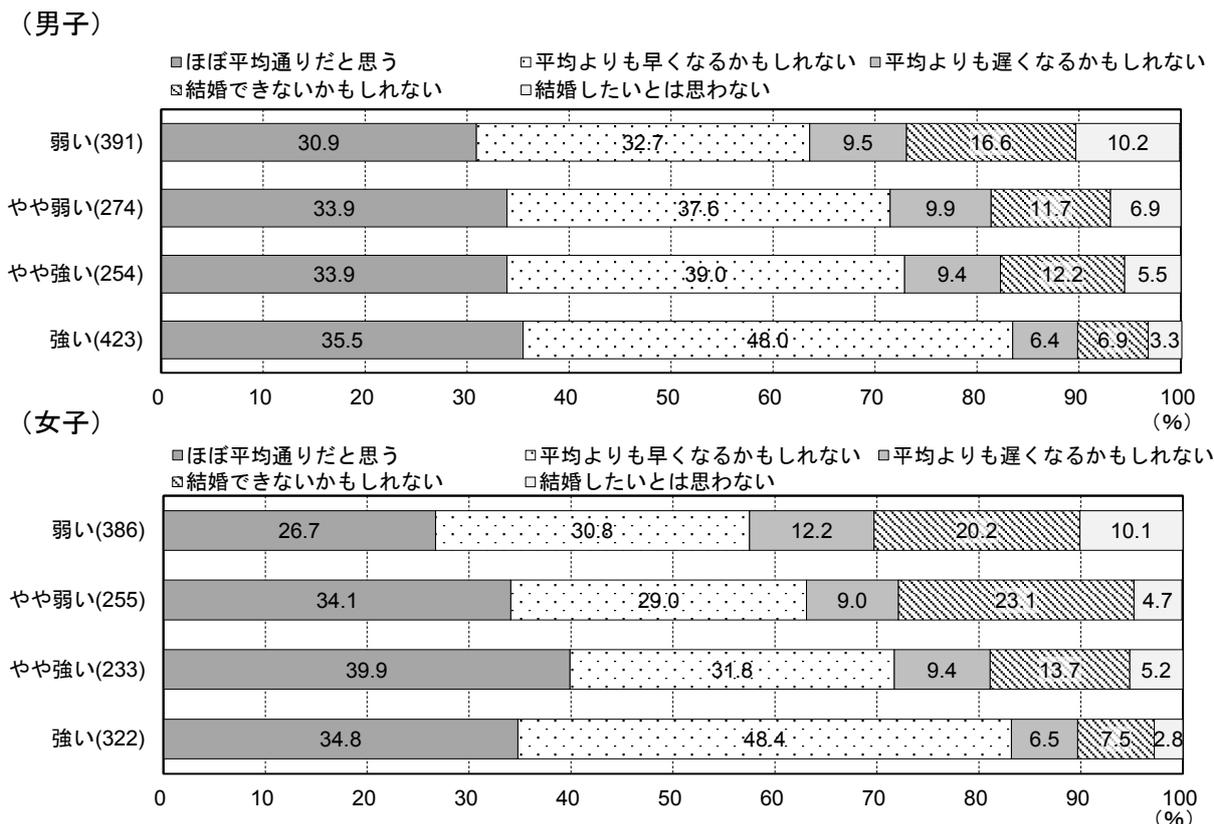
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0913	0.0811
P値	0.1387	0.0185

(3) 結婚見通しに対する影響

(社会関係性は結婚の実現支援を期待させる効果を持つ)

社会関係性の強さ別に結婚見通しを集計すると、男女とも、社会関係性が強くなるほど、「平均より結婚が遅くなる」「結婚できないかもしれない」「結婚したいとは思わない」が明らかに減少していく(図IV-53)。

図IV-53 社会関係性の強さ別にみた結婚見通し(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1107	0.1502
P値	0.0000	0.0000

男子では社会関係性が「強」であると、結婚の見通しについて「平均的・早くなる」の出現率は「弱」の1.9倍となり、女子では2.5倍となる(表IV-8)。結婚意欲に比べて出現率の変化は大きく、社会関係性は結婚意欲の醸成よりも結婚の実現支援を期待させる効果を持つと考えることができる。

表IV-8 社会関係性の強さの結婚見通しに対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強			社会関係性：弱			オッズ比
	N	平均的・早まる	遅くなる・非婚	N	平均的・早まる	遅くなる・非婚	
男子	677	79.5	20.5	665	66.9	33.1	1.91
女子	555	78.4	21.6	641	59.8	40.2	2.44

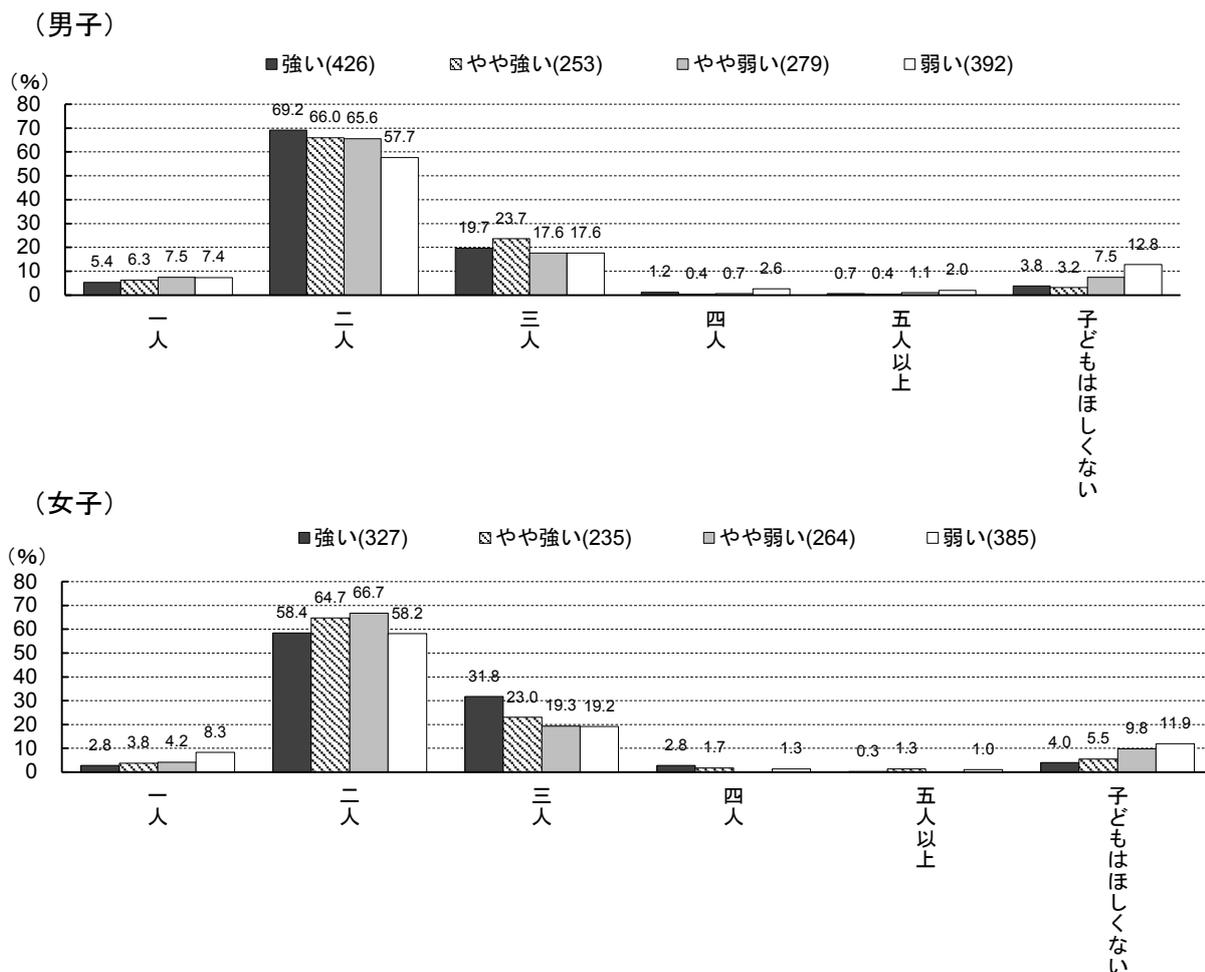
(4) 理想の子ども数に対する影響

(社会関係性は女子の理想の子ども数に強く影響)

次に、社会関係性と理想の子ども数の関係を調べると、男女とも「子どもはほしくない」が、社会関係性が強まると減少するなどの関係がみられる(図IV-54)。

加えて、女子では社会関係性が強まると「三人」が多くなる。このため、女子では、社会関係性の「弱」に対して「強」では「三人以上」の出現率が1.7倍になる(表IV-9)。

図IV-54 社会関係性の強さ別にみた理想の子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1130	0.1275
P値	0.0000	0.0000

表IV-9 社会関係性の強さの理想の子ども数に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男子	679	22.7	77.3	0.29	671	21.0	79.0	0.27	1.10
女子	562	31.1	68.9	0.45	649	20.6	79.4	0.26	1.74

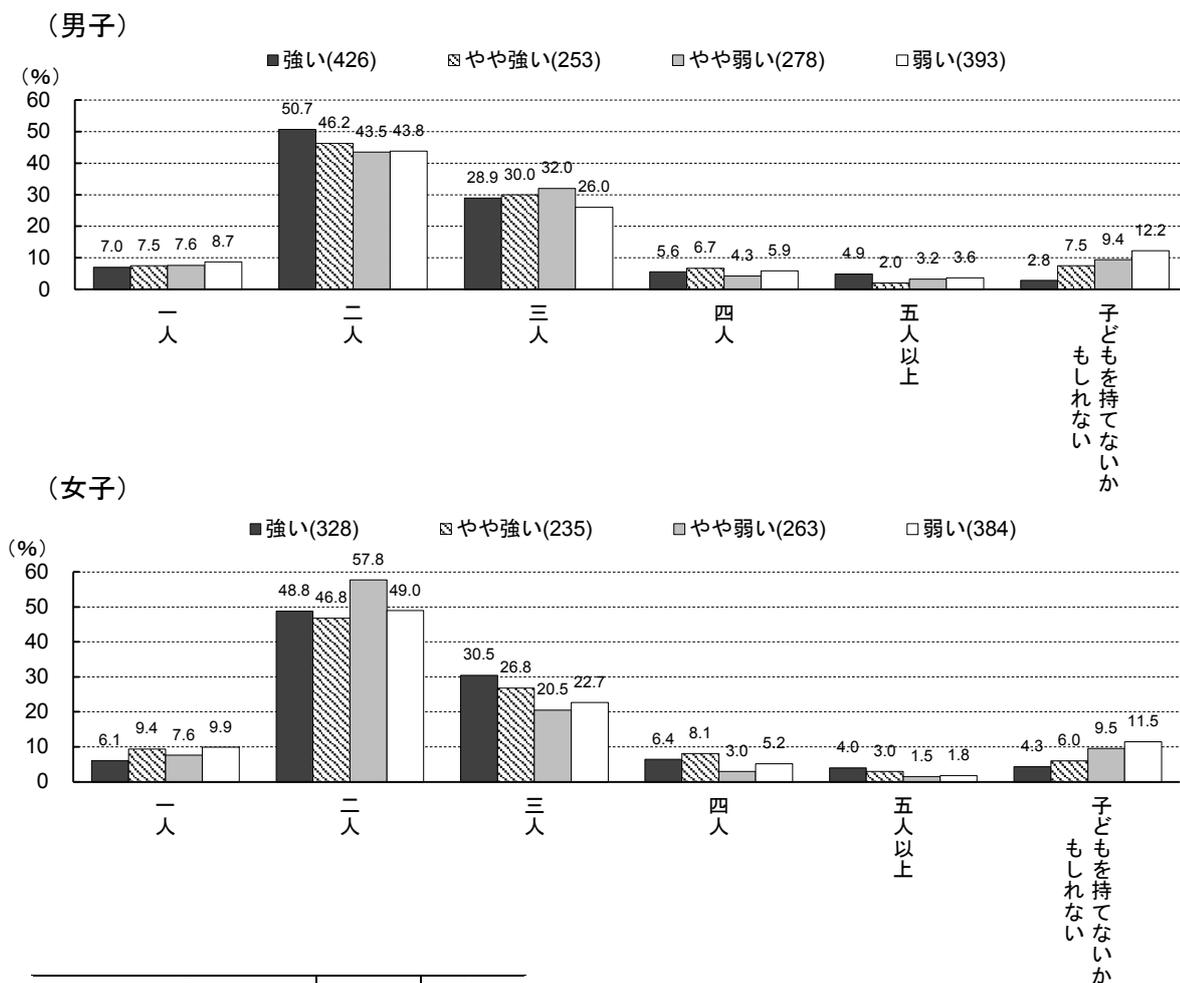
(5) 現実に持てる子ども数に対する影響

(現実に持てる子ども数に対しても社会関係性は女子で強く影響)

社会関係性と実際に持てる子ども数では、男女とも「子どもを持ってないかもしれない」が、社会関係性が強まると減少する(図IV-55)。

また、理想の子ども数と同様に、女子では社会関係性が強まると「三人」が多くなっている。このため、女子では、社会関係性の「弱」に対して「強」では「三人以上」の出現率が1.7倍になる(表IV-10)。

図IV-55 社会関係性の強さ別にみた現実に持てると思う子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0936	0.1032
P値	0.0021	0.0007

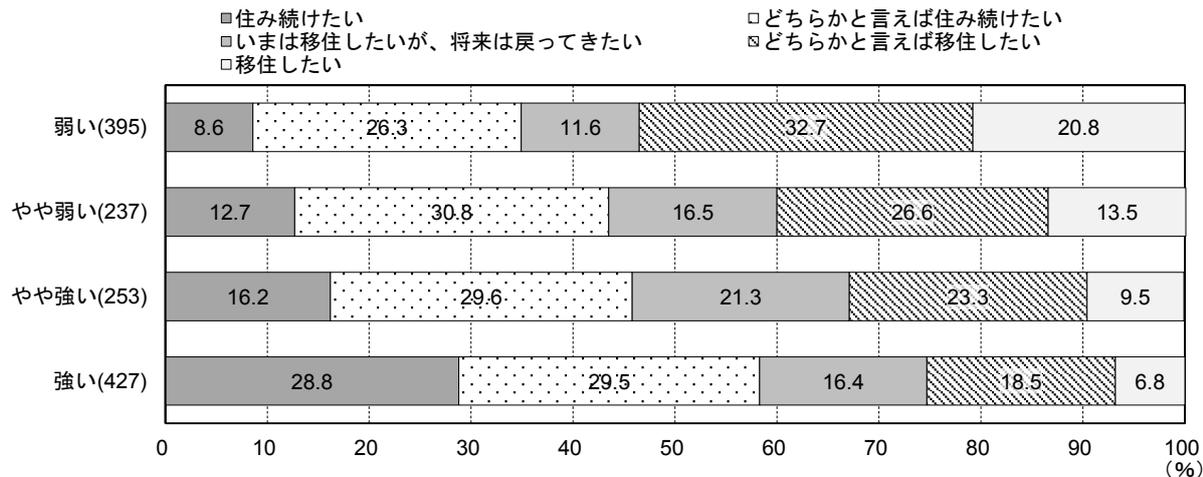
表IV-10 社会関係性の強さの実際に持てる子ども数に対する影響の強さ

(件、%、倍)

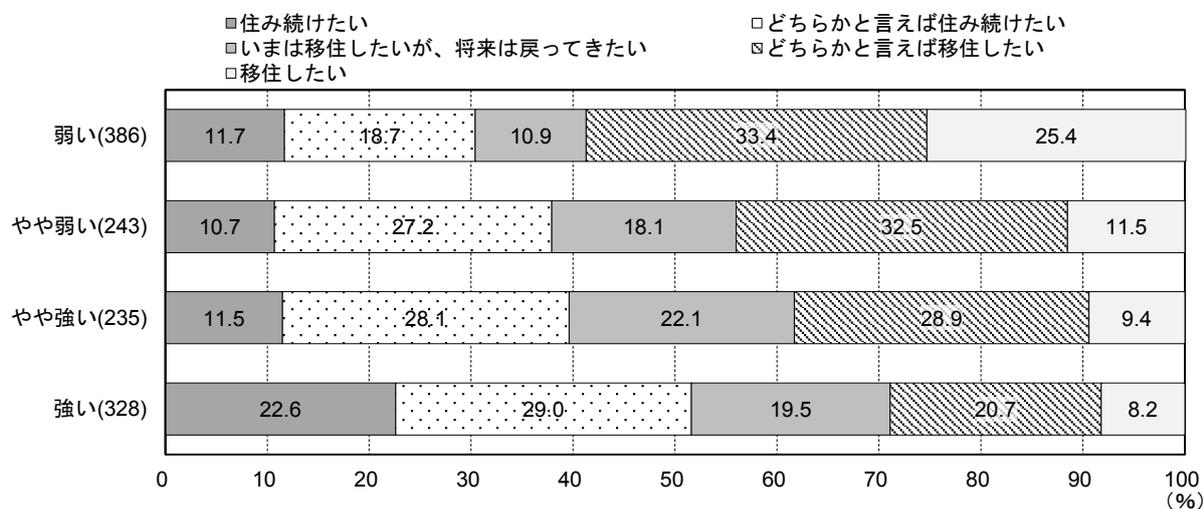
性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男子	679	39.2	60.8	0.64	671	37.1	62.9	0.59	1.09
女子	563	39.6	60.4	0.66	647	27.8	72.2	0.39	1.70

図IV-56 社会関係性の強さ別にみた定住意識（単数）

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1704	0.1681
P値	0.0000	0.0000

表IV-11 社会関係性の強さの定住意識に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	定住	移住	オッズ	N	定住	移住	オッズ	
男子	680	71.9	28.1	2.56	632	51.6	48.4	1.07	2.40
女子	563	67.1	32.9	2.04	629	46.9	53.1	0.88	2.31

3. 家族や子どもに関する価値観・感受性の影響

(1) 結婚意欲に対する影響

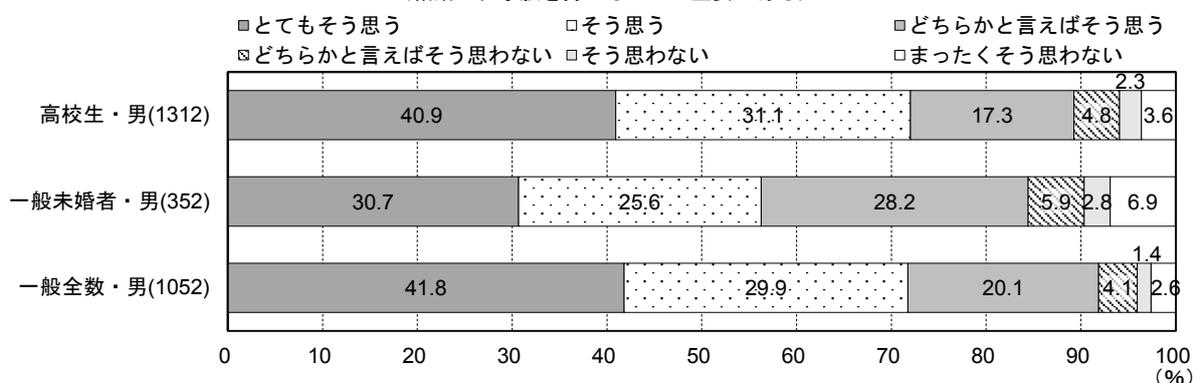
① 家族観

「結婚は家族を持てるため重要である」と思うかどうかで高校生の家族観を把握した。「とてもそう思う」は男子で41%、女子で34%である(図IV-57)。「どちらかと言えばそう思う」までを合わせると、男子は89%、女子も89%であり、一般調査の全数集計とほぼ同じ値となった。

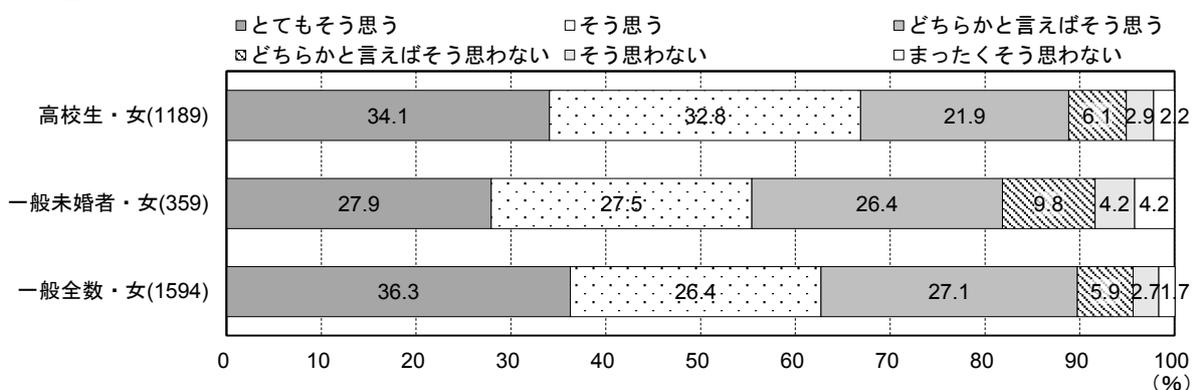
図IV-57 家族観(単数)

(男性)

(結婚は、家族を持てるために重要である)



(女性)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

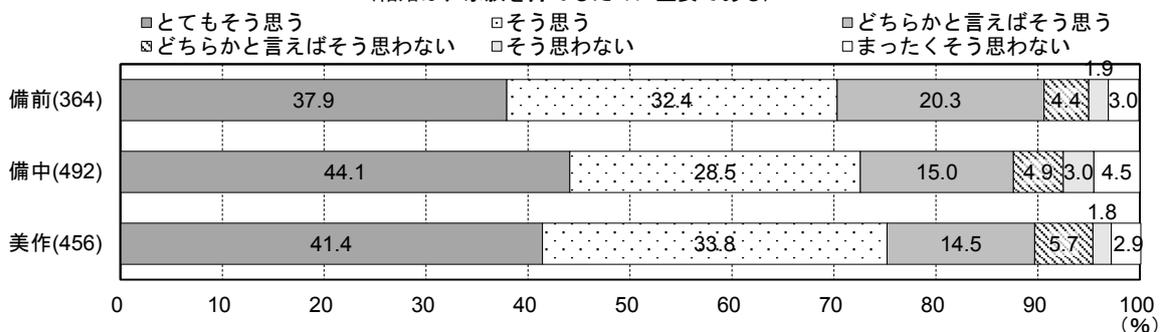
(県民局別の集計)

高校生の家族観について、県民局別に違いはみられない (図IV-58)。

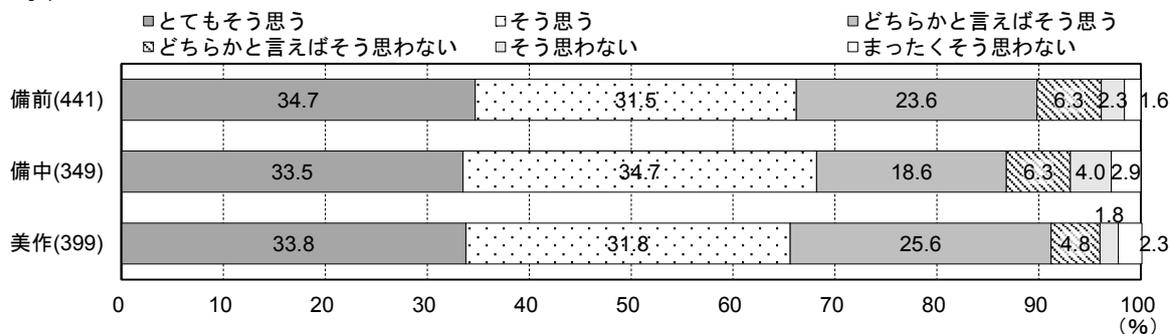
図IV-58 県民局別にみた家族観 (単数)

(男子)

(結婚は、家族を持てるために重要である)



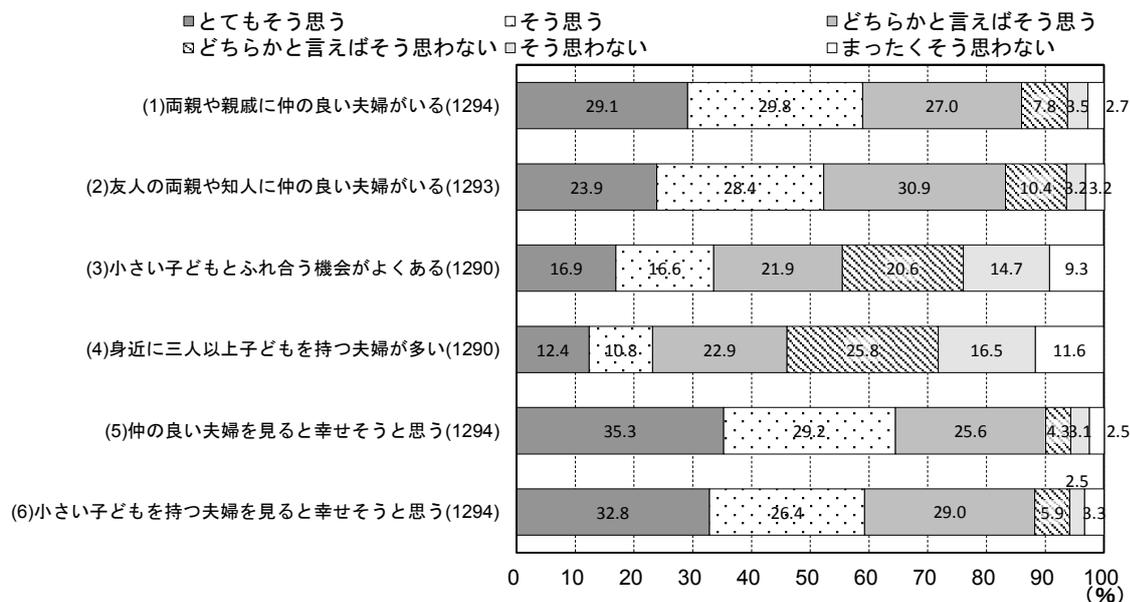
(女子)



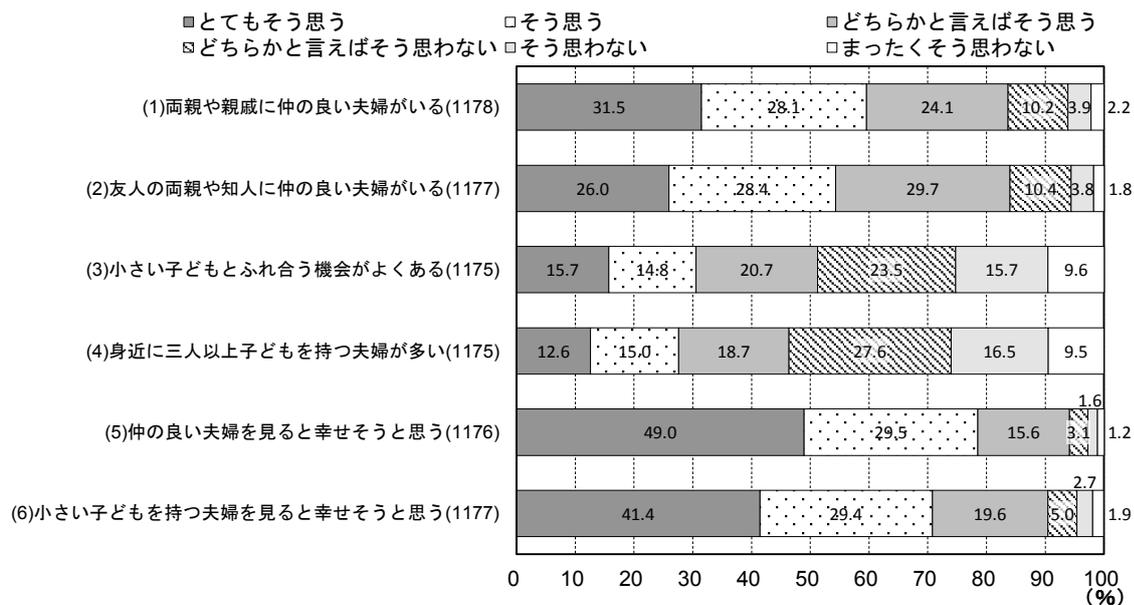
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0734	0.0694
P値	0.1674	0.3242

図IV-59 身近な人の結婚や子どものことについて (単数)

(男子)



(女子)



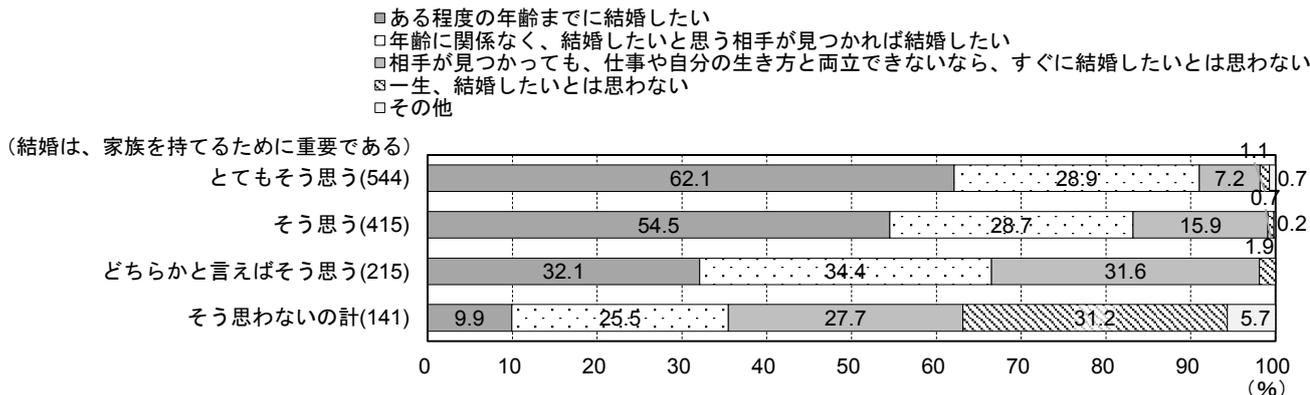
(家族観は高校生に結婚意欲に対して極めて強く影響)

高校生においても「結婚は家族を持てるため重要である」という考えを強く持っている者ほど、結婚意欲が強く表れることは明らかである(図IV-60)。

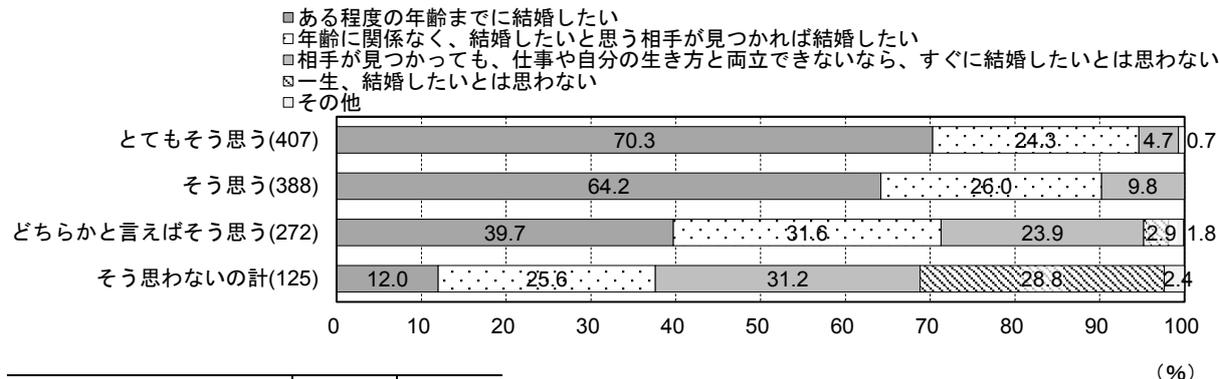
家族観に対して「積極的肯定」であれば「消極的肯定・否定」に対して「意欲強(年齢志向)」の出現率が男子で4.7倍、女子で4.6倍になる。高校生では「家族観」は結婚意欲に極めて強い影響力を及ぼしている(表IV-12)。

図IV-60 家族観別にみた結婚についての考え(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3352	0.3417
P値	0.0000	0.0000

(注)「そう思わないの計」は、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の合計である

表IV-12 家族観の結婚意欲に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	家族観：積極的肯定				家族観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	オッズ	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
男子	959	58.8	41.2	1.43	356	23.3	76.7	0.30	4.70
女子	795	67.3	32.7	2.06	397	31.0	69.0	0.45	4.58

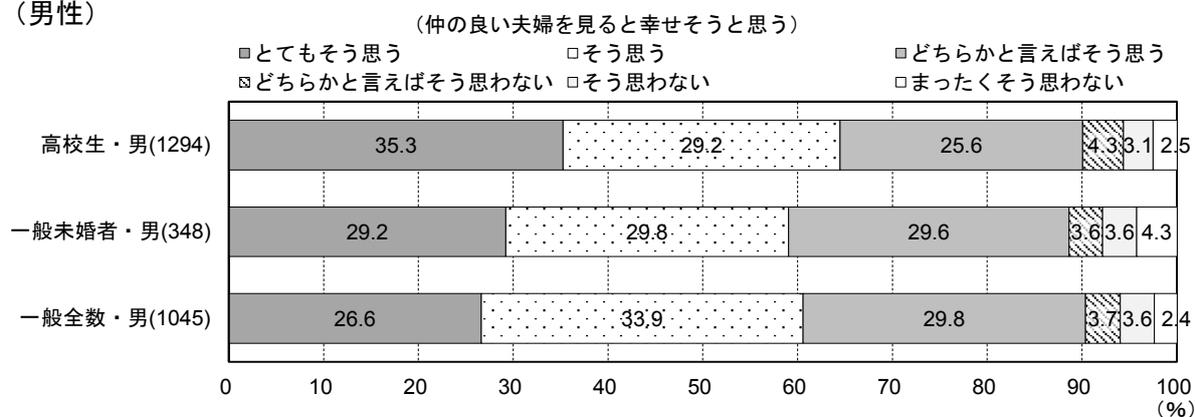
②家族に対する感受性

「仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う」かどうかで、高校生の家族に対する感受性を把握すると、「とてもそう思う」は男子で35%、女子で49%である(図IV-61)。「どちらかと言えばそう思う」までを合わせると、男子は90%、女子は94%となった。

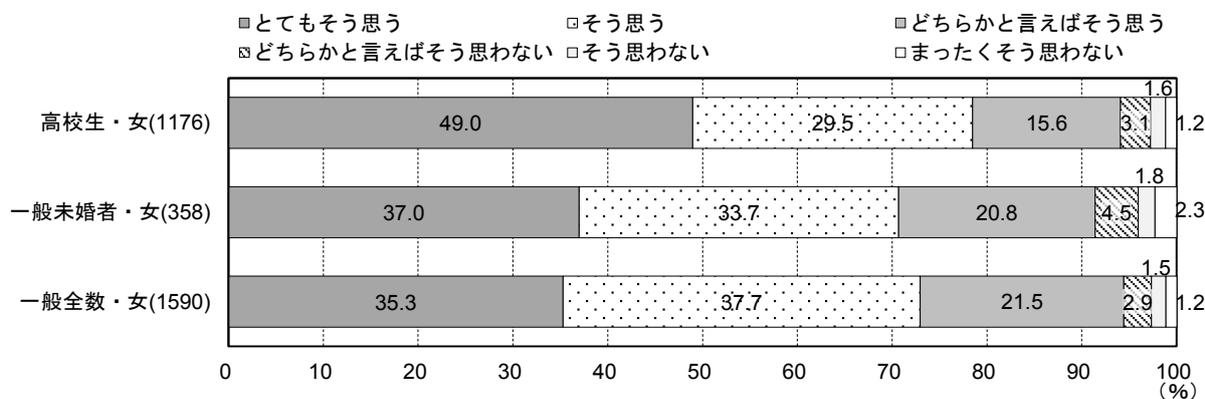
家族に対する感受性は、一般未婚者と一般全数の間でほとんど差異はみられないものの、高校生は男女とも、一般未婚者・一般全数に比べて肯定的意見が多い。この点は、家族観、子ども観とは異なっており、肯定的意見の多さが家族観・子ども観とのときと異なり男女で入れ替わることも特徴になっている。

図IV-61 家族に対する感受性(単数)

(男性)



(女性)



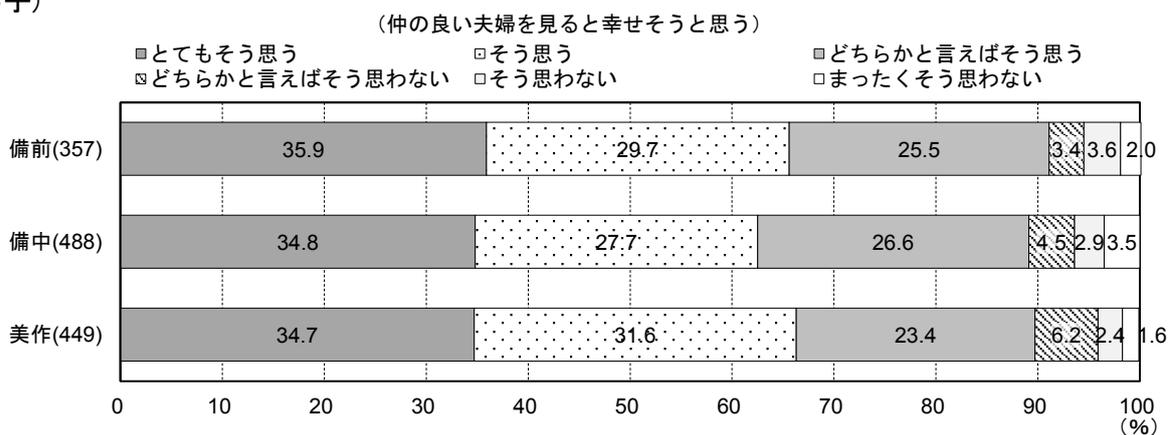
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

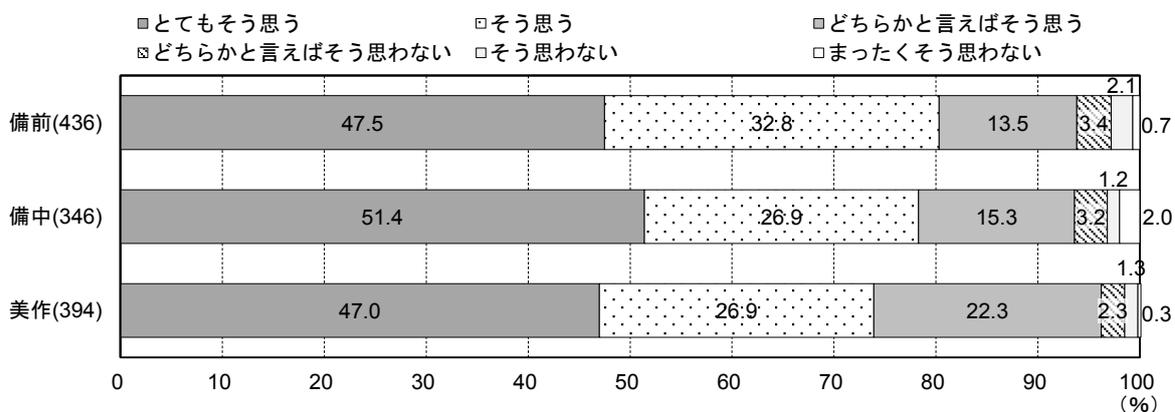
高校生の家族に対する感受性は、男子については県民局別の差異はみられない(図IV-62)。女子では、美作で「とてもそう思う」や「そう思う」の回答が他局に比べて少なく、「どちらかと言えばそう思う」が多くなっている。ただし、全体的にみれば明確な差異ではない(クラメールの連関係数が1を下回る)。

図IV-62 県民局別にみた家族に対する感受性(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0648	0.0997
P値	0.3681	0.0095

(家族に対する感受性も高校生の結婚意欲にかなり強く影響)

「仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う(家族に対する感受性)」かどうかと結婚意欲の関係を調べると、家族観ほどではないものの、家族に対する感受性が強いほど結婚意欲も強くなる傾向がみられる(図IV-63)。

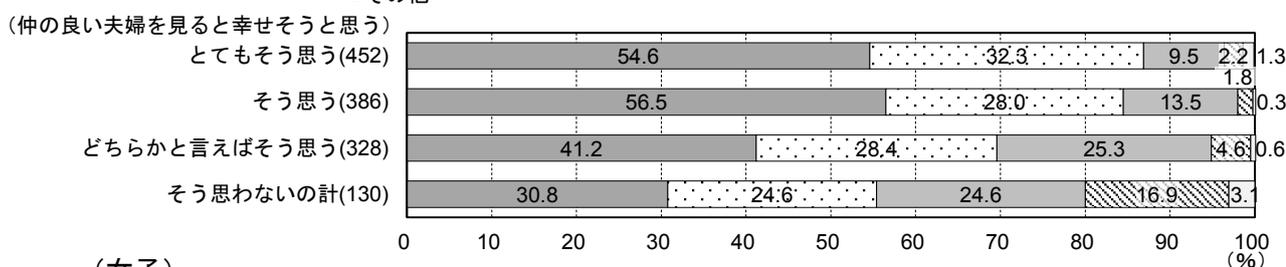
「とてもそう思う」では結婚の年齢志向が男子 55%、女子 61%である。「どちらかと言えばそう思う」では、「相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できたら、すぐに結婚したいとは思わない」が、男子 25%、女子 23%に増加する。

家族に対する感受性の結婚意欲に対する影響力の強さをみると、「消極的肯定・否定」に対して「積極的肯定」では、「意欲強」の出現率が男子 2.0 倍、女子で 2.3 倍になる(表IV-13)。

図IV-63 家族に対する感受性別にみた結婚についての考え(単数)

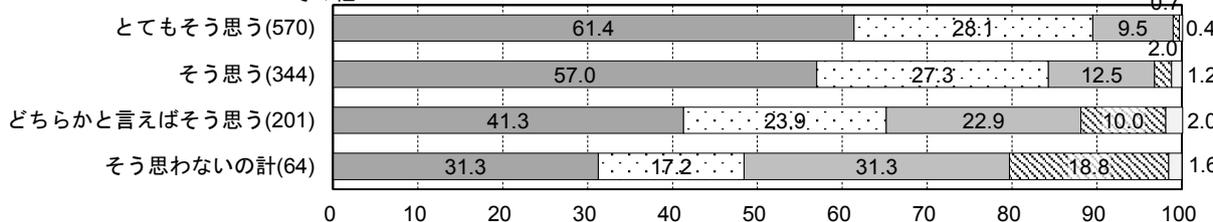
(男子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩一生、結婚したいとは思わない
- その他



(女子)

- ある程度の年齢までに結婚したい
- 年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい
- ▨相手が見つかって、仕事や自分の生き方と両立できないなら、すぐに結婚したいとは思わない
- ▩一生、結婚したいとは思わない
- その他



項目	男	女	(%)
クラメールの連関係数	0.1950	0.2181	
P値	0.0000	0.0000	

(注)「そう思わないの計」は、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の合計である

表IV-13 家族に対する感受性の結婚意欲への影響の強さ

(件、%、倍)

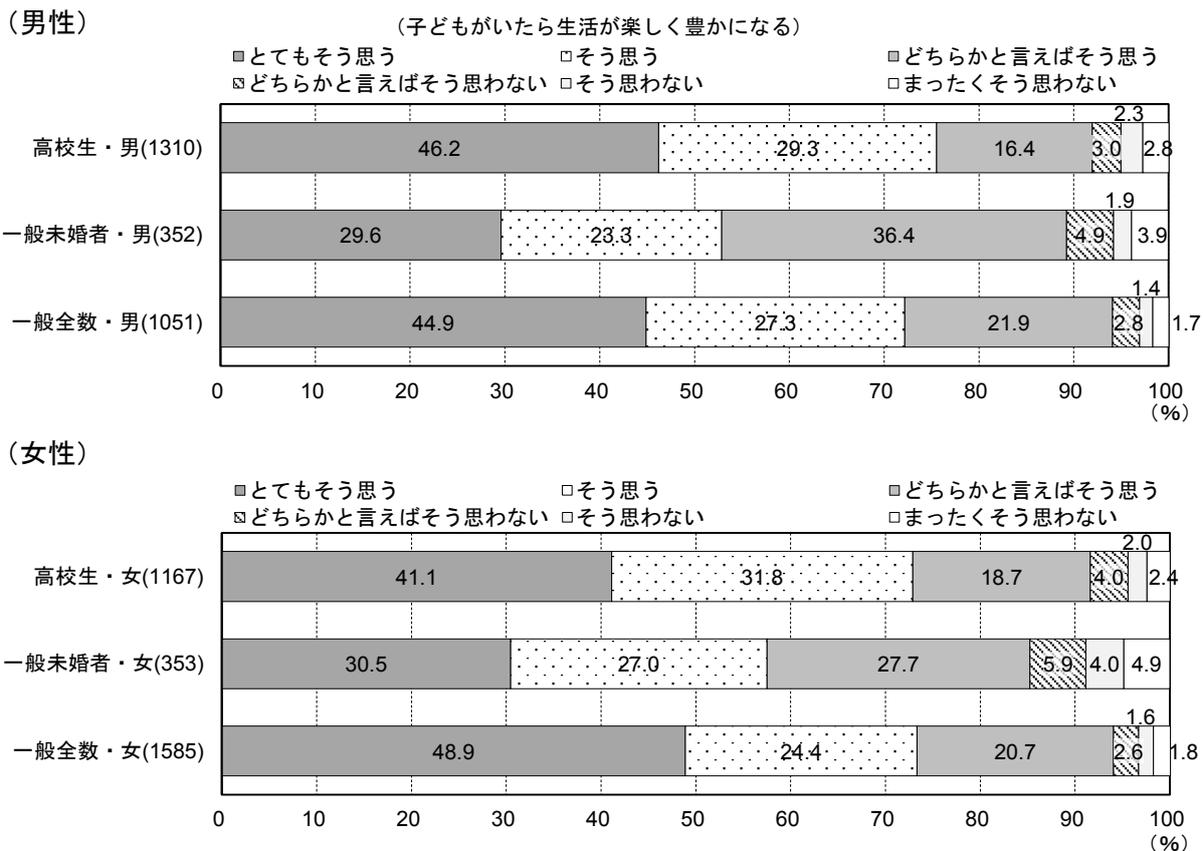
性別	家族に対する感受性：積極的肯定			家族に対する感受性：消極的肯定・否定			オッズ比
	N	意欲強	意欲弱	N	意欲強	意欲弱	
男子	838	55.5	44.5	458	38.2	61.8	2.02
女子	914	59.7	40.3	265	38.9	61.1	2.33

(2) 理想の子ども数に対する影響

①子ども観

「子どもがいたら生活が楽しく豊かになる」と思うかどうかで、高校生の子ども観を把握すると、「とてもそう思う」は男子で46%、女子で41%である(図IV-64)。「どちらかと言えばそう思う」までを合わせると、男子は92%、女子も92%であり、家族観と同様、男女とも一般全数集計とほぼ同じとなった。

図IV-64 子ども観(単数)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

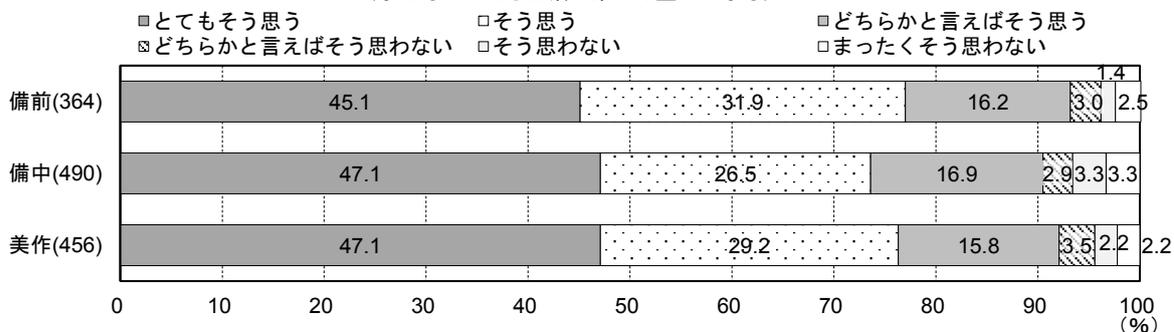
(県民局別の集計)

高校生の子ども観も県民局別の差異はない(図IV-65)。

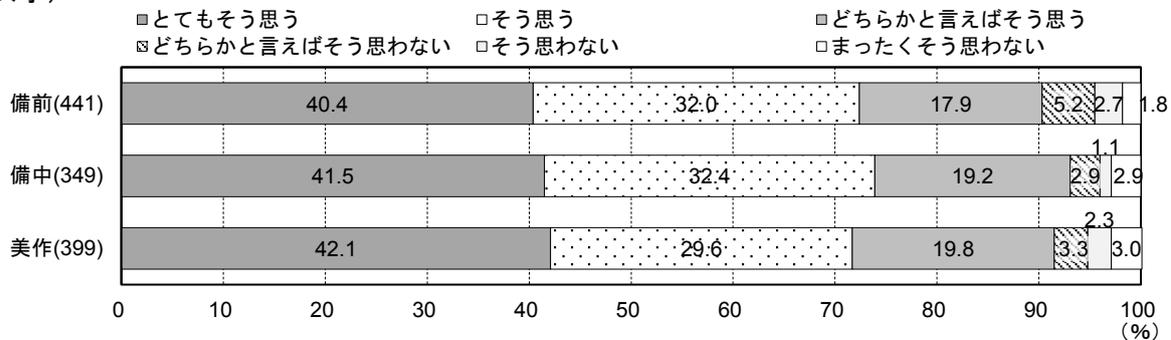
図IV-65 県民局別にみた子ども観(単数)

(男子)

(子どもがいたら生活が楽しく豊かになる)



(女子)



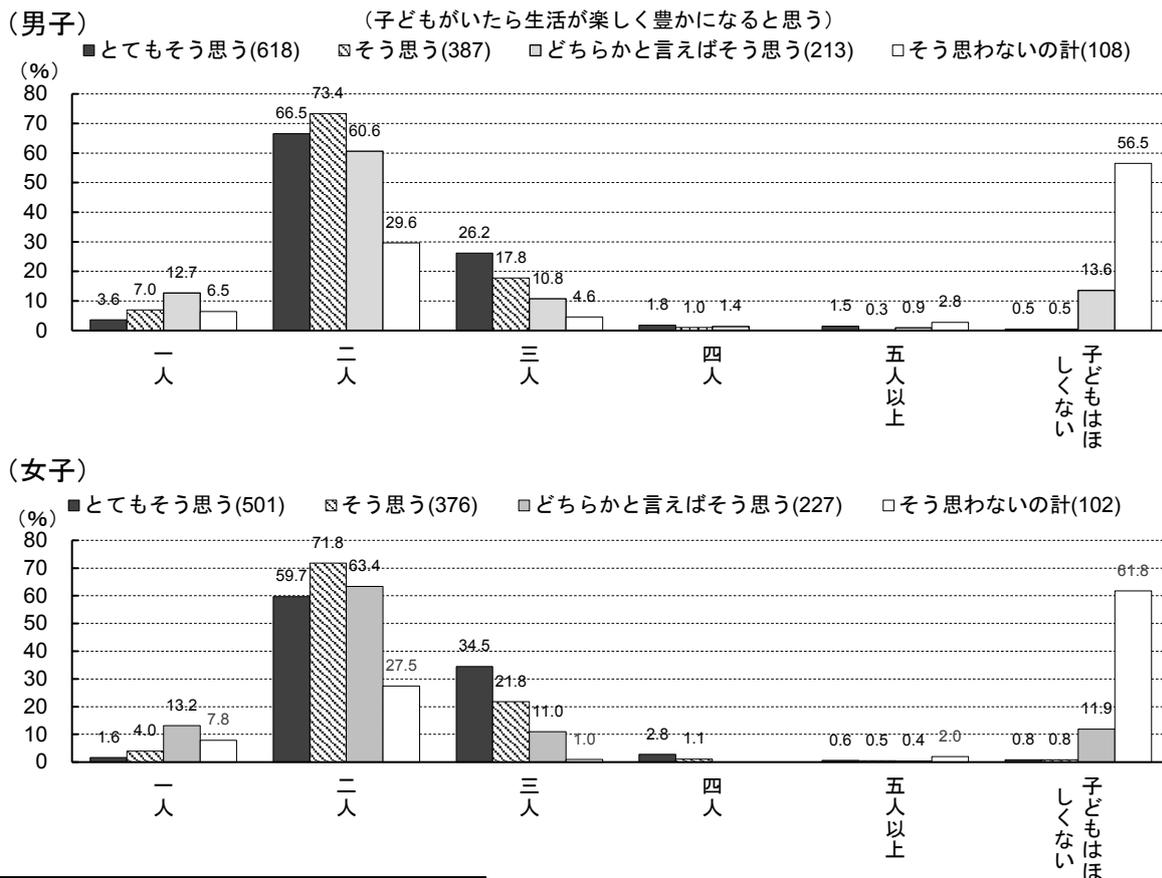
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0524	0.0590
P値	0.7073	0.6010

(子ども観は女子の理想の子ども数に対して極めて強く影響)

「子どもがいたら生活が楽しく豊かになる」という子ども観が強いほど、男女ともに「二人」や「三人」が増加する傾向が明らかである。(図IV-66)。

子ども観の理想の子ども数に対する影響力をみると、子ども観について「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して「三人以上」の出現率が男子2.7倍、女子で4.8倍と算出された(表IV-14)。特に女子では5倍に近く、極めて強い影響力を及ぼしている。

図IV-66 子ども観別にみた理想の子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2898	0.3291
P値	0.0000	0.0000

(注)「そう思わないの計」は、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の合計である

表IV-14 子ども観の理想の子ども数に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子ども観：積極的肯定				子ども観：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男子	1005	25.5	74.5	0.34	321	11.2	88.8	0.13	2.71
女子	877	31.7	68.3	0.46	329	8.8	91.2	0.10	4.80

②子どもに対する感受性

「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」かどうかで高校生の子どもに対する感受性を把握すると、「とてもそう思う」は男子で33%、女子で41%である(図IV-67)。「どちらかと言えばそう思う」までを合わせると、男子は88%、女子は90%となった。

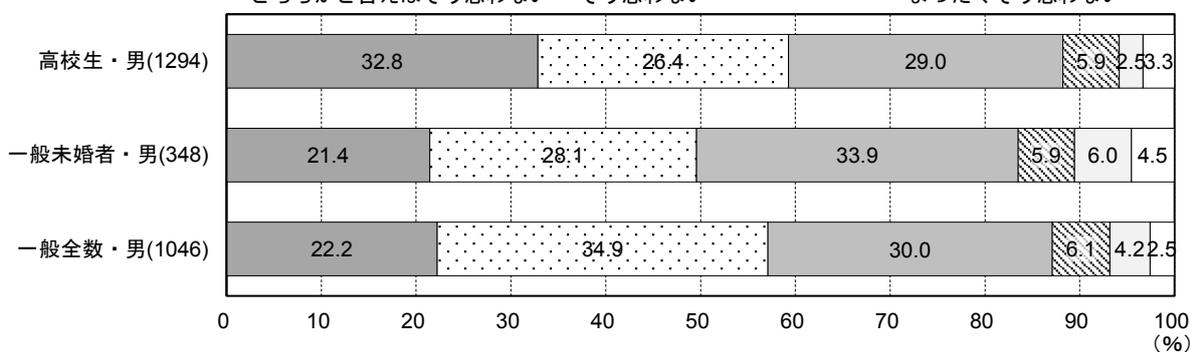
子どもに対する感受性は、家族に対する感受性に増して、一般未婚者・一般全数に比べて高校生はより肯定的意見が多く、高校生の特徴である考えられる。

図IV-67 子どもに対する感受性(単数)

(男性)

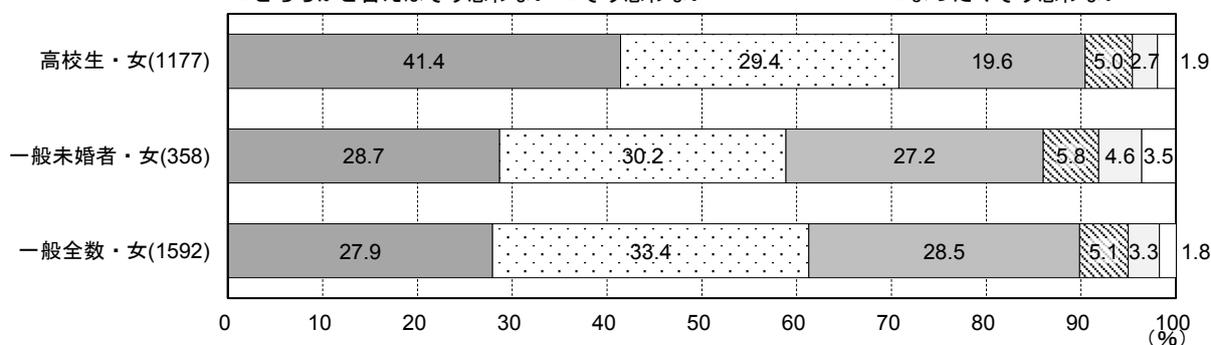
(小さい子どもを持つ夫婦を見るとしあわせそうと思う)

■とてもそう思う □そう思う ■どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



(女性)

■とてもそう思う □そう思う ■どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

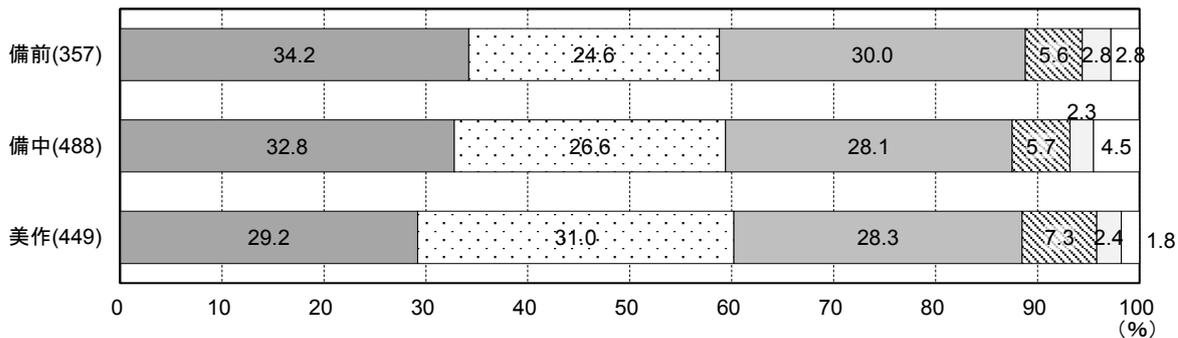
子どもに対する感受性は、男子は県民局別の差異がほとんどなく、女子では美作で「どちらかといえばそう思う」が多くなるのは、家族に対する感受性と同様である (図IV-68)。

図IV-68 県民局別にみた子どもに対する感受性 (単数)

(男子)

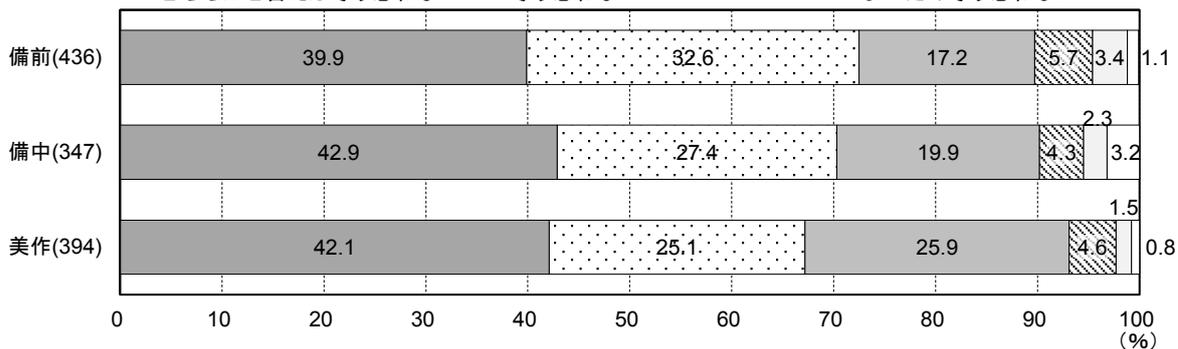
(小さい子どもを持つ夫婦を見るとしあわせそうと思う)

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- ▨どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- まったくそう思わない



(女子)

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- ▨どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- まったくそう思わない



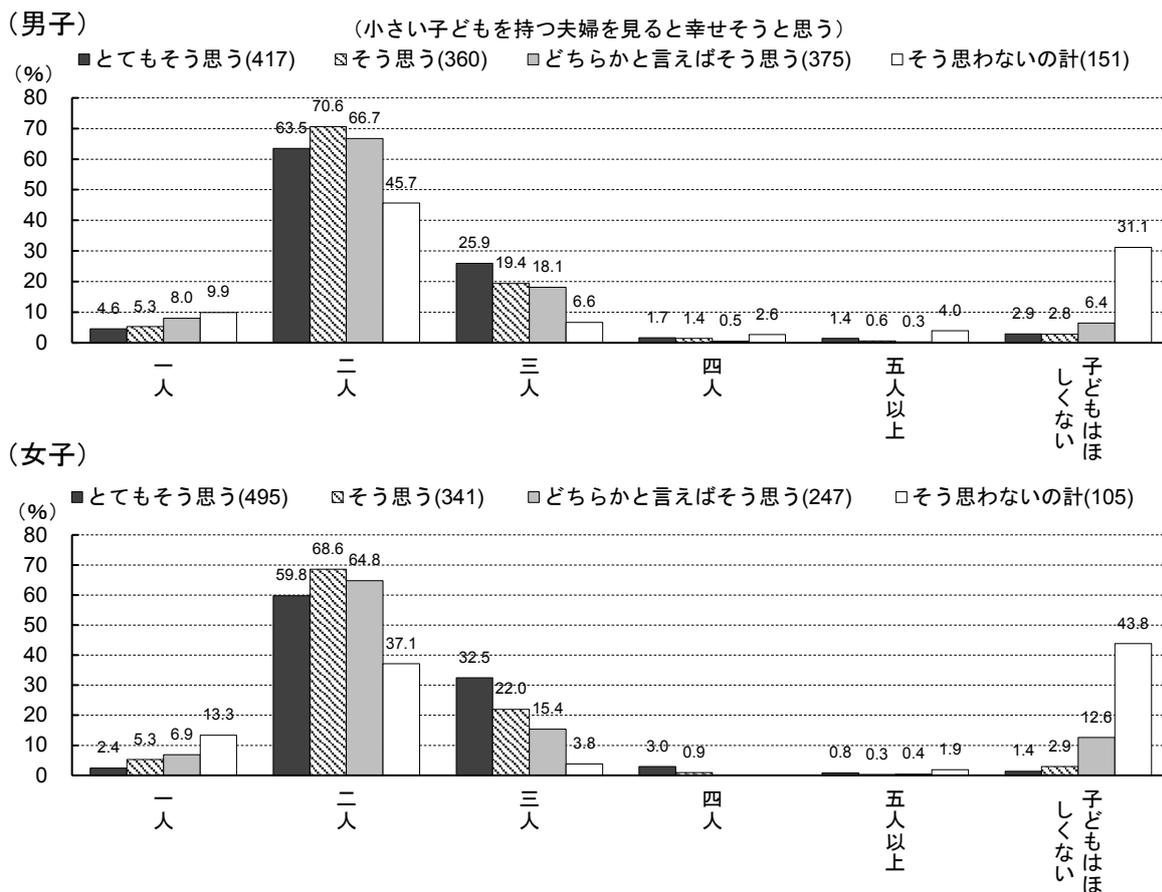
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0695	0.1012
P値	0.2543	0.0084

(子どもに対する感受性も女子の理想の子ども数に対して極めて強く影響)

「小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う」という子どもに対する感受性が強いほど、男女とも「三人」が増加し、「一人」と「子どもをほしくない」が減少する(図IV-69)。

理想の子ども数に対する影響力をみると、子どもに対する感受性について「積極的肯定」であると、「消極的肯定・否定」に対して「三人以上」の出現率が男子では1.6倍であるが、女子では3.1倍となり、極めて強い影響力を及ぼしている(表IV-15)。

図IV-69 子どもに対する感受性別にみた理想の子ども数(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1914	0.2459
P値	0.0000	0.0000

(注)「そう思わないの計」は、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の合計である

表IV-15 子どもに対する感受性の理想の子ども数への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子どもに対する感受性：積極的肯定				子どもに対する感受性：消極的肯定・否定				オッズ比
	N	三人以上	なし～二人	オッズ	N	三人以上	なし～二人	オッズ	
男子	777	25.5	74.5	0.34	526	17.3	82.7	0.21	1.63
女子	836	31.0	69.0	0.45	352	12.8	87.2	0.15	3.06

(3) 家族や子どもに対する感受性に影響を及ぼす要因

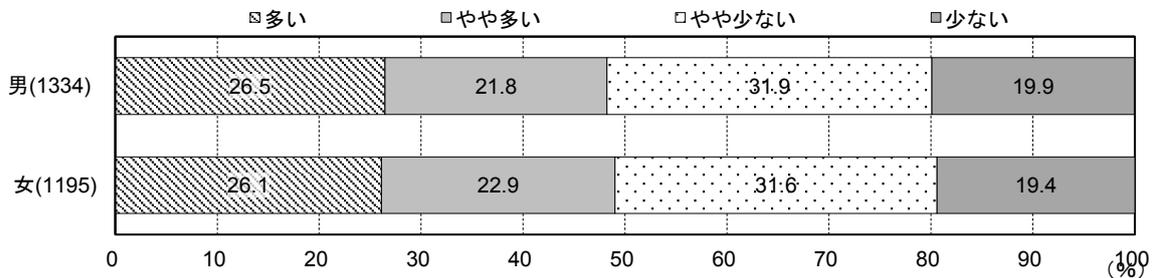
① 「家族経験」と「子ども経験」の把握

(家族経験)

調査では、「両親や親せきに仲の良い夫婦がいる」、「友人の両親や知人に仲の良い夫婦がいる」の二つに質問により、仲の良い家族とふれ合った経験の程度を尋ねた。得られた回答を点数化し、主成分分析により指標「家族経験」を作成した。

作成した指標は-1、0、1を区切りにして、高校生の「家族経験」の程度を四つに区分したものである。男女別、県民局別とも差異はみられない(図IV-70、図IV-71)。

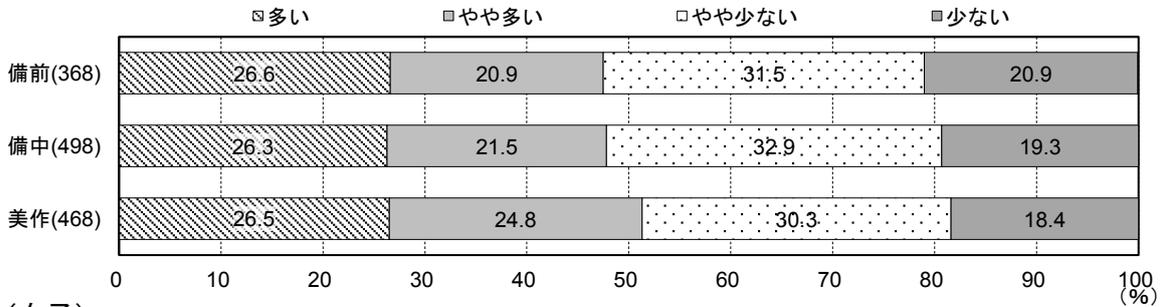
図IV-70 家族経験



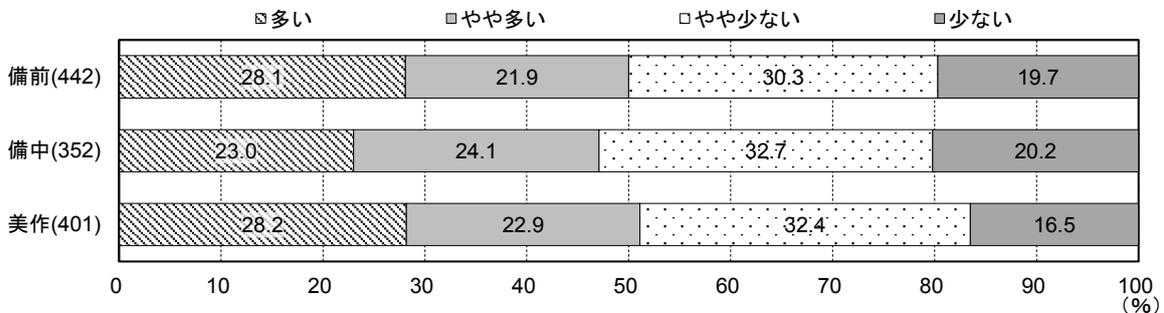
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

図IV-71 県民局別にみた家族経験

(男子)



(女子)



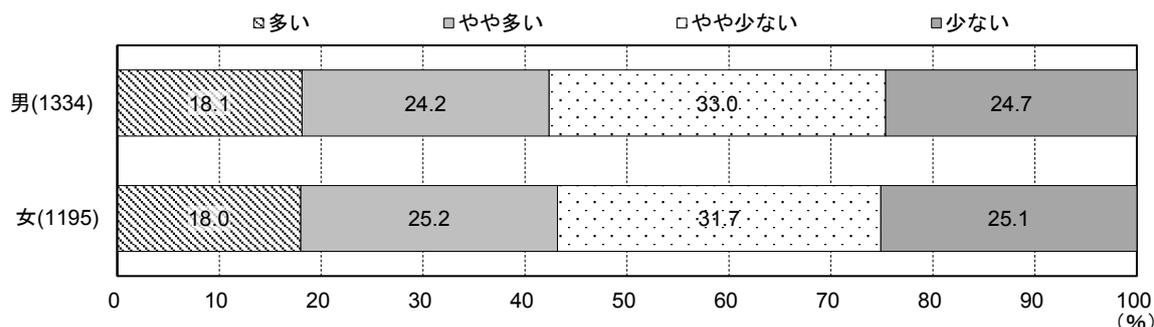
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0332	0.0457
P値	0.8162	0.5452

(子ども経験)

「小さい子どもとふれ合う機会がよくある」、「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多い」の二つに質問により、「子ども経験」の程度を把握した。「家族経験」と同じように、得らえた回答を点数化し、主成分分析により指標「子ども経験」を作成した。

「子ども経験」に男女別で差異はないが、県民局別にみると男女とも美作で「多い」の割合が大きくなっている(図IV-72、図IV-73)。ただし、差異の程度は小さい。

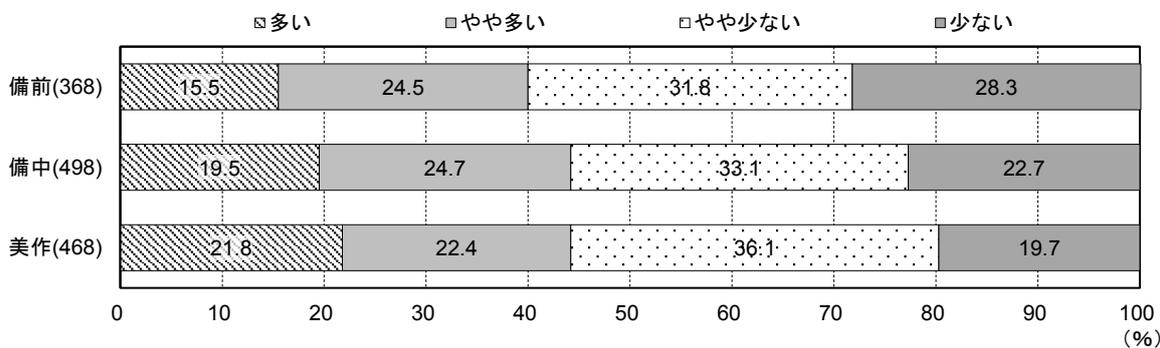
図IV-72 子ども経験



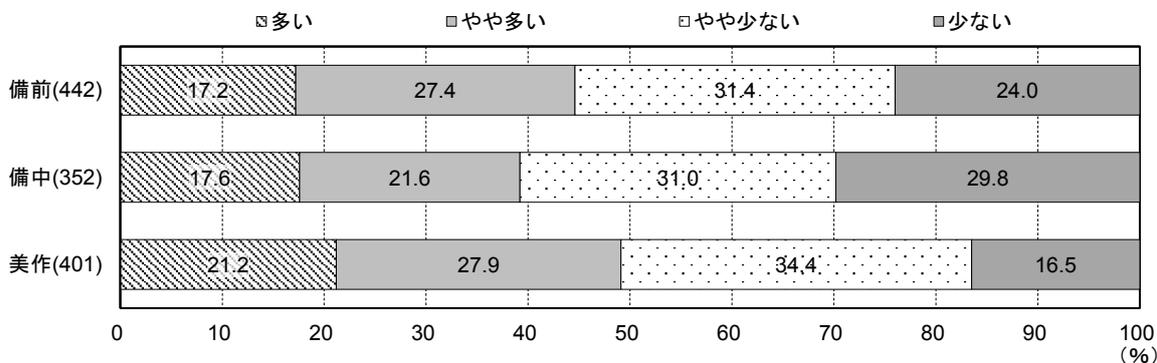
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

図IV-73 県民局別にみた子ども経験

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0693	0.0940
P値	0.0462	0.0017

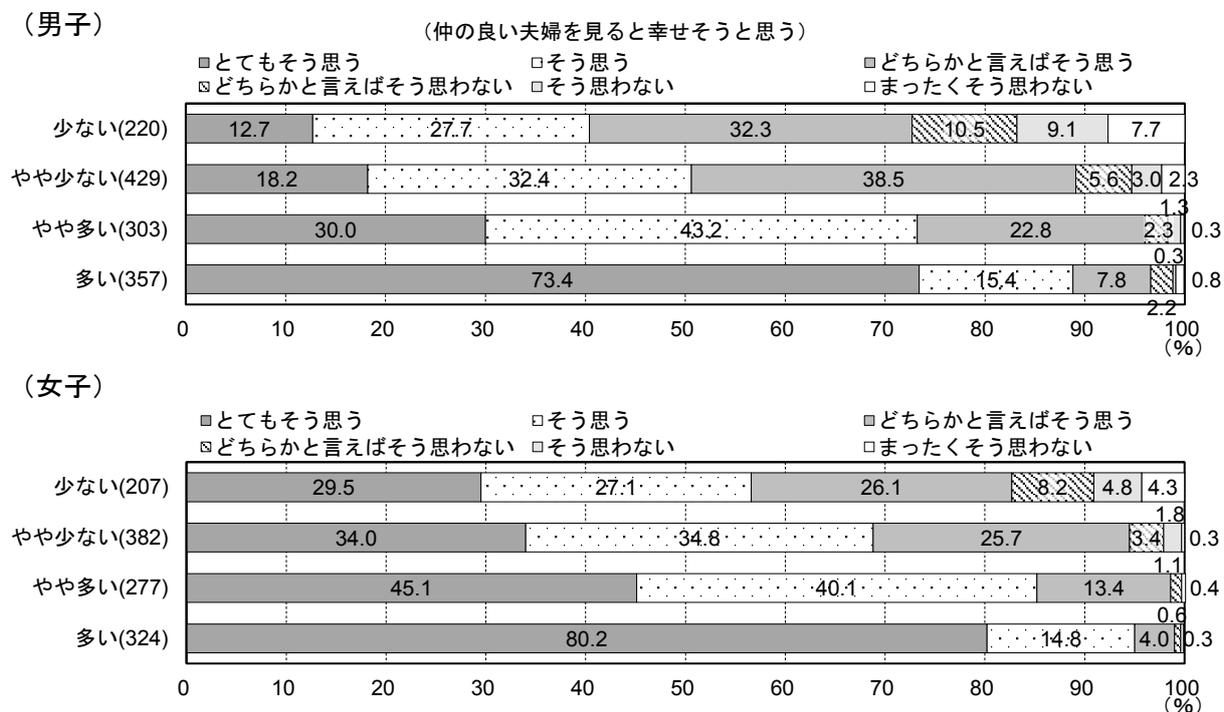
②家族に対する感受性への「家族経験」の影響

（「家族経験」は高校生の家族に対する感受性に極めて強く影響）

調査では、「両親や親せきに仲の良い夫婦がいる」、「友人の両親や知人に仲の良い夫婦がいる」の二つの質問により、仲の良い家族とふれ合った経験の程度を尋ねた。得られた回答を点数化し、主成分分析により指標「家族経験」を作成した。作成した指標を-1、0、1で区切り、高校生の家族経験の程度を四つに区分した。

家族経験が「少ない」では「仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う（家族に対する感受性）」について「そう思う」は13%であるが、「多い」では73%に達する（図IV-74）。高校生の結婚意欲に強い影響を与えていた家族に対する感受性は、家族経験によって大きく変化することがわかる。

図IV-74 家族経験別にみた家族に対する感受性（単数）



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.3346	0.2819
P値	0.0000	0.0000

「家族経験」の「やや多い」と「多い」を、「多い」にまとめ直し、それ以外を「少ない」とすると、家族経験が「多い」と「少ない」に比べ家族に対する感受性の「積極的肯定」の出現率は、男子5.0倍、女子5.3倍になり、極めて強い影響力を及ぼしている（表IV-16）。

表IV-16 家族経験の家族に対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	家族経験：多い				家族経験：少ない				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男子	660	81.7	18.3	4.45	649	47.1	52.9	0.89	4.99
女子	601	90.5	9.5	9.54	589	64.5	35.5	1.82	5.25

③子どもに対する感受性への「子ども経験」の影響

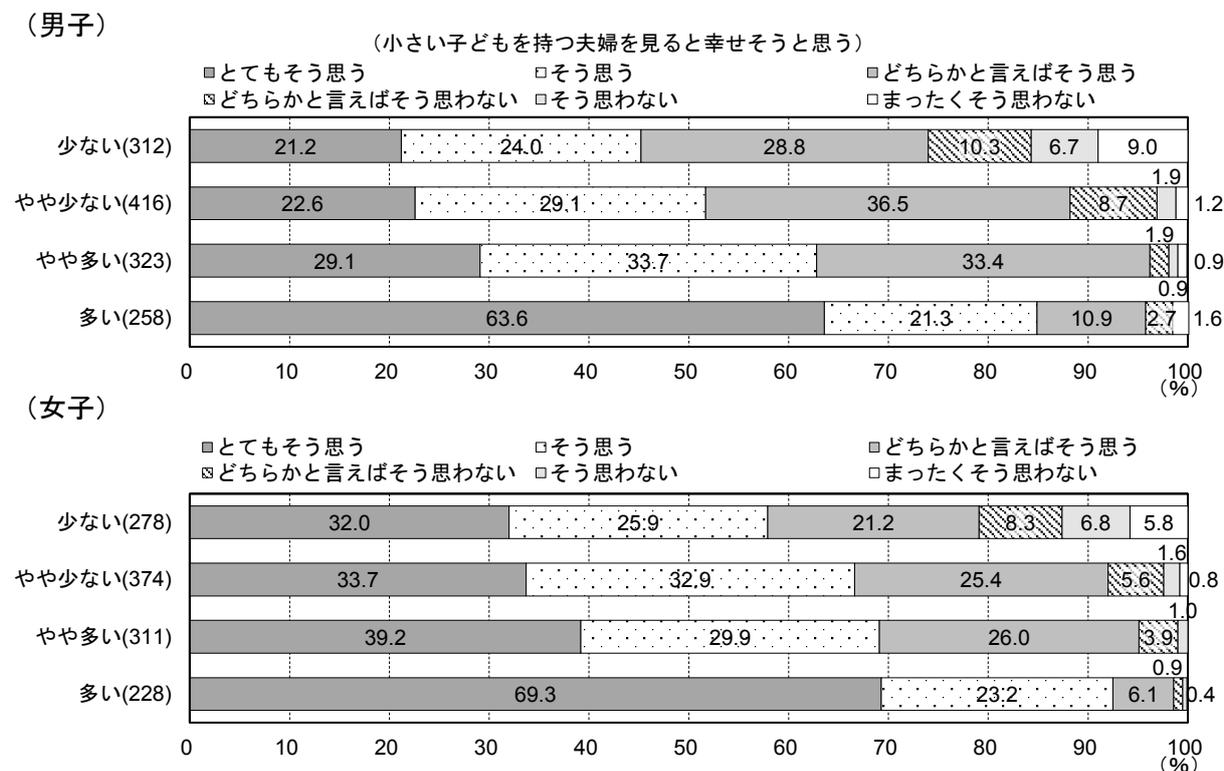
(「子ども経験」も高校生の子どもに対する感受性に強い影響力を持つ)

「小さい子どもとふれ合う機会がよくある」、「身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多い」の二つの質問により、「子ども経験」の程度を把握した。「家族経験」と同じように、得られた回答を点数化し、主成分分析により指標「子ども経験」を作成した。

女子の理想の子ども数に対して極めて強い影響を及ぼしていた子どもに対する感受性と、子ども経験との間に明確な相関が表れる(図IV-75)。

また、子ども経験の「やや多い」と「多い」を、「多い」にまとめ直し、それ以外を「少ない」にすると、子ども経験が「多い」と、「少ない」に比べて子どもに対する感受性の「積極的肯定」の出現率は男子2.8倍、女子2.2倍になる。家族経験の家族に対する感受性への影響ほどでないものの、子ども経験は高校生の子どもに対する感受性に対して強く影響を及ぼしている(表IV-17)。

図IV-75 子ども経験別にみた子どもに対する感受性(単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2582	0.2221
P値	0.0000	0.0000

表IV-17 子ども経験の子どもに対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	子ども経験：多い				子ども経験：少ない				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男子	581	72.6	27.4	2.65	728	48.9	51.1	0.96	2.77
女子	539	79.0	21.0	3.77	652	62.9	37.1	1.69	2.23

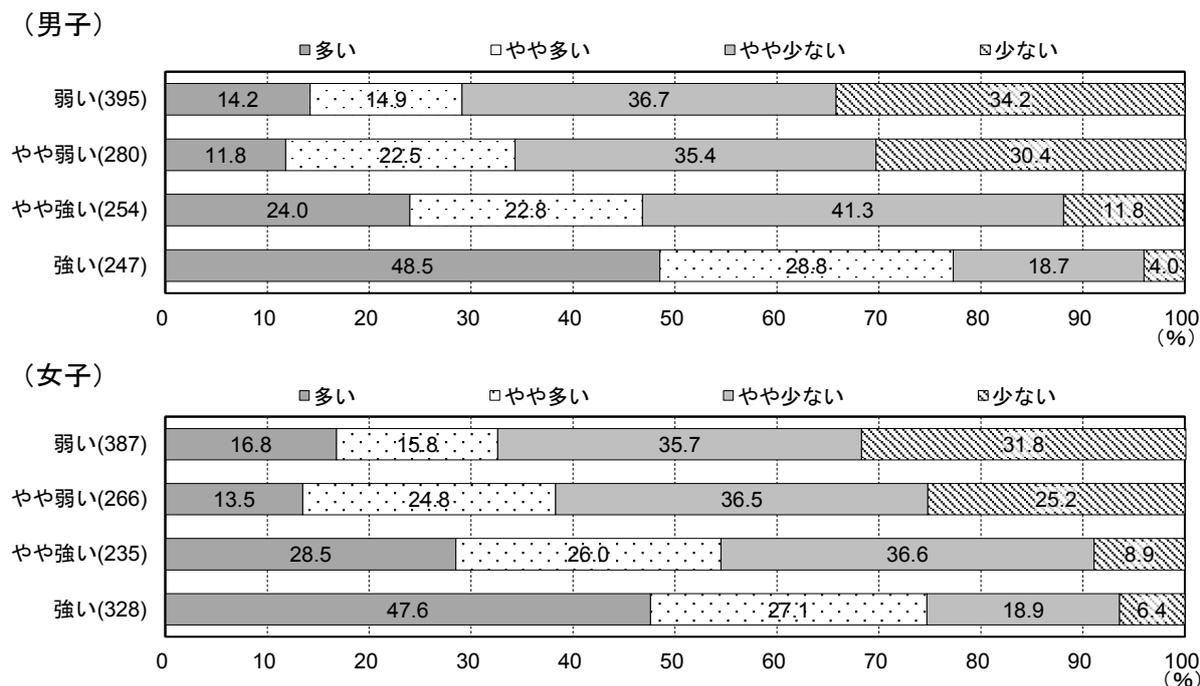
④社会関係性の「家族経験」や「子ども経験」に対する影響

「家族経験」と「子ども経験」が、それぞれ家族や子どもに対する感受性に影響を及ぼしていることは自然な結果と考えられるが、加えて、以下の分析によると、その「家族経験」や「子ども経験」は高校生が暮らしている地域の社会関係性に強い影響を受けている。

(社会関係性は「家族経験」に極めて強く影響する)

高校生が有する社会関係性の程度を分析軸にして家族経験とクロス集計を行うと、社会関係性が「弱い」と家族経験の「多い」は男子 14%、女子 17%に過ぎないが、社会関係性が「強い」と家族経験の「多い」は男子 49%、女子 48%に増加する (図IV-76)。

図IV-76 社会関係性の強さ別にみた家族経験 (単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2701	0.2335
P値	0.0000	0.0000

社会関係性は強い・弱い、家族経験は多い・少ないの二区分にして、社会関係性の家族経験への影響の強さを算出すると、社会関係性が「強い」と、「弱い」に比べて家族経験の「多い」の出現率は男子 4.3 倍、女子 3.7 倍に上る。家族経験に対して社会関係性が極めて強い影響を及ぼしている (表IV-18)。

表IV-18 社会関係性の強さの家族経験に対する影響の強さ

(件、%、倍)

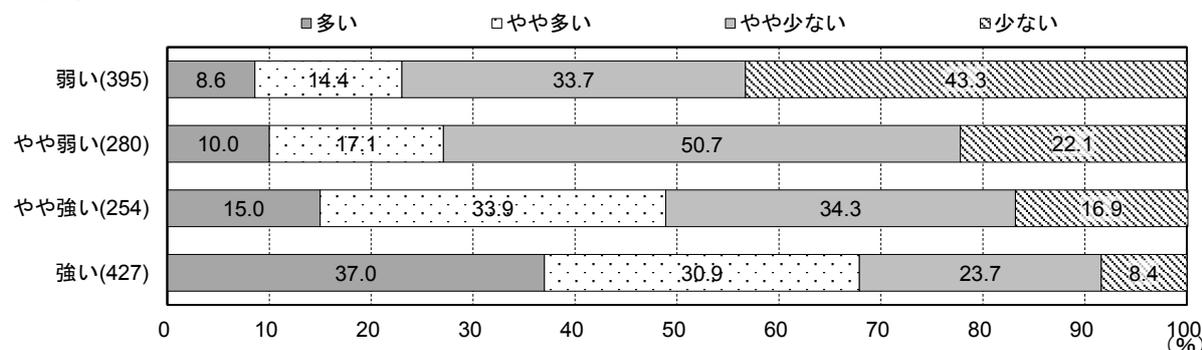
性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	家族経験：多い	家族経験：少ない	オッズ	N	家族経験：多い	家族経験：少ない	オッズ	
男子	681	65.9	34.1	1.94	675	31.3	68.7	0.45	4.26
女子	563	66.3	33.7	1.96	653	34.9	65.1	0.54	3.66

(社会関係性は子ども経験に対しても極めて強く影響)

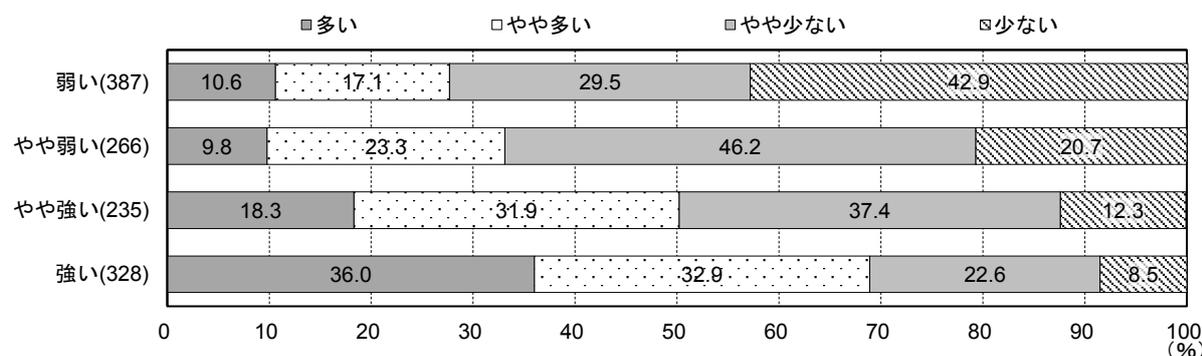
社会関係性と「子ども経験」のクロス集計では、社会関係性が「弱い」と「子ども経験」の「多い」は男子9%、女子11%に過ぎないが、社会関係性が「強い」と「子ども経験」の「多い」は男子37%、女子36%に増加する(図IV-77)。

図IV-77 社会関係性の強さ別にみた子ども経験

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2713	0.2546
P値	0.0000	0.0000

社会関係性は強い・弱い、子ども経験は多い・少ないの二区分にして、社会関係性の子ども経験への影響の強さを測ると、社会関係性が「強い」と、子ども経験の「多い」の出現率は男子4.7倍、女子3.7倍に達し、家族経験と同様、子ども経験に対しても社会関係性は極めて強い影響を及ぼしている(表IV-19)。

表IV-19 社会関係性の強さの子ども経験に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	子ども経験：多い	子ども経験：少ない	オッズ	N	子ども経験：多い	子ども経験：少ない	オッズ	
男子	681	60.8	39.2	1.55	675	24.7	75.3	0.33	4.72
女子	563	61.1	38.9	1.57	653	29.9	70.1	0.43	3.69

⑤社会関係性の家族観・子ども観、家族・子どもに対する感受性への影響

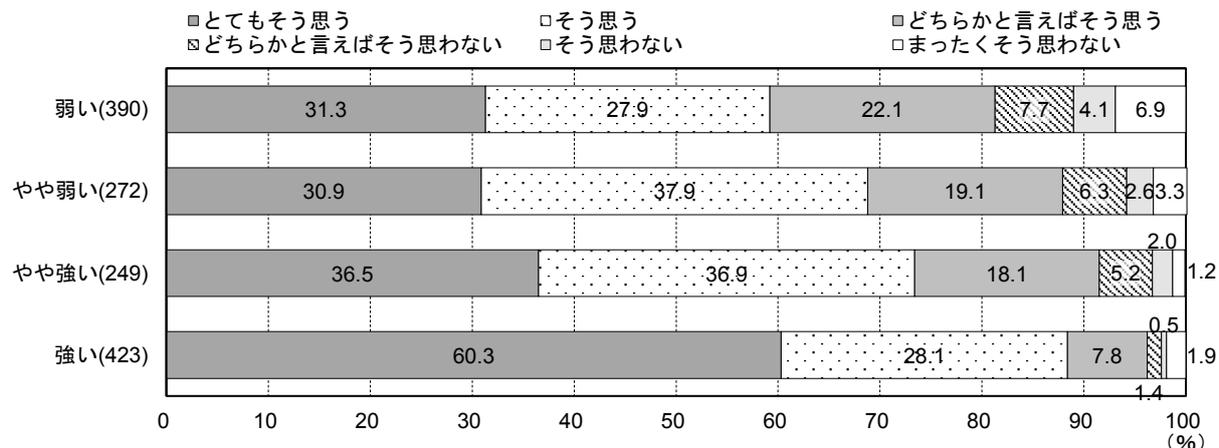
社会関係性が、直接、家族観・子ども観や、家族・子どもに対する感受性に及ぼす影響をみるため、社会関係性を分析軸としたクロス集計の結果を以下の図に示した（図IV-78、図IV-79、図IV-80、図IV-81）。

また、オッズ比により、社会関係性の影響の強さを算出した（表IV-20、表IV-21、表IV-22、表IV-23）。

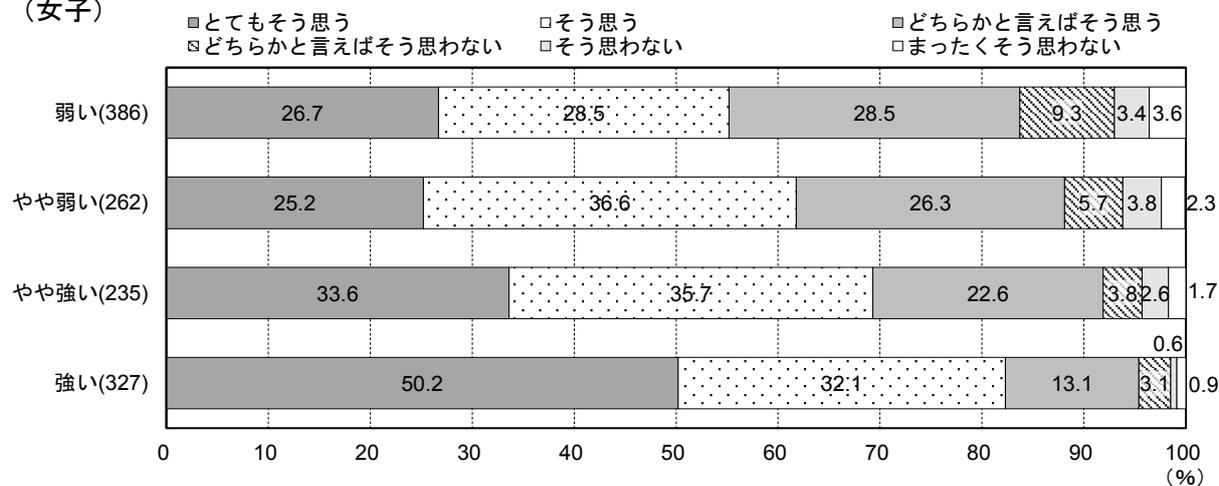
図IV-78 社会関係性の強さ別にみた家族観（単数）

（男子）

（結婚は、家族を持てるため重要である）



（女子）



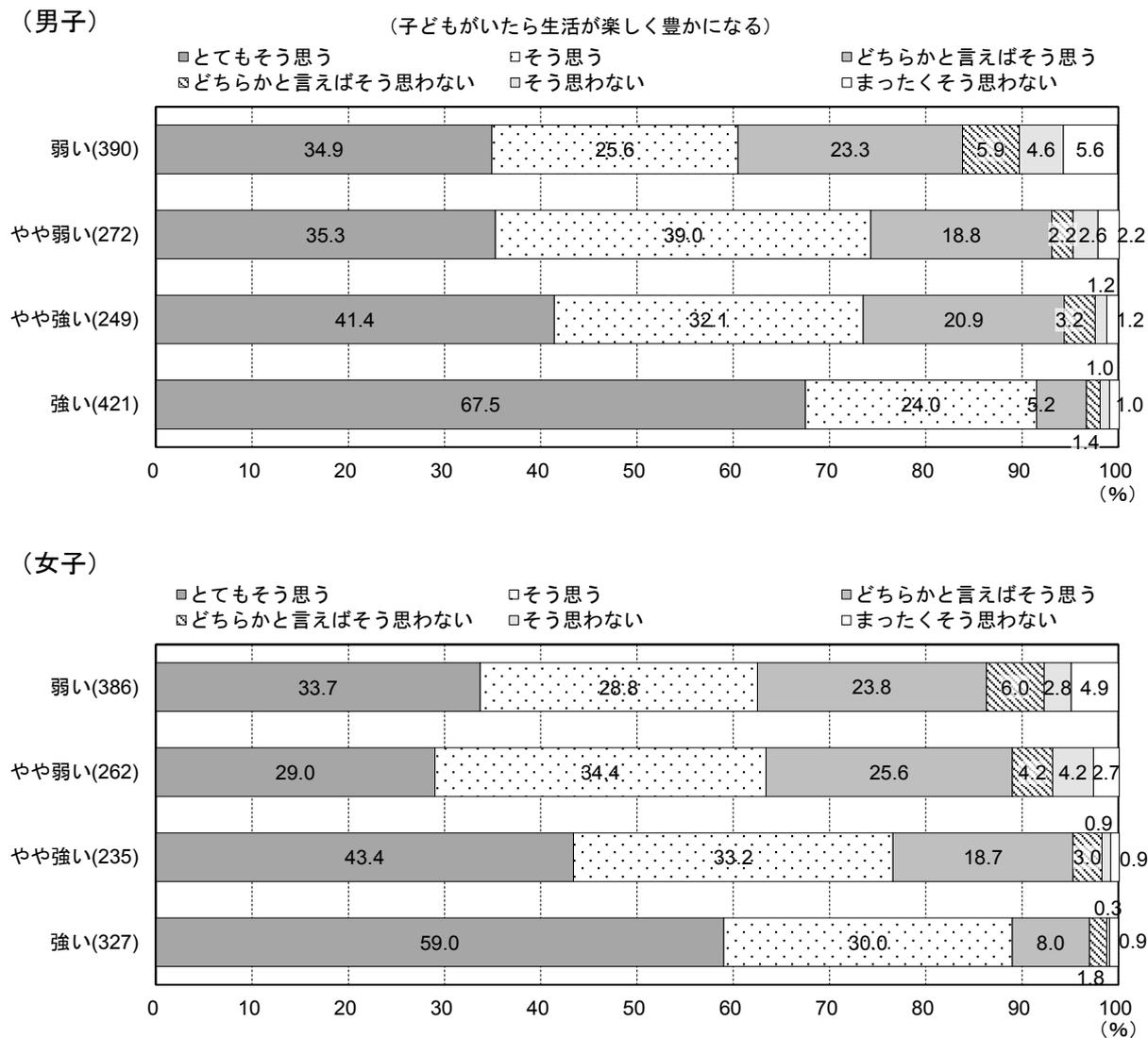
項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1882	0.1568
P値	0.0000	0.0000

表IV-20 社会関係性の強さの家族観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男子	672	82.9	17.1	4.84	662	63.1	36.9	1.71	2.83
女子	562	76.9	23.1	3.32	648	57.9	42.1	1.37	2.42

図IV-79 社会関係性の強さ別にみた子ども観 (単数)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2064	0.1743
P値	0.0000	0.0000

表IV-21 社会関係性の強さの子ども観に対する影響の強さ

(件、%、倍)

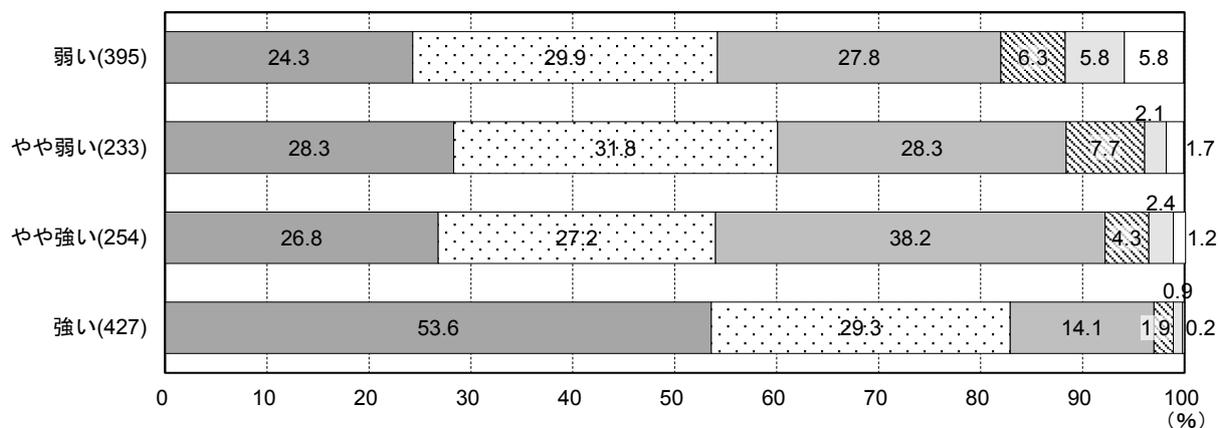
性別	社会関係性：強			社会関係性：弱			オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	
男子	670	84.8	15.2	662	66.2	33.8	2.85
女子	562	83.8	16.2	648	62.8	37.2	3.06

図IV-80 社会関係性の強さ別にみた家族に対する感受性（単数）

(男子)

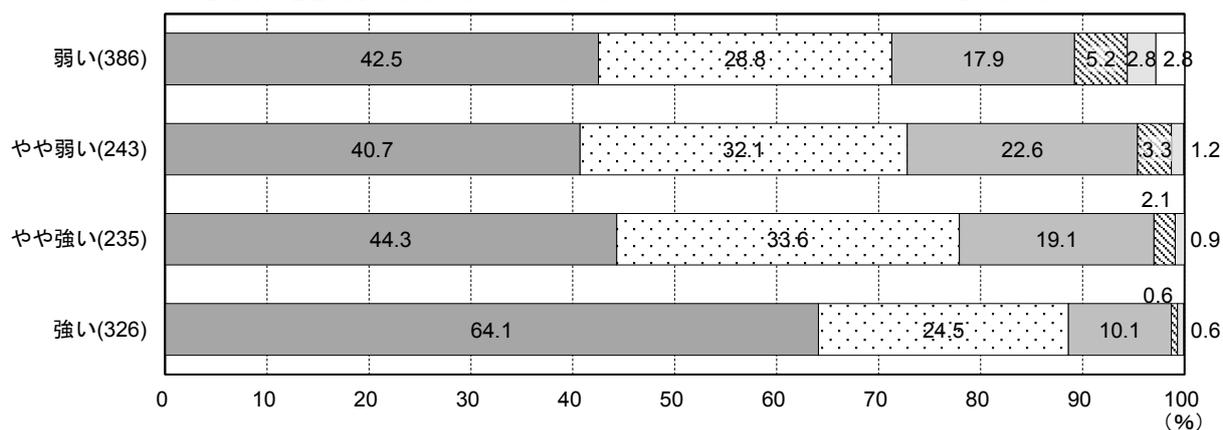
(仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う)

■とてもそう思う □そう思う □どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



(女子)

■とてもそう思う □そう思う □どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2054	0.1548
P値	0.0000	0.0000

表IV-22 社会関係性の強さの家族に対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

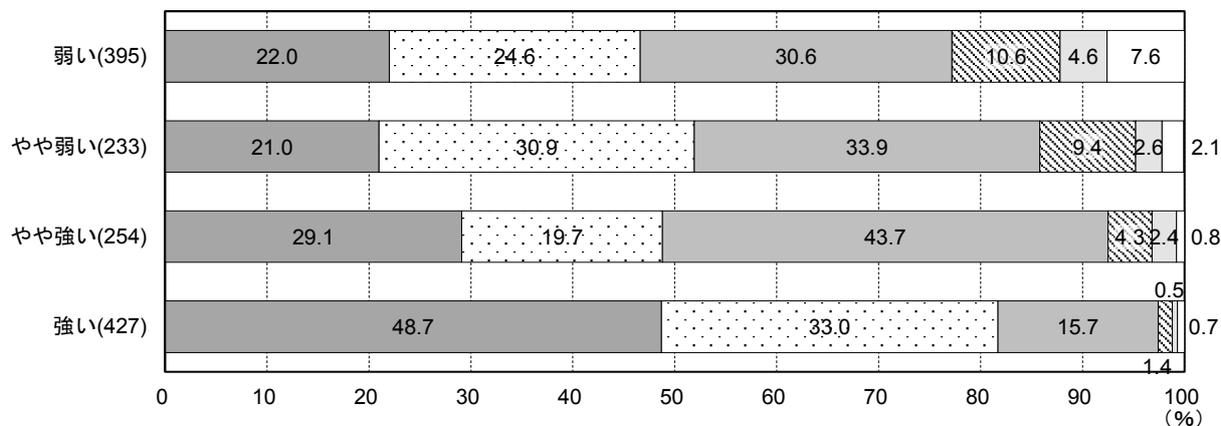
性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男子	681	72.1	27.9	2.58	628	56.4	43.6	1.29	2.00
女子	561	84.1	15.9	5.30	629	71.9	28.1	2.55	2.08

図IV-81 社会関係性の強さ別にみた子どもに対する感受性（単数）

(男子)

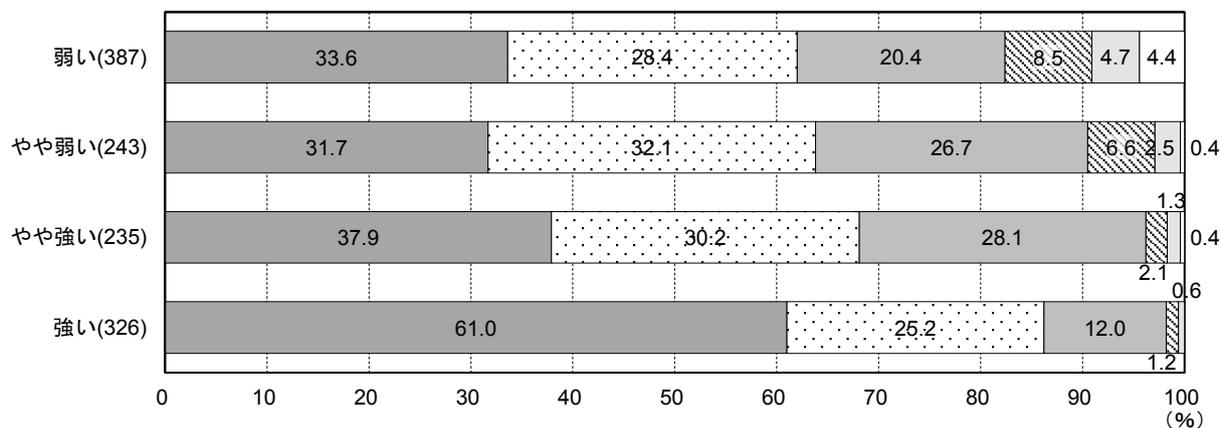
(小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う)

■とてもそう思う □そう思う □どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



(女子)

■とてもそう思う □そう思う □どちらかと言えばそう思う
 ▨どちらかと言えばそう思わない □そう思わない □まったくそう思わない



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.2292	0.1933
P値	0.0000	0.0000

表IV-23 社会関係性の強さの子どもに対する感受性への影響の強さ

(件、%、倍)

性別	社会関係性：強				社会関係性：弱				オッズ比
	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	N	積極的肯定	消極的肯定・否定	オッズ	
男子	681	69.5	30.5	2.27	628	48.6	51.4	0.94	2.41
女子	561	78.6	21.4	3.68	630	62.7	37.3	1.68	2.19

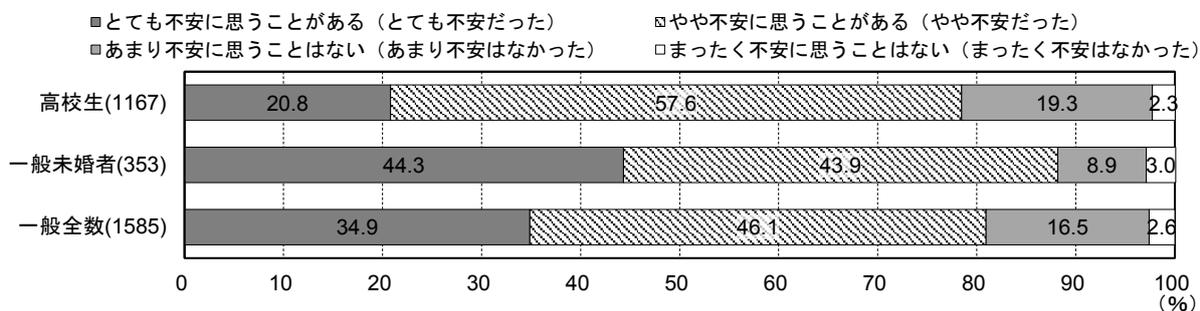
4. 妊娠・出産に関わる不安の影響

(1) 妊娠・出産に関わる不安

(女子の80%近くが何らかの不安を持っている)

身体への影響や医学面で妊娠・出産について不安に思うことがあるか女子に尋ねたところ、「とても不安に思うことがある」は21%であり、一般未婚者や一般全数に比べて少なくなっている(図IV-82)。ただし、「やや不安に思うことがある」は58%に上り、「不安に思うことがある」と合計すると一般全数とほぼ同じになる。一般全数に対して「やや不安」ととどまっている者が多い。

図IV-82 妊娠・出産に関する不安(女性、単数)

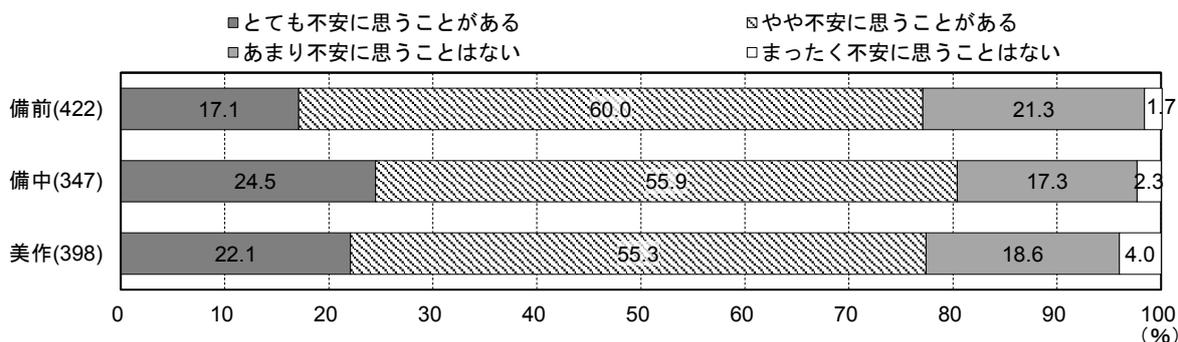


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

県民局別では、備前で「とても不安に思うことがある」が17%と少ないが、全体的には大きな差異はみられない(図IV-83)。

図IV-83 妊娠・出産に関する不安(女子、単数)



クラメールの連関係数	0.0733
P値	0.0508

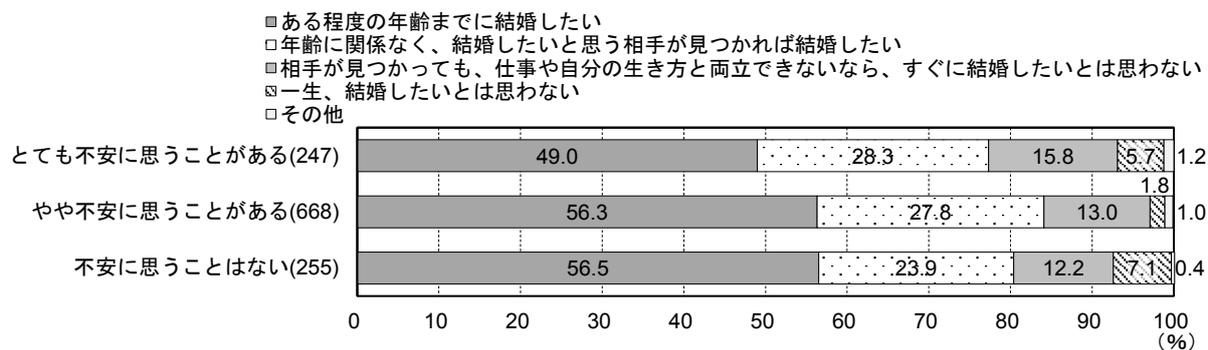
(2) 妊娠・出産に関する不安が及ぼす影響

①結婚意欲に対する影響

(不安が強くなるほど結婚意欲はやや弱くなる)

「まったく不安に思うことはない」を「あまり不安に思うことはない」を一つにして「不安に思うことはない」というグループを作成した。その上で、妊娠・出産に関する不安の程度を分析軸にして女子の結婚意欲の集計を行った。結果、緩やかであるものの、不安が強くなるほど結婚の年齢志向が少なくなる傾向がみられる(図IV-84)。

図IV-84 妊娠・出産に関する不安別にみた結婚意欲(女子、単数)



クラメールの連関係数	0.0976
P値	0.0044

不安の程度を「とても不安」と「やや不安・不安なし」の二区分にして、妊娠・出産に関する不安が結婚意欲に及ぼす影響の強さを算出した。「とても不安」が「やや不安・不安なし」になると「意欲強(年齢志向)」の出現率は1.3倍となる(表IV-24)。

表IV-24 妊娠・出産に関する不安の結婚意欲に対する影響の強さ(女子)
(件、%、倍)

妊娠・出産に関する不安：やや不安・不安なし			妊娠・出産に関する不安：とても不安				オッズ比
N	意欲強	意欲弱	N	意欲強	意欲弱	オッズ	
923	56.3	43.7	247	49.0	51.0	0.96	1.34

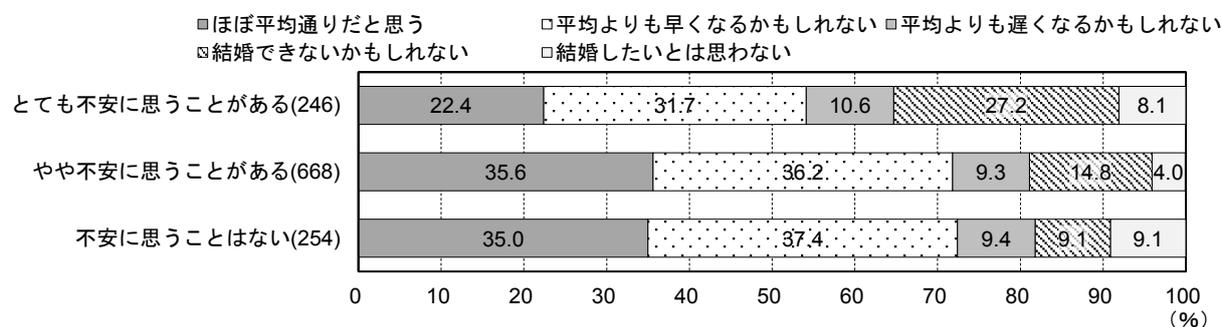
②結婚見通しに対する影響

(妊娠・出産に対する不安は結婚意欲より結婚の実現見通しに強く影響する)

妊娠・出産に関する不安の程度が増すにつれて、女子の結婚見通しのうち「結婚できないかもしれない」が、増加することが明らかである(図Ⅳ-85)。「とても不安に思うことがある」では「結婚できないかもしれない」は27%に上り、「ほぼ平均通り」は22%にとどまる。

「やや不安・不安なし」とあると、「とても不安」に対して結婚見通しの「平均的・平均より早まる」の出現率は2.2倍になると算出される。妊娠・出産に関する不安感は、女子の結婚見通しに対してかなり強い影響力を及ぼしている(表Ⅳ-25)。

図Ⅳ-85 妊娠・出産に関する不安別にみた結婚見通し(女子、単数)



クラメールの連関係数	0.0938
P値	0.0078

表Ⅳ-25 妊娠・出産に関する不安の結婚見通しに対する影響の強さ(女子)

(件、%、倍)

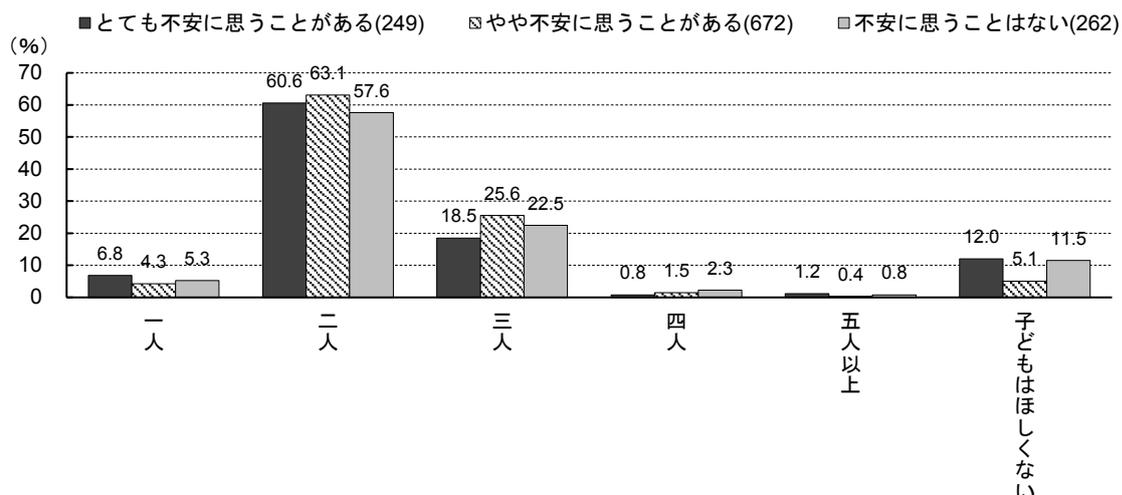
妊娠・出産に関する不安： やや不安・不安なし				妊娠・出産に関する不安： とても不安				オッズ比
N	平均的・早まる	遅くなる・非婚	オッズ	N	平均的・早まる	遅くなる・非婚	オッズ	
922	72.0	28.0	2.57	246	54.1	45.9	1.18	2.19

③理想の子ども数に対する影響

妊娠・出産に関する不安と理想の子ども数との関係は、「やや不安」では「三人」が26%であるのに対して、「とても不安」では19%にとどまる(図IV-86)。

「とても不安」に対して「やや不安・不安なし」では、「三人以上」の出現率は1.4倍と算出された(表IV-26)。

図IV-86 妊娠・出産に関する不安別にみた理想の子ども数(女子、単数)



クラメールの連関係数	0.1071
P値	0.0025

表IV-26 妊娠・出産に関する不安の理想の子ども数に対する影響の強さ(女子)

(件、%、倍)

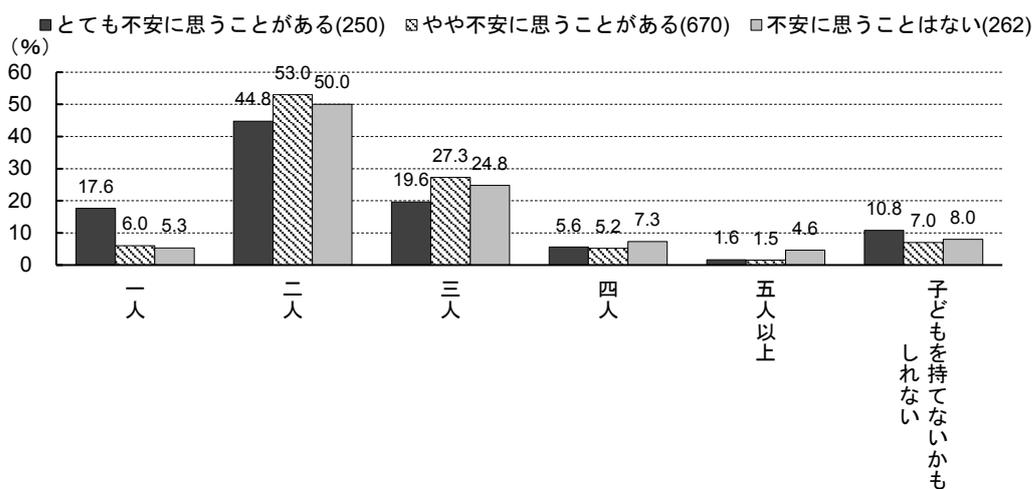
妊娠・出産に関する不安：やや不安・不安なし				妊娠・出産に関する不安：とても不安				オッズ比
N	三人以上	なし~二人	オッズ	N	三人以上	なし~二人	オッズ	
934	27.0	73.0	0.37	249	20.5	79.5	0.26	1.43

④現実に持てる子ども数に対する影響

妊娠・出産に関する不安の程度が「とても不安」であると、現実に持てる子ども数の「一人」が18%に達する。その分、「二人」が45%、「三人」が20%と他に比べて少なくなっている（図IV-87）。

「とても不安」に対して「やや不安・不安なし」では、「三人以上」の出現率は1.5倍と算出され、やや強い影響力がみられる（表IV-27）。

図IV-87 妊娠・出産に関する不安別にみた現実持てると思う子ども数（女子、単数）



クラメールの連関係数	0.1501
P値	0.0000

表IV-27 妊娠・出産に関する不安の現実に持てる子ども数に対する影響の強さ（女子）

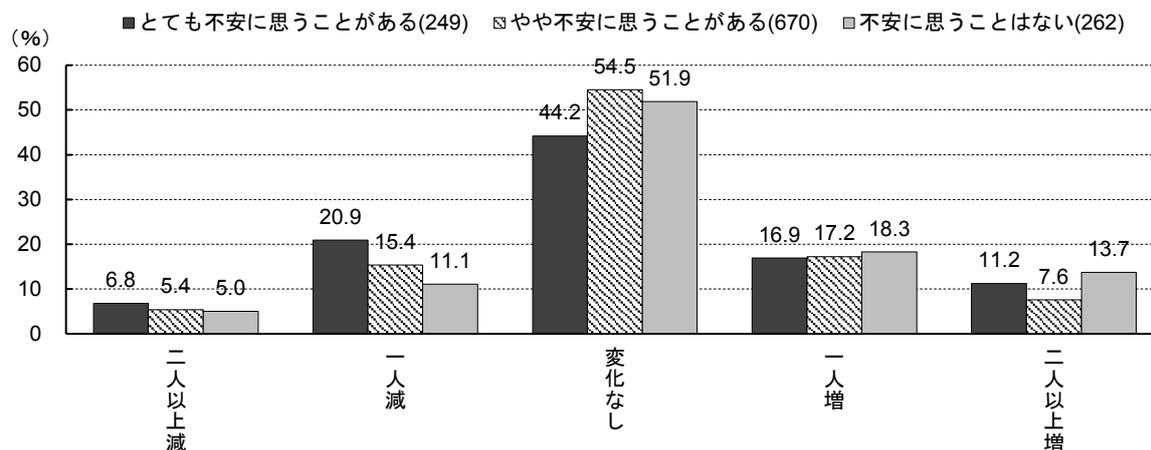
妊娠・出産に関する不安： やや不安・不安なし				妊娠・出産に関する不安：とても不安				オッズ比
N	三人以上	なし～ 二人	オッズ	N	三人以上	なし～ 二人	オッズ	
932	34.8	65.2	0.53	250	26.8	73.2	0.37	1.46

(件、%、倍)

(妊娠・出産に関する不安は子ども数の理想と現実の差に対して強い影響を与える)

「現実を持てる子ども数と理想の子ども数の差」に対して、妊娠・出産に関する不安がどのように関係するかをみると、不安の程度が強まると「一人減」が増える傾向が明らかである。「とても不安」では「一人減」が21%になる(図IV-88)。

図IV-88 妊娠・出産に関する不安別にみた理想の子ども数と現実を持てる子ども数との差(女子)



クラメールの連関係数	0.0848
P値	0.0127

「とても不安」であると、「やや不安・不安なし」に対して、現実を持てる子ども数と理想数の差の「変化なし・増加」の出現率は1.6倍となる。妊娠・出産に関する不安は、子ども数の理想と現実の差に対してやや強い影響力を持つとみられるものの、結婚の実現見通しへの影響力の方が強く表れている(表IV-28)。

表IV-28 妊娠・出産に関する不安の理想の子ども数と現実を持てる子ども数との差に対する影響の強さ(女子)

(件、%、倍)

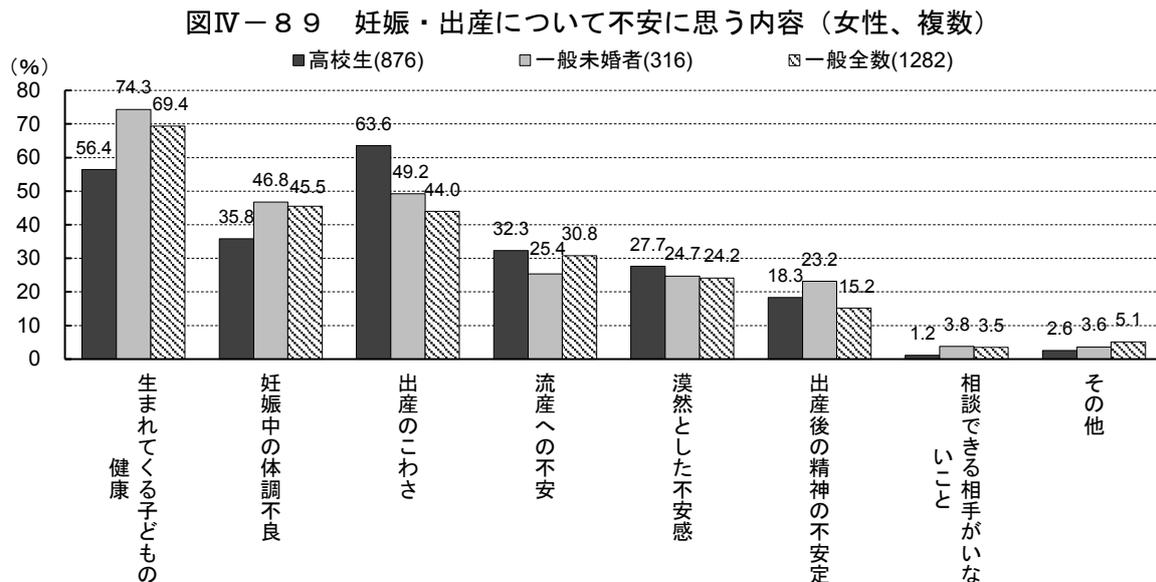
妊娠・出産に関する不安：やや不安・不安なし				妊娠・出産に関する不安：とても不安				オッズ比
N	変化なし・増加	減少	オッズ	N	変化なし・増加	減少	オッズ	
932	80.6	19.4	4.15	249	72.3	27.7	2.61	1.59

(3) 妊娠・出産に関する不安の内容

「出産のこわさ」が最も不安

妊娠・出産に関する不安の内容について高校生の特徴をみると、一般未婚者や一般全数に比較して「出産のこわさ」が64%と多くなっている(図IV-89)。

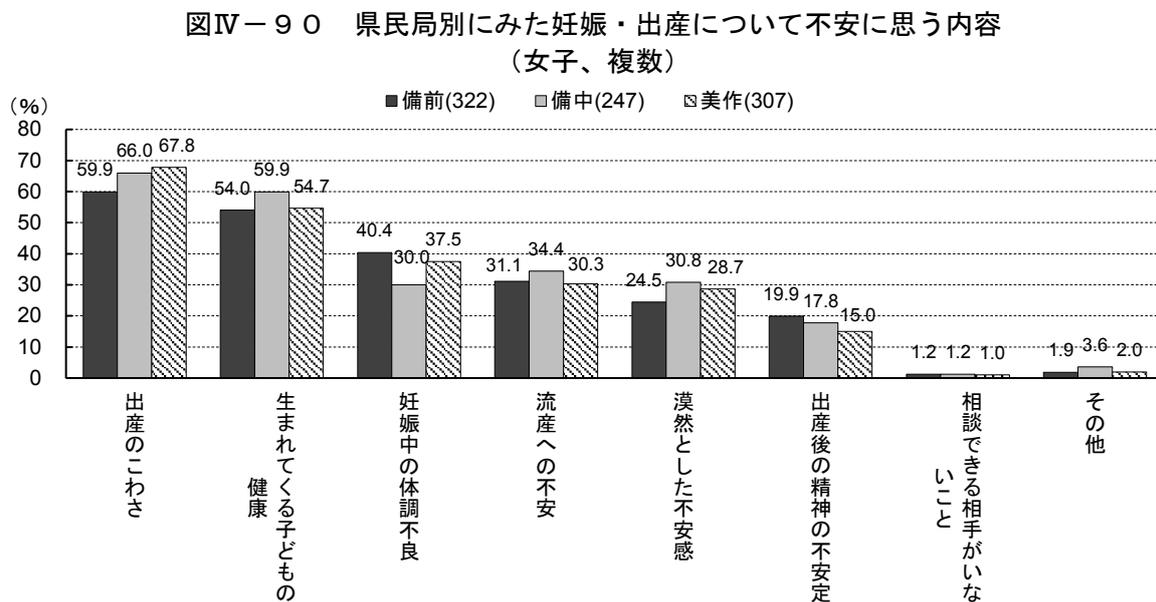
一方、「生まれてくる子どもの健康」や「妊娠中の体調不良」は、一般未婚者や一般全数よりも少ない。



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

県民局別にみると、「出産のこわさ」などに違いがみられるが、全体的には大きな差異はみられない(図IV-90)。



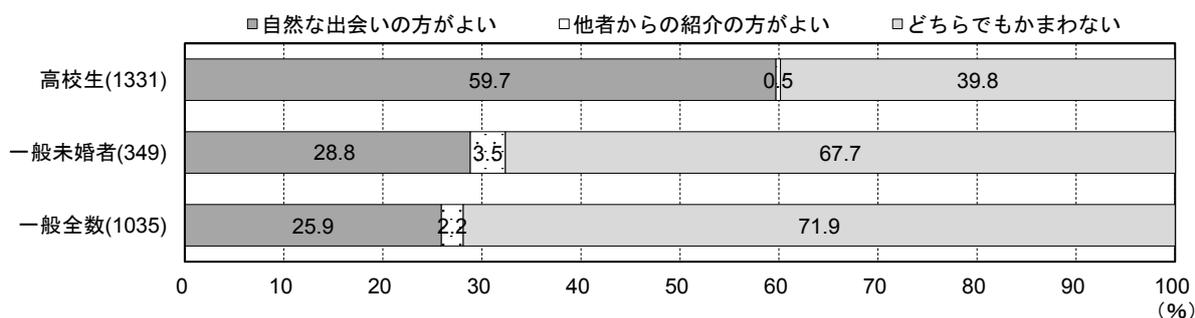
IV-3 初期アウトカム関連の集計・分析

1. 他者から紹介される結婚

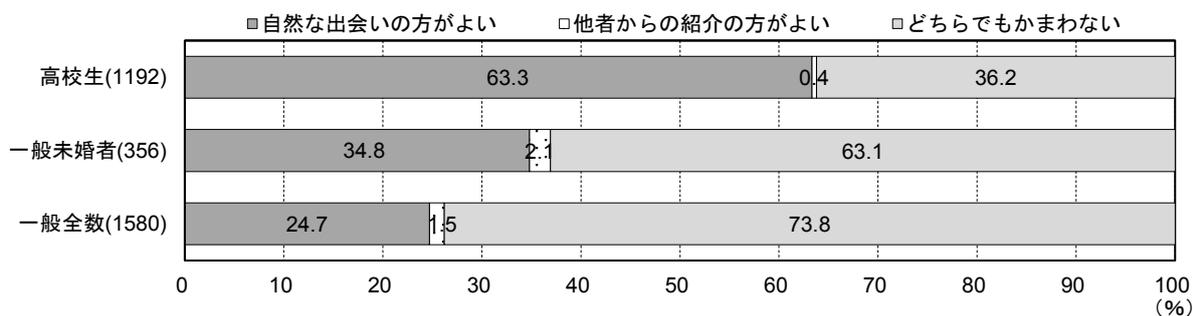
高校生に見合いや民間の結婚相談、公的な出会いづくりなど、他者から紹介される結婚についてどう思うか尋ねたところ、「自然な出会いの方がよい」が男子で60%、女子で63%となった(図IV-9 1)。一般未婚者や一般全数では男女とも同回答は20%~30%であることと比較すると、高校生は約2倍である。

図IV-9 1 他者から紹介される結婚について(単数)

(男性)



(女性)



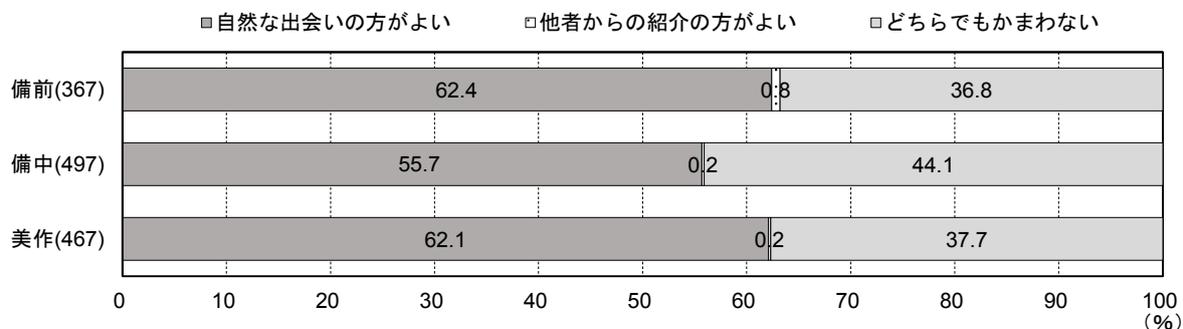
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

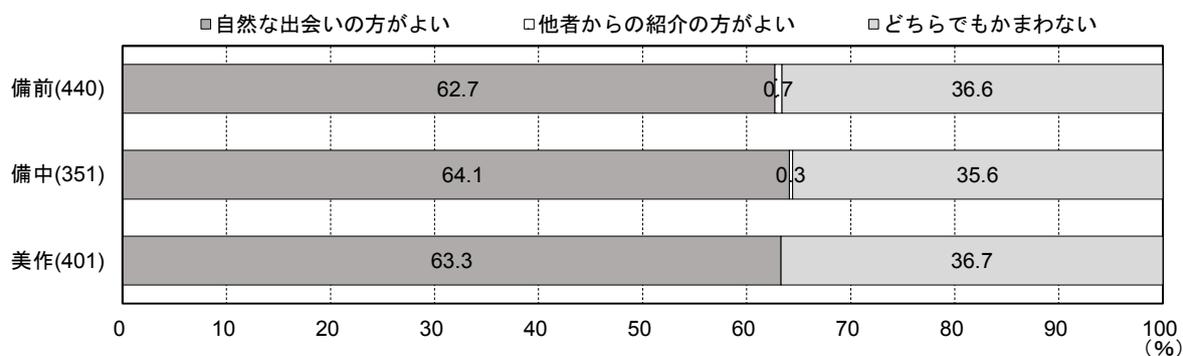
県民局では、備中の男子で「自然な出会いの方がよい」が他地域に比べて少なくなっているが大きな差異ではない(図IV-9 2)。女子では県民局別の違いはみられなかった。

図IV-9 2 県民局別にみた他者から紹介される結婚について(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0564	0.0359
P値	0.0076	0.5457

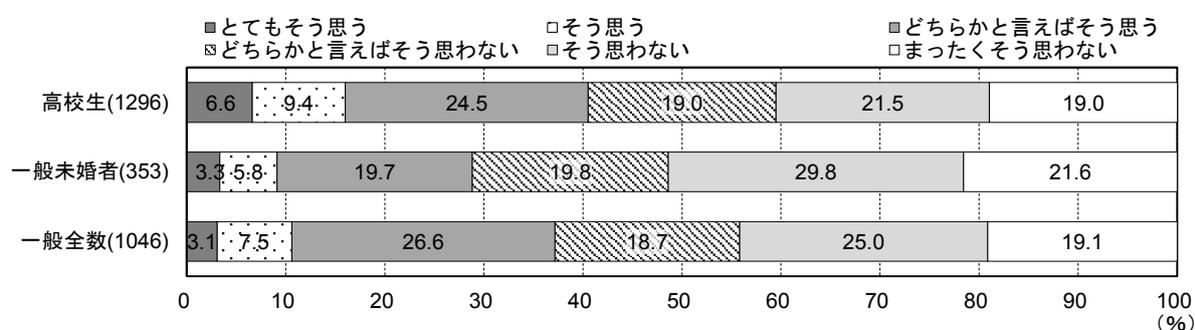
2. 男女の役割分担

(1) 伝統的な男女の役割分担意識

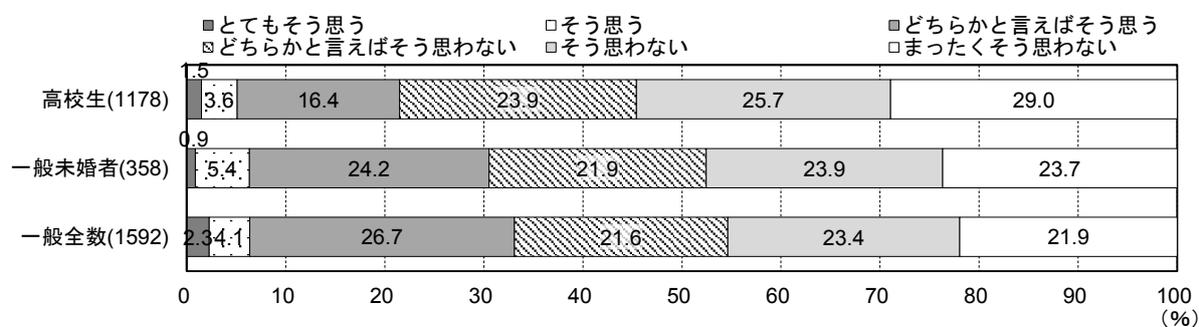
「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という伝統的な男女の役割分担意識を肯定する意見（そう思うの合計）は、男子で40%、女子22%である（図IV-93）。

男子の肯定的意見は一般未婚者や一般全数を上回り、女子では反対に一般未婚者や一般全数を大きく下回る。このため、高校生では、男女の役割分担意識に対する男女の差が大きくなっている。

図IV-93 「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について（単数）
（男性）



（女性）



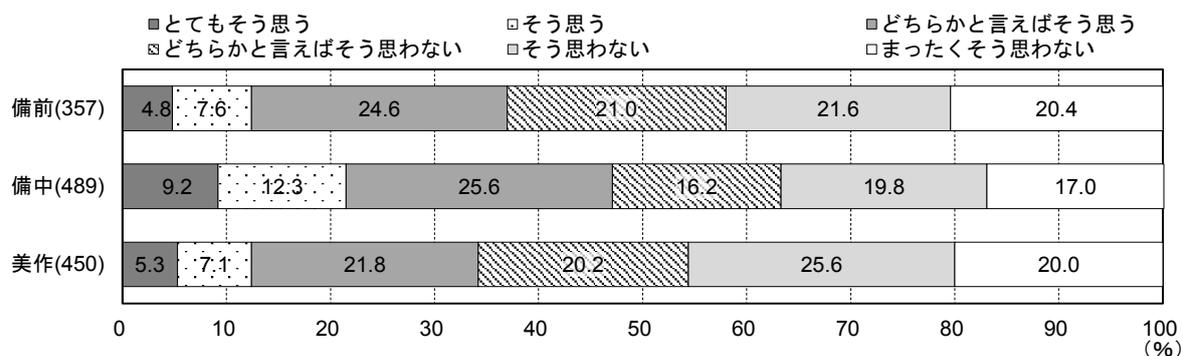
（注）それぞれ、県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

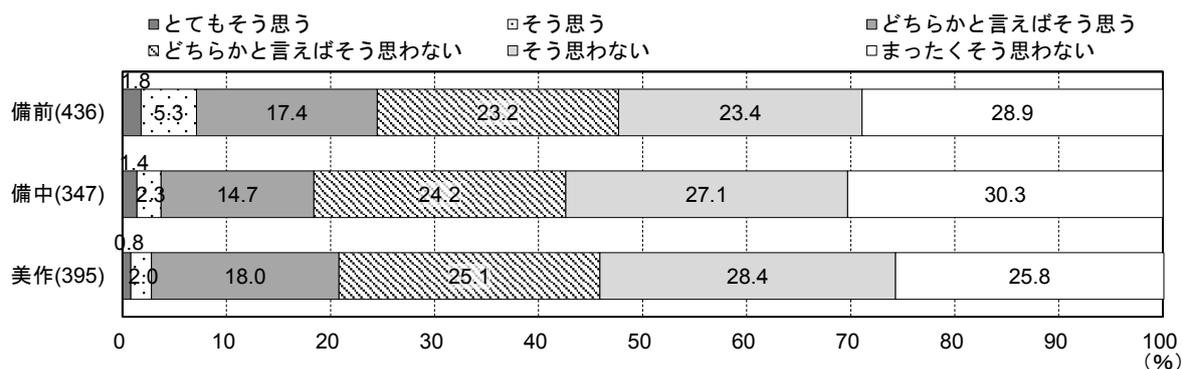
県民局別でみると、備中の男子で役割分担を肯定する意見が他地域に比べて多くなっている(図IV-94)。女子では大きな違いはみられない。

図IV-94 県民局別にみた「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.1002	0.0799
P値	0.0037	0.1301

(2) 結婚生活のための所得に関する自分の役割

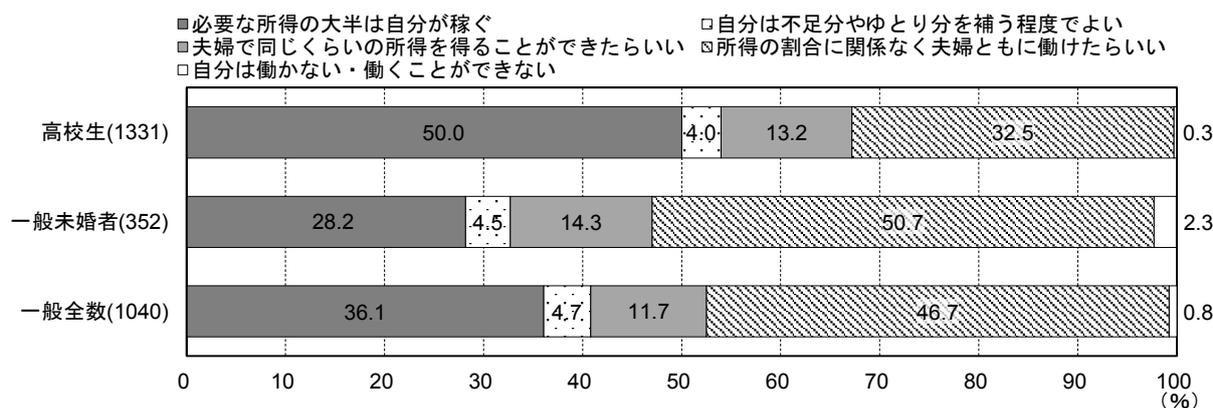
結婚生活のための所得について、高校生男子の半数が「必要な所得の大半は自分が稼ぐ(相手は働かなくてもいい)」としている。一般未婚者や一般全数の同回答を大きく上回り、その分「所得の割合に関係なく夫婦とも働けたらいい」が少なくなっている。また、先の伝統的な男女の役割分担意識よりも一般未婚者、一般全数との意識差が大きくなっている(図IV-95)。

一方、女子は「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」が21%であり、一般未婚者の34%、一般全数の40%を下回る。これによる一般未婚者や一般全数との差異は、「所得の割合に関係なく夫婦とも働けたらいい」ではなく「夫婦で同じくらい所得を得ることができたらいい」であり、男子と違いが表れている。

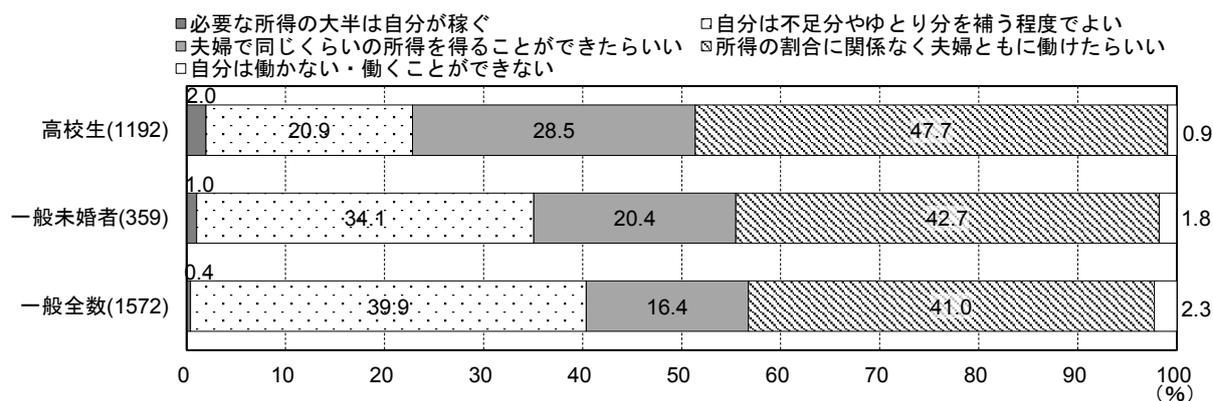
これらの結果、一般未婚者や一般全数に比べ、高校生は男女の意識差が大きくなっている。この意識差は、伝統的な男女の役割分担意識に増して大きい。

図IV-95 結婚生活のための所得に関する自分の役割(単数)

(男性)



(女性)



(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

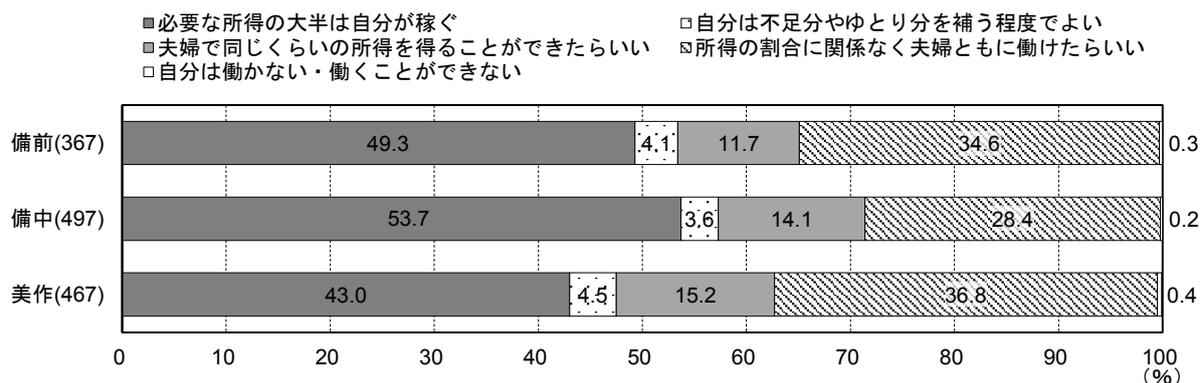
(県民局別の集計)

県民局別で集計すると、備中の男子で「必要な所得の大半は自分が稼ぐ」が多くなっている(図IV-96)。備中の男子で男女の役割分担意識を肯定する意見が多いことは、先の伝統的な役割分担意識と同様である。

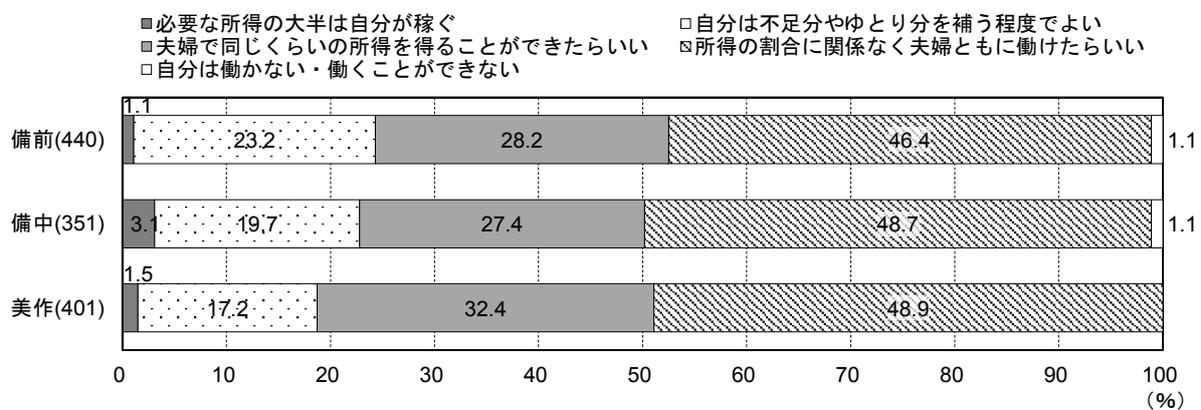
女子では、美作が他地域に比べ「自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい」が少なく、「夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい」が多くなっている。

図IV-96 結婚生活のための所得に関する自分の役割(単数)

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0725	0.0800
P値	0.0824	0.0540

3. ワーク・ライフ・バランス

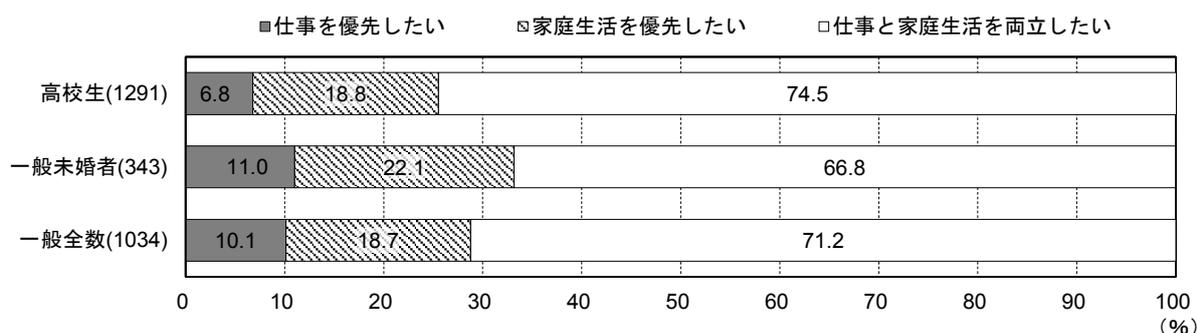
(1) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想

仕事と家庭生活のどちらを優先するかについて、理想を高校生に尋ねたところ、「仕事を優先したい」は男子では7%であり、一般未婚者の11%や一般全数の10%より少ない(図IV-97)。大きな差異はではないが、「仕事と家庭生活を両立したい」は一般未婚者や一般全数よりも多くなっている。

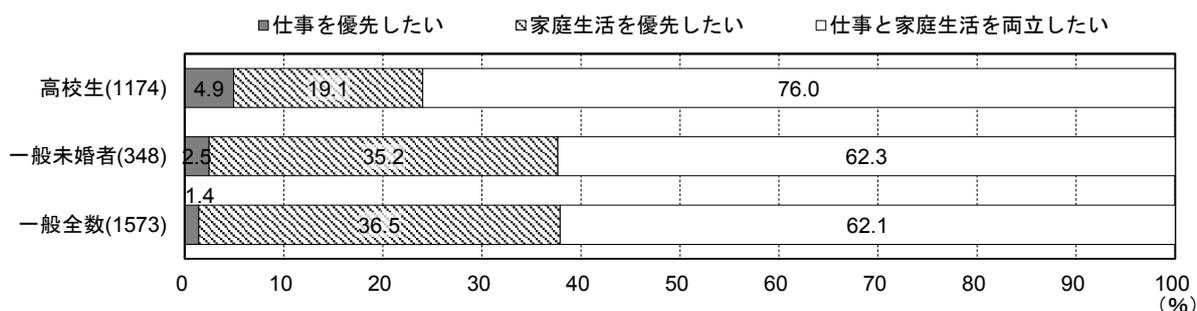
女子では、「仕事を優先したい」が5%あることに加え、「仕事と家庭生活を両立したい」が76%に達し、一般未婚者や一般全数に対して10ポイント多い。これらの結果、「家庭生活を優先したい」は19%にとどまり、高校生の大きな特徴になっている。

図IV-97 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度(理想、単数)

(男性)



(女性)

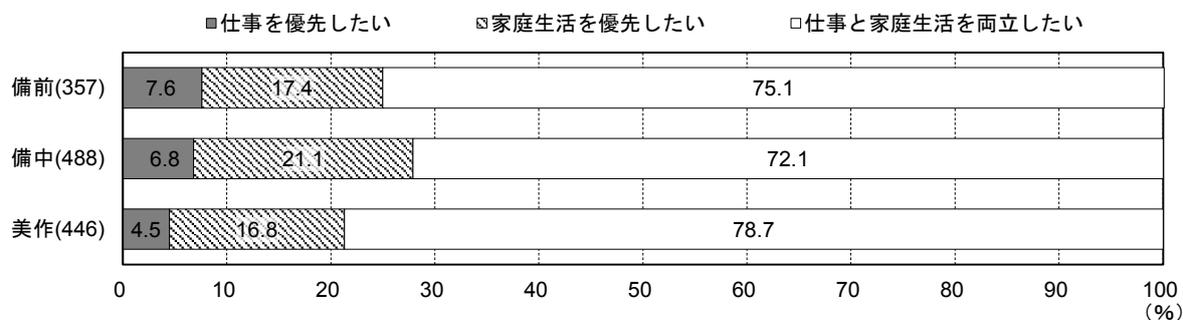


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

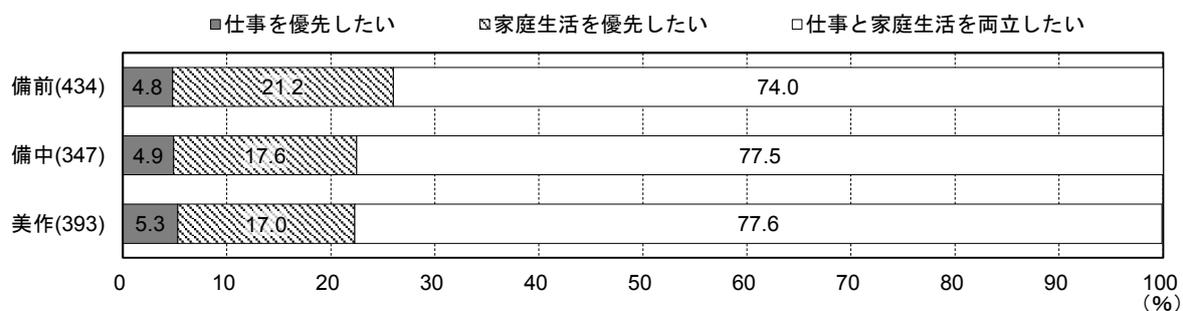
(県民局別の集計)

高校生が理想とする仕事と家庭生活の優先度について、県民局別で大きな差異はみられない(図IV-98)。

図IV-98 県民局別にみた結婚生活における仕事と家庭生活の優先度(理想、単数)
(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0538	0.0348
P値	0.1126	0.5857

(2) 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する現実の予想

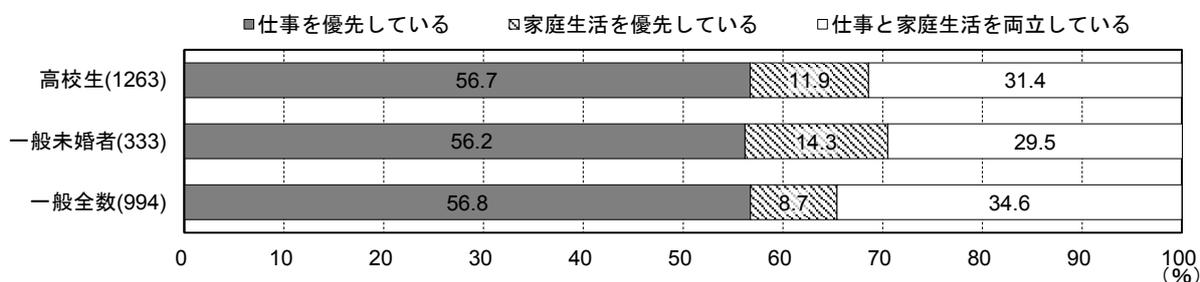
図IV-97の理想は別にして、結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する現実の予想を尋ねると、男子では「仕事を優先している」が57%であり、一般未婚者や一般全数とほぼ同じとなった(図IV-99)。

女子では回答の特徴であった「仕事と家庭生活を両立している」が38%であり、一般未婚者や一般全数と大差がない。結果として、一般未婚者や一般全数に比べて理想と現実の予想のギャップが大きくなっている。

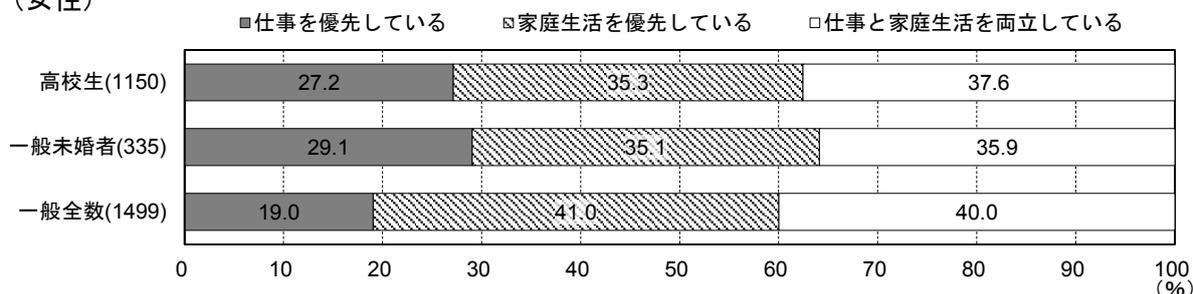
また、男女別に、理想と現実を比較する図を図IV-100に再掲した。

図IV-99 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度(現実の予想、単数)

(男性)



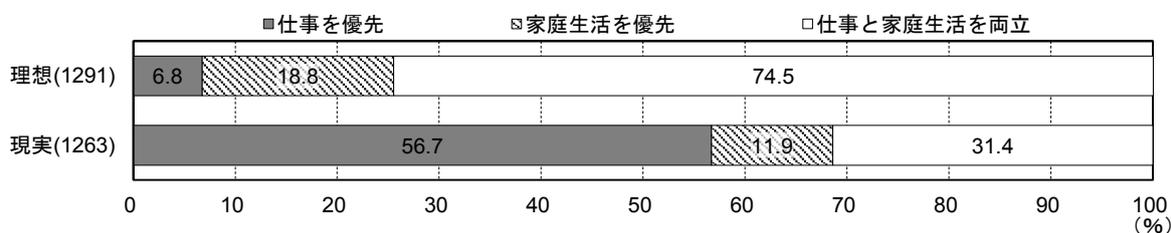
(女性)



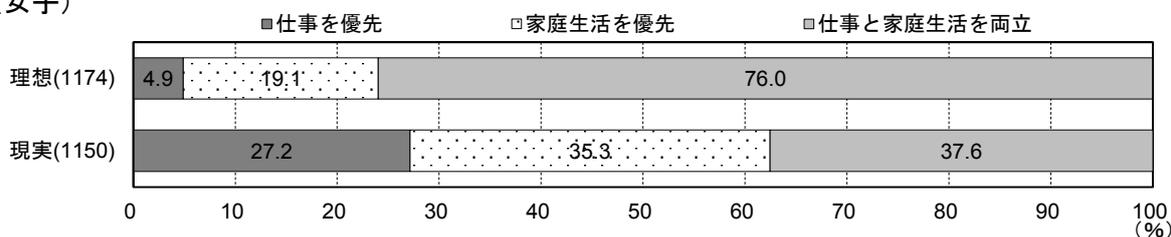
(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウエイトバック集計である

図IV-100 結婚生活における仕事と家庭生活の優先度に関する理想と現実(再掲)

(男子)



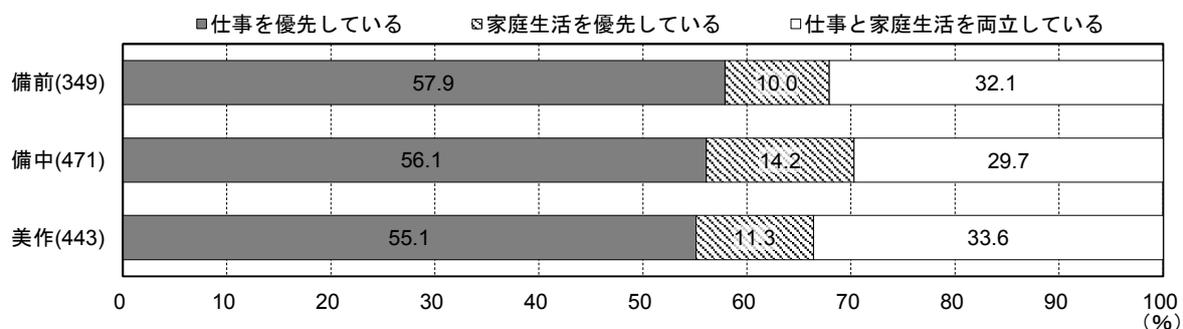
(女子)



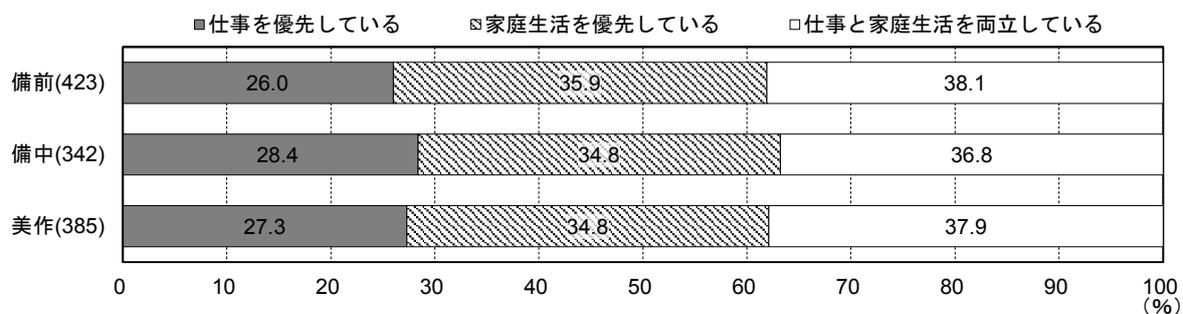
(県民局別の集計)

高校生の仕事と家庭生活の優先度に関する現実の予想は、県民局別で差異はみられない(図IV-101)。

図IV-101 県民局別にみた結婚生活における仕事と家庭生活の優先度(現実の予想、単数)(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0429	0.0158
P値	0.3258	0.9658

4. 妊娠・出産に関わる医学的知識

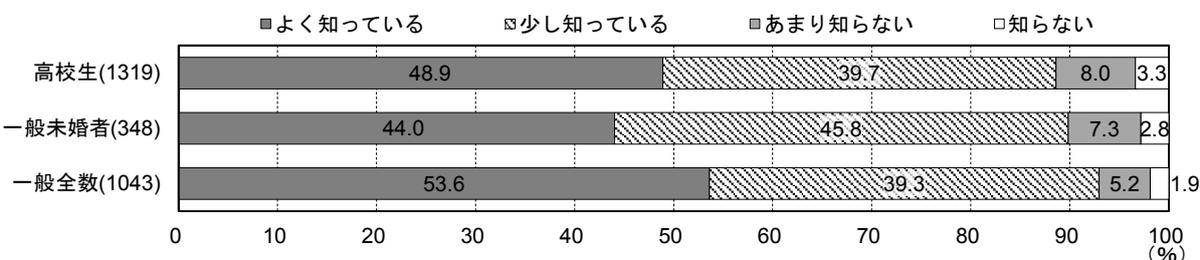
「①女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること」、「②男性の精子が年齢に伴い減少し、老化すること」「③不妊の原因が男性にある場合もあること」「④妊娠・出産に伴い女性の健康に様々なリスクがあること」の四つの妊娠・出産に関わる医学的知見の認知度を把握した。

結果、①、④の女性に関わることは「よく知っている」が男子より女子の方が多量のもの、女子は一般未婚者や一般全数との差が大きい(図IV-102、図IV-103)。反対に、②、③の男性に関わることは、「よく知っている」は男子の方が多量のが、女子は一般未婚者や一般全数との差が表れている。③については、男子でも、一般未婚者や一般全数と差異がある。

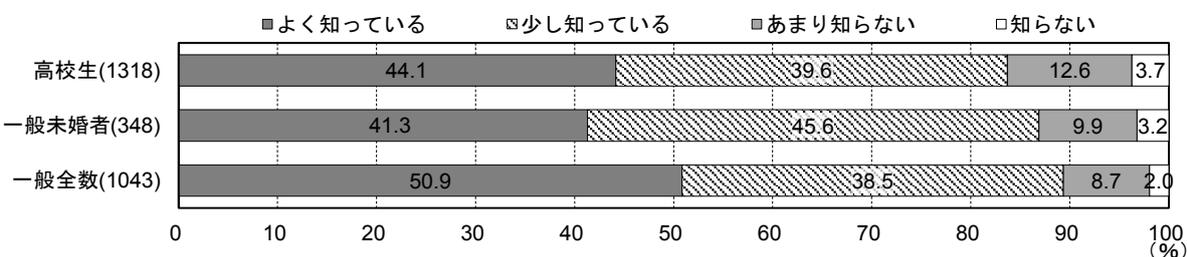
図IV-102 妊娠・出産に関する医学的知見の知識(単数)

(男性)

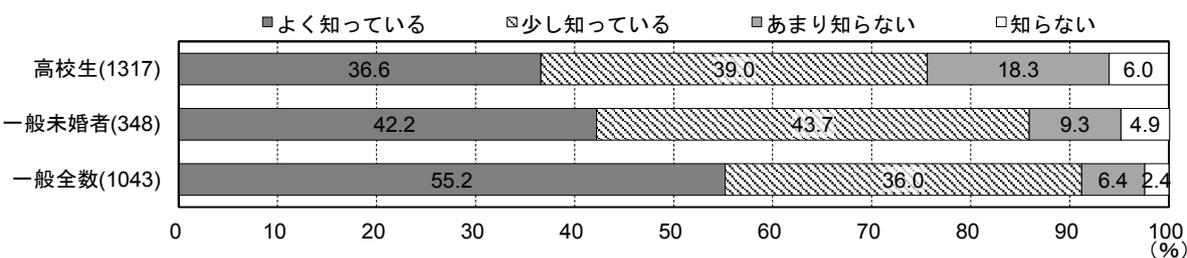
①女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること



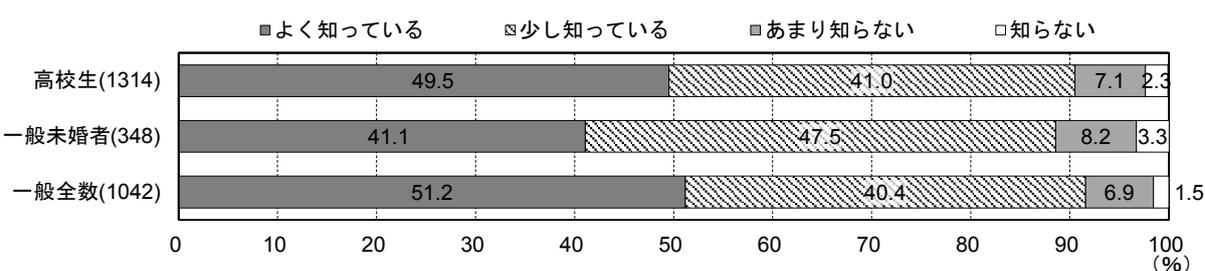
②男性の精子が年齢に伴い減少し、老化すること



③不妊の原因が男性にある場合もあること



④妊娠・出産に伴い女性の健康に様々なリスクがあること

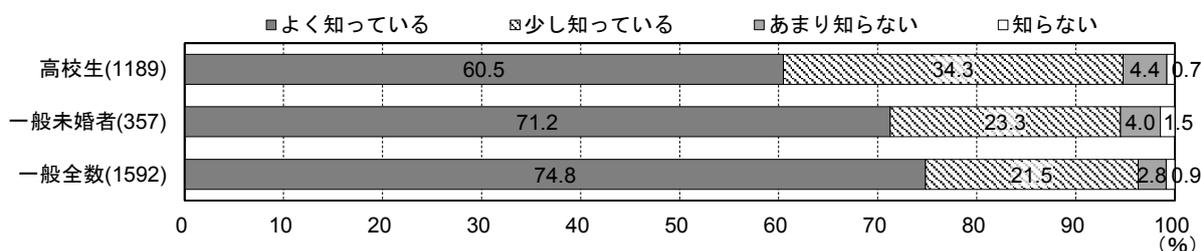


(注) それぞれ、県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

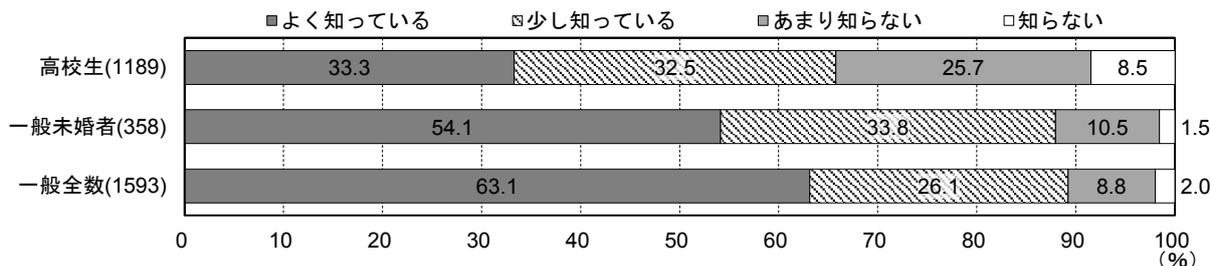
図IV－103 妊娠・出産に関わる医学的知見の知識（単数）

（女性）

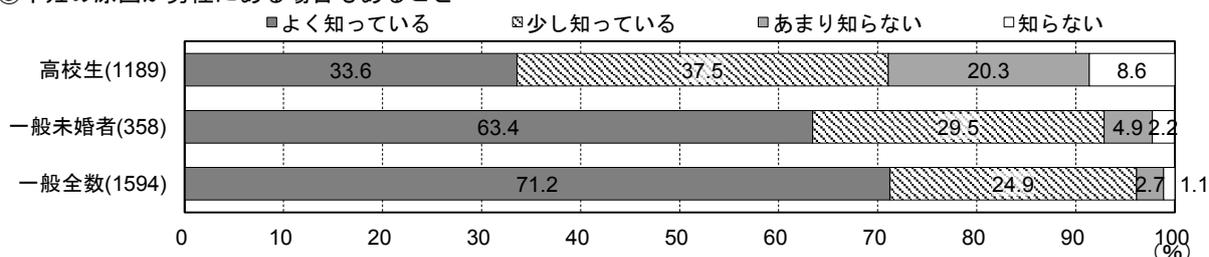
①女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること



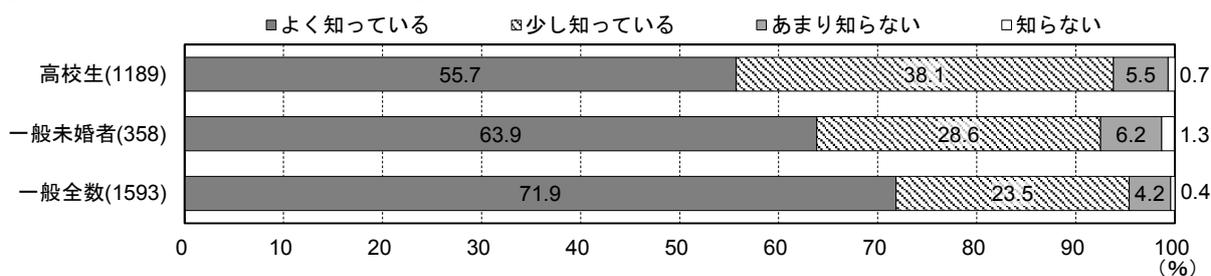
②男性の精子が年齢に伴い減少し、老化すること



③不妊の原因が男性にある場合もあること



④妊娠・出産に伴い女性の健康に様々なリスクがあること



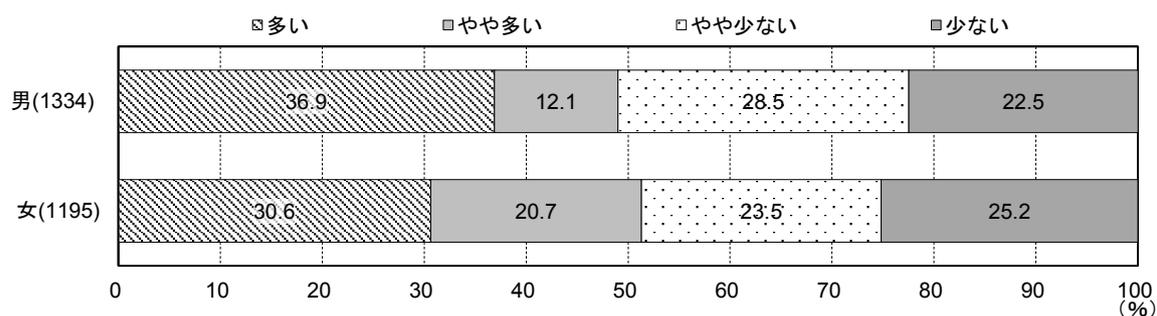
（注）それぞれ、県民局別の県立高校生数（二年生・三年生）、20-49歳未婚者人口、20-49歳人口によるウェイトバック集計である

(県民局別の集計)

県民局による差異をみるため、医学的知識の程度を、四つの項目を点数化して主成分分析により指標「妊娠・出産に関する医学的知識」を作成した(図IV-104)。男子の方が「多い」が多く、「やや多い」は女子に多い。四項目をまとめれば、総じて男女で「妊娠・出産に関する医学的知識」に差はないとみられる。

県民局別の集計では、備中の女子で「多い」「やや多い」が他地域に比べ多くなっている。男子では差異はみられない。

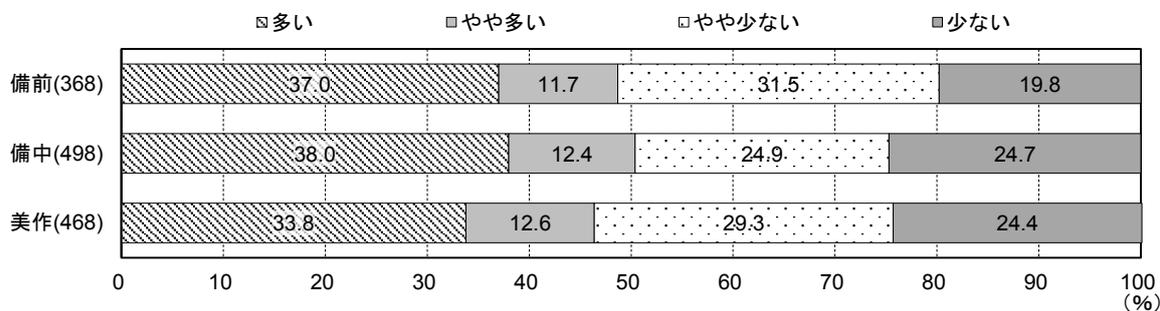
図IV-104 妊娠・出産に関する医学的知識



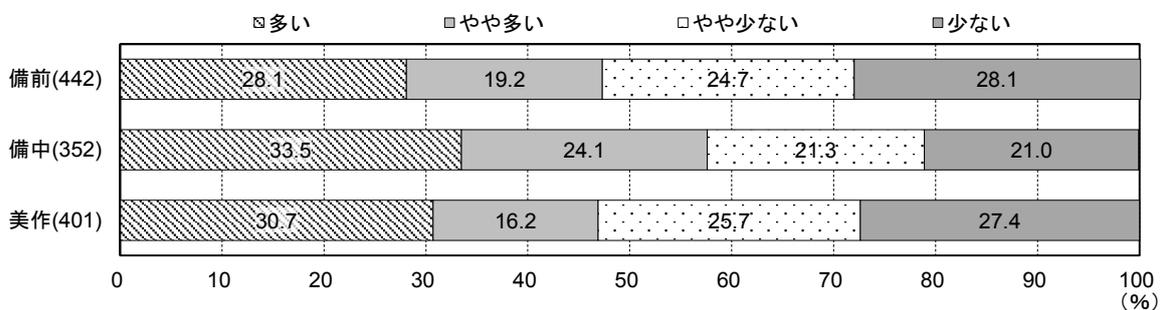
(注) 県民局別の県立高校生数(二年生・三年生)によるウェイトバック集計である

図IV-105 妊娠・出産に関する医学的知識

(男子)



(女子)



項目	男	女
クラメールの連関係数	0.0530	0.0766
P値	0.2775	0.0295

資 料

1. 回答者の属性

表IV-29 居住する市町村

(実数)

(人)

区分	全体	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市
男子	1356	277	327	214	28	47	17	24	8	5	15	12	29	139	31
女子	1216	351	219	180	33	49	16	13	1	9	12	21	18	134	17
合計	2,572	628	546	394	61	96	33	37	9	14	27	33	47	273	48

区分	浅口市	和气町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西栗倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	不明
男子	45	5	5	14	6	2	23	12	10	3	6	28	2	22
女子	19	6	5	14	7	2	21	9	10	2	5	21	1	21
合計	64	11	10	28	13	4	44	21	20	5	11	49	3	43

(構成比)

(%)

区分	全体	岡山市	倉敷市	津山市	玉野市	笠岡市	井原市	総社市	高梁市	新見市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	美作市
男子	100.0	20.4	24.1	15.8	2.1	3.5	1.3	1.8	0.6	0.4	1.1	0.9	2.1	10.3	2.3
女子	100.0	28.9	18.0	14.8	2.7	4.0	1.3	1.1	0.1	0.7	1.0	1.7	1.5	11.0	1.4
合計	100.0	24.4	21.2	15.3	2.4	3.7	1.3	1.4	0.3	0.5	1.0	1.3	1.8	10.6	1.9

区分	浅口市	和气町	早島町	里庄町	矢掛町	新庄村	鏡野町	勝央町	奈義町	西栗倉村	久米南町	美咲町	吉備中央町	不明
男子	3.3	0.4	0.4	1.0	0.4	0.1	1.7	0.9	0.7	0.2	0.4	2.1	0.1	1.6
女子	1.6	0.5	0.4	1.2	0.6	0.2	1.7	0.7	0.8	0.2	0.4	1.7	0.1	1.7
合計	2.5	0.4	0.4	1.1	0.5	0.2	1.7	0.8	0.8	0.2	0.4	1.9	0.1	1.7

表Ⅳ－30 世帯人数

(実数)

(人)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	不明
備前局	男子	368	-	12	46	141	84	33	9	2	-	-	-	41
	女子	498	1	4	56	169	114	44	34	3	1	-	-	72
備中局	男子	468	-	17	54	120	98	60	27	14	2	-	1	75
	女子	442	1	17	52	160	115	45	11	4	-	-	1	36
美作局	男子	352	5	14	34	122	82	44	14	5	-	-	1	31
	女子	401	1	18	34	96	107	60	28	11	1	-	2	43
不明	男子	22	-	-	1	3	3	-	-	-	-	-	-	15
	女子	21	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	18
県計	男子	1,210	5	43	135	386	267	137	50	21	2	-	2	162
	女子	1,362	3	39	142	426	338	149	73	18	2	-	3	169

(構成比)

(%)

区分		全体	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	不明
備前局	男子	100.0	-	3.3	12.5	38.3	22.8	9.0	2.4	0.5	-	-	-	11.1
	女子	100.0	0.2	0.8	11.2	33.9	22.9	8.8	6.8	0.6	0.2	-	-	14.5
備中局	男子	100.0	-	3.6	11.5	25.6	20.9	12.8	5.8	3.0	0.4	-	0.2	16.0
	女子	100.0	0.2	3.8	11.8	36.2	26.0	10.2	2.5	0.9	-	-	0.2	8.1
美作局	男子	100.0	1.4	4.0	9.7	34.7	23.3	12.5	4.0	1.4	-	-	0.3	8.8
	女子	100.0	0.2	4.5	8.5	23.9	26.7	15.0	7.0	2.7	0.2	-	0.5	10.7
不明	男子	100.0	-	-	4.5	13.6	13.6	-	-	-	-	-	-	68.2
	女子	100.0	-	-	-	4.8	9.5	-	-	-	-	-	-	85.7
県計	男子	100.0	0.4	3.6	11.2	31.9	22.1	11.3	4.1	1.7	0.2	-	0.2	13.4
	女子	100.0	0.2	2.9	10.4	31.3	24.8	10.9	5.4	1.3	0.1	-	0.2	12.4

表IV-31 世帯構成

(実数)

区分		全体	父親	母親	兄弟	姉妹	祖父	祖母	その他	不明
備前局	男子	368	313	359	202	153	45	60	5	2
	女子	498	438	478	295	222	75	124	16	1
備中局	男子	468	395	429	244	184	117	171	13	4
	女子	442	381	424	224	204	51	78	13	-
美作局	男子	352	299	343	191	169	58	82	9	-
	女子	401	335	386	215	189	110	147	20	3
不明	男子	22	8	8	3	5	-	1	-	14
	女子	21	2	1	1	1	1	1	-	18
県計	男子	1,210	1,015	1,139	640	511	220	314	27	20
	女子	1,362	1,156	1,289	735	616	237	350	49	22

(構成比)

区分		全体	父親	母親	兄弟	姉妹	祖父	祖母	その他	不明
備前局	男子	100.0	85.1	97.6	54.9	41.6	12.2	16.3	1.4	0.5
	女子	100.0	88.0	96.0	59.2	44.6	15.1	24.9	3.2	0.2
備中局	男子	100.0	84.4	91.7	52.1	39.3	25.0	36.5	2.8	0.9
	女子	100.0	86.2	95.9	50.7	46.2	11.5	17.6	2.9	-
美作局	男子	100.0	84.9	97.4	54.3	48.0	16.5	23.3	2.6	-
	女子	100.0	83.5	96.3	53.6	47.1	27.4	36.7	5.0	0.7
不明	男子	100.0	36.4	36.4	13.6	22.7	-	4.5	-	63.6
	女子	100.0	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	-	85.7
県計	男子	100.0	83.9	94.1	52.9	42.2	18.2	26.0	2.2	1.7
	女子	100.0	84.9	94.6	54.0	45.2	17.4	25.7	3.6	1.6

2. 調査票

岡山県統計調査 登録第 138 号

㊫統計法に基づく統計調査

岡山県の取り組みに生かします。

結婚、出産、子育てに関する高校生意識調査

【本調査について】

- 本調査は、岡山県内に在学する高校2年生と3年生にご協力をお願いしています。
- 本調査は、平成30年10月1日現在の状況をご回答ください。
- 本調査は、名前をご記入頂く必要はありません。本調査により個人を特定したり、個別の内容を公表することは決してありません。

【回答方法について】

- 本調査票を見ながら、パソコン、スマホ、タブレット等を使ってウェブによりご回答ください。また、本調査票に直接記入して、学校を通じて返送することもできます。
- 回答は数字を記入したり、選択肢を選んで頂くようになっています。ご自身のことに最も近いと思われる選択肢の番号をご回答ください。

【入力・返送方法について】

- 下記のURLから回答ページにアクセスされるか、QRコードによりアクセスしてください。

URL

<https://questant.jp/q/okayama-kodomomirai-koukou>

QRコード



- 本調査票にご記入頂いた場合は、学校の指示に従って返送してください。

- 平成30年11月21日(水)までにご回答くださるようお願いいたします。

【岡山県から委託を受けた調査実施機関(アンケート調査の回答・返送に関するお問い合わせ)】

公益財団法人中国地域創造研究センター

〒730-0041 広島県広島市中区小町4番33号中電ビル3号館

TEL 082-245-7900 (代表) FAX 082-245-7629

担当：中島、柴田

【調査主体】

岡山県保健福祉部子ども未来課 TEL 086-226-7347 (直通) 担当：梶谷、東

資料

問4 ご自身の結婚について理想と思う年齢がありますか。(○印は1つだけ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. おおよその理想がある (理想の年齢 _____ 歳) |
| 2. 特に理想はない |
| 3. 結婚したいとは思わない |

問5 日本人の平均初婚年齢(2017年)は夫31.1歳、妻29.4歳です。これと比べると、あなたが実際に結婚する場合の年齢についてどのように考えられますか。(○印は1つだけ)

- | |
|--------------------|
| 1. ほぼ平均通りだと思う |
| 2. 平均よりも早くなるかもしれない |
| 3. 平均よりも遅くなるかもしれない |
| 4. 結婚できないかもしれない |
| 5. 結婚したいとは思わない |

問6 **問5で3番もしくは4番に○印を付けられた方にお聞きします。**結婚が「平均よりも遅くなるかもしれない」「結婚できないかもしれない」という理由は、どのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 学業を優先したいから | 6. 結婚生活の所得面が不安だから |
| 2. 仕事を優先したいから | 7. 就職が不安だから |
| 3. 適当な相手に出会わないと思うから | 8. 出産・子育てが不安だから |
| 4. 異性とうまく付き合えないから | 9. その他() |
| 5. 結婚資金がかかるから | |

問7 見合い(親戚や上役などの紹介を含む)や民間の結婚相談、公的な出会いづくりなど、他者から紹介された結婚についてどのように考えられますか。(○印は1つだけ)

- | |
|-----------------|
| 1. 自然な出会いの方がよい |
| 2. 他者からの紹介の方がよい |
| 3. どちらでもかまわない |

問8 結婚したと想定すると、結婚生活のための所得について自分の役割をどのように考えられますか。(○印は1つだけ)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 必要な所得の大半は自分が稼ぐ(結婚相手は働かなくてもよい) |
| 2. 自分は不足分やゆとり分を補う程度でよい |
| 3. 夫婦で同じくらいの所得を得ることができたらいい |
| 4. 所得の割合に関係なく夫婦ともに働けたらいい |
| 5. 自分は働かない・働くことができない |

3. 子どもを持つことについて

問9 すべての方にお聞きします。子どもを持つなら何人が理想でしょうか。(○印は1つだけ)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. 一人 | 4. 四人 |
| 2. 二人 | 5. 五人以上 |
| 3. 三人 | 6. 子どもはほしくない |

問10 問9で1番～5番に○印を付けられた方にお聞きします。子どもがほしいと思われる理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | |
|--------------------|
| 1. 自然なことだから |
| 2. 子どもが好きだから |
| 3. 周囲に認められるから |
| 4. 生活が楽しく心が豊かになるから |
| 5. 老後の支えになるから |
| 6. 将来、社会の支えになるから |
| 7. 夫婦関係を安定させるから |
| 8. 好きな人の子どもを持ちたいから |
| 9. 周囲が望むなら |
| 10. その他 () |

問11 問9で1番もしくは6番に○印を付けられた方にお聞きします。子どもがほしくない、あるいはほしい子ども数が一人である理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 行動や生き方の自由が失われるから | 6. 現在の家族とのつながりが保ちにくくなるから |
| 2. 金銭的な裕福さが失われるから | 7. 妊娠・出産に対して自信がないから |
| 3. 住宅や住環境の選択の幅が小さくなるから | 8. 子育てに自信がないから |
| 4. 子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから | 9. あまり子どもが好きではないから |
| 5. 職業を持たず、社会とのつながりが保ちにくくなるから | 10. 子どもを持つ積極的な意味が見出せないから |
| | 11. 結婚したいと思わないから |
| | 12. その他 () |

問12 問9で3番～5番に○印を付けられた方にお聞きします。三人以上の子どもがほしいと思われる理由はどのようなことでしょうか。(○印はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1. 子どもが好きだから |
| 2. 兄弟姉妹は多い方がよいから |
| 3. 自分が三人以上の兄弟姉妹であるから |
| 4. 自分の回りに三人以上子どもを持つ人がいるから |
| 5. 男児と女児の両方がほしいから |
| 6. その他 () |

資料

問13 すべての方にお聞きします。理想とは別に、現実何人まで子どもを持てると思われますか。

(○印は1つだけ)

1. 一人	4. 四人
2. 二人	5. 五人以上
3. 三人	6. 子どもを持ってないかもしれない

問14 問13で回答された子ども数が理想の子ども数より少ない方にお聞きします。理想の子ども数より少ない理由はどのようなことでしょうか。(○印は3つまで)

1. 仕事と子育ての両立が難しそうだから	7. 就職に不安があるから
2. 妊娠・出産の肉体的・精神的な負担が大きそうだから	8. 住宅事情が厳しそうだから
3. 子育ての肉体的・精神的な負担が大きそうだから	9. 家事や子育ての協力者がいそうにな いから
4. 自分の健康上や身体的な理由から	10. 保育所に預けられそうにないから
5. 結婚が遅くなりそうだから	11. その他 ()
6. 経済的負担が大きそうだから	

4. あなたのライフコース（一生の間にたどる道筋）について

すべての方にお聞きします。

問15 あなたが希望するライフコースでは、どのようなことを重視されますか。他に比べて優先度が高いか低いかをご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	優先度はとて も高い	優先度は高い	どちらか と言え ば優先 度は高 い	どちらか と言え ば優先 度は低 い	優先度は低い	優先度はかなり低い
(1) 大学や大学院に進学し、高度な教育を受けること	1	2	3	4	5	6
(2) 専門的知識や高度な技能を生かせる仕事	1	2	3	4	5	6
(3) 経営者・起業家あるいは組織の中核での成功	1	2	3	4	5	6
(4) 仕事での新しい挑戦、先端分野での活躍	1	2	3	4	5	6
(5) 長く続けられる仕事を持つこと	1	2	3	4	5	6
(6) 経済的なゆとり	1	2	3	4	5	6
(7) 家族や子どもを持つこと	1	2	3	4	5	6
(8) 親や知人のいる生まれ育った地域で過ごすこと	1	2	3	4	5	6
(9) 暮らしの穏やかさ、生活の落ち着き	1	2	3	4	5	6
(10) 暮らしの面白さ、まちなぎやかさ	1	2	3	4	5	6
(11) 他者に左右されない自由な生き方	1	2	3	4	5	6

問16 いま暮らしている地域では、あなたが希望するライフコースを実現できると考えられますか。

(○印は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. とてもそう思う | 4. どちらかと言えばそう思わない |
| 2. そう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらかと言えばそう思う | 6. まったくそう思わない |

問17 いま暮らしている地域で、これからも住み続けたいと思われますか。(○印は1つだけ)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 住み続けたい | 4. どちらかと言えば移住したい |
| 2. どちらかと言えば住み続けたい | 5. 移住したい |
| 3. いまは移住したいが、将来は戻ってきたい | |

問18 問17で3番～5番に○印を付けられた方にお聞きします。高校卒業後(進学を希望する方は進学先卒業後)、移住するならばどこにしたいと思われますか。(○印は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 県内の都市部 | 6. 県外の農村部 |
| 2. 県内の農村部 | 7. 海外 |
| 3. 東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県) | 8. 進学先を卒業後はいま暮らしている地域に |
| 4. 関西圏(大阪府、京都府、奈良県、兵庫県) | 戻ってきたい |
| 5. 東京圏、関西圏を除く県外の都市部 | 9. その他() |

問19 問17のように考えられるのは、どのようなことを重視されるからでしょうか。(○印は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 働きたい仕事が見つかると思うから | 6. 広い住居が持てるから |
| 2. 親と同居・近居できるから | 7. 自然環境、静かさ等の生活環境が優れているから |
| 3. 商業等の生活利便性が高いから | 8. 持ち家が持てるから |
| 4. 産業や文化が多様で、刺激があるから | 9. いま暮らしている地域から移動したいから |
| 5. 防災、治安等の安全・安心面が優れているから | 10. いま暮らしている地域に友人・知人が多いから |
| | 11. その他() |

5. 男女の役割分担やワーク・ライフ・バランスについて

すべての方にお聞きします。

問20 「結婚したら夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思われますか。(○印は1つだけ)

- | |
|-------------------|
| 1. とてもそう思う |
| 2. そう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思う |
| 4. どちらかと言えばそう思わない |
| 5. そう思わない |
| 6. まったくそう思わない |

資料

問 2 1 結婚したときの家庭と仕事の優先度について理想をお聞かせください。また、理想とは別に、結婚したときの現実的な予想をご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

(1)理想	(2)現実的な予想
1. 仕事を優先したい	1. 仕事を優先している
2. 家庭生活を優先したい	2. 家庭生活を優先している
3. 仕事と家庭生活を両立したい	3. 仕事と家庭生活を両立している

6. 地域社会や身近な人のことについて

すべての方にお聞きします。

問 2 2 あなたが暮らしている地域や、あなたと地域との関わりについて、どのように考えられますか。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1)近所には信頼して相談できる友人・知人がいる	1	2	3	4	5	6
(2)伝統行事や町内会活動などが活発である	1	2	3	4	5	6
(3)スポーツ活動や趣味の活動が活発である	1	2	3	4	5	6
(4)地域活動で同年代の人とふれ合う機会が多い	1	2	3	4	5	6
(5)自分は近所で挨拶や立ち話をよくする	1	2	3	4	5	6
(6)自分は地域活動への参加に積極的である	1	2	3	4	5	6
(7)自分は地域の課題に関心がある	1	2	3	4	5	6
(8)自分はいま暮らしている地域に愛着がある	1	2	3	4	5	6

問 2 3 あなたの身近な人の結婚や子どものことについて、最も当てはまるものをご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1)両親や親戚に仲の良い夫婦がいる	1	2	3	4	5	6
(2)友人の両親や知人に仲の良い夫婦がいる	1	2	3	4	5	6
(3)小さい子どもとふれ合う機会がよくある	1	2	3	4	5	6
(4)身近に三人以上子どもを持つ夫婦が多い	1	2	3	4	5	6
(5)仲の良い夫婦を見ると幸せそうと思う	1	2	3	4	5	6
(6)小さい子どもを持つ夫婦を見ると幸せそうと思う	1	2	3	4	5	6

7. 妊娠・出産と健康について

問24 すべての方にお聞きします。妊娠・出産に関する次の医学的知見についてご存知ですか。

(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢			
	よく知っている	少し知っている	あまり知らない	知らない
(1) 女性の妊娠する力が年齢に伴い低下すること	1	2	3	4
(2) 男性の精子が、年齢に伴い減少し、老化すること	1	2	3	4
(3) 不妊の原因が男性にある場合もあること	1	2	3	4
(4) 妊娠・出産に伴い女性の健康に様々なリスクがあること	1	2	3	4

問25 女性の方にお聞きします。身体への影響や医学面で、妊娠・出産について不安に思うことはありますか。(○印は1つだけ)

1. とても不安に思うことがある
2. やや不安に思うことがある
3. あまり不安に思うことはない
4. まったく不安に思うことはない

問26 問25で1番あるいは2番に○印を付けられた女性の方にお聞きします。どのようなことが不安でしょうか。(○印は3つまで)

1. 妊娠中の体調不良	5. 出産後の精神の不安定
2. 出産のこわさ	6. 漠然とした不安感
3. 流産への不安	7. 相談できる相手がいないこと
4. 生まれてくる子どもの健康	8. その他 ()

問27 すべての方にお聞きします。最後に、結婚や子どもを持つことに関する次の意見について、どのように考えられるかご回答ください。(○印はそれぞれ1つだけ)

項目	選択肢					
	とてもそう思う	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	まったくそう思わない
(1) 結婚は、家族を持てるため重要である	1	2	3	4	5	6
(2) 子どもがいたら生活が楽しく豊かになる	1	2	3	4	5	6

— ご協力、誠にありがとうございました —

資料